

## 令和3年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

なかで

中台遺跡（第2次）

なかで

中台遺跡（第3次）

なかで

中台遺跡（第4次）

こおりもと

郡本遺跡群（第26次）

こおりもと

郡本遺跡群（第27次）

こおりもと

いちはらじょう

郡本遺跡群（第28次）・市原城跡

かつまりゅうしょういんがよう

勝間龍性院瓦窯跡

しょうじまえ

小路前遺跡

ちぐさやまはいじ

ちぐさやま

千草山廃寺跡・千草山遺跡（第4地点）

2022

市原市教育委員会



## 例 言

- 1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下のとおりである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。

(1) 中台遺跡(第2次)(調査コードセ582)

確認調査132㎡/1,324.98㎡

調査期間: 令和2年12月8日～令和2年12月25日 担当 中野喬介

(2) 中台遺跡(第3次)(調査コードセ586)

本調査78.3㎡

調査期間: 令和3年5月12日～令和3年6月17日 担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

(3) 中台遺跡(第4次)(調査コードセ591)

本調査63㎡

調査期間: 令和3年9月10日～令和3年9月28日 担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

(4) 郡本遺跡群(第26次)(調査コードセ583)

本調査86.88㎡

調査期間: 令和3年2月8日～令和3年2月25日 担当 小川浩一

(5) 郡本遺跡群(第27次)(調査コードセ588)

本調査63.74㎡

調査期間: 令和3年7月6日～令和3年7月28日 担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

(6) 郡本遺跡群(第28次)・市原城跡(調査コードセ594)

確認調査49.9㎡/499.87㎡

調査期間: 令和3年11月26日～令和3年12月10日 担当 小川浩一

(7) 勝間龍性院瓦窯跡(調査コードセ584)

確認調査3.7㎡/37㎡

調査期間: 令和3年3月15日～令和3年3月17日 担当 浅野健太

(8) 小路前遺跡(調査コードセ585)

確認調査16.8㎡/168.01㎡ 本調査52.16㎡

調査期間: 令和3年4月12日～令和3年4月13日(確認調査)

担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

調査期間: 令和3年4月13日～令和3年4月26日(本調査)

担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

(9) 千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)(調査コードセ587)

確認調査85.4㎡/853.73㎡

調査期間: 令和3年6月18日～令和3年7月2日 担当 小川浩一・石川 蒼・鈴木宏和

- 4 整理作業・本文執筆は(7)を浅野が行い、それ以外及び編集は小川が担当した。
- 5 各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは中台遺跡(第2次)、中台遺跡(第3次)、郡本遺跡群(第26次)、郡本遺跡群(第28次)・市原城跡及び千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)である。他の遺跡については、遺跡近隣の市原市管理の既知点から座標値及び水準を求めて使用している。
- 6 中台遺跡(第2次)、郡本遺跡群(第26次)及び勝間龍性院瓦窯跡は、前年度の調査であるが年度後半であったため、今年度の整理・報告とした。また、今年度は北六原遺跡(調査コードセ595)の調査も実施したが、整理期間がとれないため次年度の報告とする。
- 7 遺物写真図版の縮尺は、基本的に実測図に準じる。
- 8 中台遺跡(第2～4次)の出土瓦観察表に記載している4隅の分類については、「上総国分僧寺跡Ⅱ」(市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第36集・上総国分寺台遺跡調査報告XXVⅡ)の分類方法に準拠している。
- 9 座標値は世界測地系に基づきm単位で表示している。

## 本文目次

1	調査遺跡の位置と概要	1
2	中台遺跡(第2次)	3
3	中台遺跡(第3次)	13
4	中台遺跡(第4次)	29
5	郡本遺跡群(第26次)	36
6	郡本遺跡群(第27次)	43
7	郡本遺跡群(第28次)・市原城跡	48
8	勝間龍性院瓦窯跡	52
9	小路前遺跡	58
10	千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)	64

## 挿図目次

第1図	調査遺跡位置図	2
第2図	中台遺跡(第2・3・4次)周辺地形図	3
第3図	中台遺跡(第2次)平面図・断面図(1)	4
第4図	中台遺跡(第2次)断面図(2)	5
第5図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(1)	7
第6図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(2)	8
第7図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(3)	9
第8図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(4)	10
第9図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(5)	11
第10図	中台遺跡(第2次)遺物実測図(6)	12
第11図	中台遺跡(第3次)平面図	14
第12図	中台遺跡(第3次)東カマド平面図・断面図(1)	15
第13図	中台遺跡(第3次)断面図(2)	16
第14図	中台遺跡(第3次)断面図(3)	17
第15図	中台遺跡(第3次)断面図(4)	18
第16図	中台遺跡(第3次)断面図(5)	19
第17図	中台遺跡(第3次)断面図(6)	20
第18図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(1)	22
第19図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(2)	23
第20図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(3)	24
第21図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(4)	25
第22図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(5)	26
第23図	中台遺跡(第3次)遺物実測図(6)	27

第 24 図	中台遺跡(第 3 次)遺物実測図(7)……………	28
第 25 図	中台遺跡(第 4 次)平面図……………	30
第 26 図	中台遺跡(第 4 次)断面図(1)……………	31
第 27 図	中台遺跡(第 4 次)断面図(2)……………	32
第 28 図	中台遺跡(第 4 次)遺物実測図(1)……………	33
第 29 図	中台遺跡(第 4 次)遺物実測図(2)……………	34
第 30 図	郡本遺跡群(第 26・27・28 次)周辺地形図……………	37
第 31 図	郡本遺跡群(第 26 次)遺構配置図……………	38
第 32 図	郡本遺跡群(第 26 次)平面図……………	39
第 33 図	郡本遺跡群(第 26 次)断面図……………	40
第 34 図	郡本遺跡群(第 26 次)遺物実測図(1)……………	41
第 35 図	郡本遺跡群(第 26 次)遺物実測図(2)……………	42
第 36 図	郡本遺跡群(第 27 次)全体図……………	44
第 37 図	郡本遺跡群(第 27 次)平面図……………	45
第 38 図	郡本遺跡群(第 27 次)断面図(1)……………	46
第 39 図	郡本遺跡群(第 27 次)断面図(2)・遺物実測図……………	47
第 40 図	郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡 平面図……………	49
第 41 図	郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡 断面図……………	50
第 42 図	郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡 遺物実測図……………	51
第 43 図	勝間龍性院瓦窯跡 周辺地形図……………	53
第 44 図	勝間龍性院瓦窯跡 断面図(1)・平面図……………	54
第 45 図	勝間龍性院瓦窯跡 断面図(2)・遺物実測図(1)……………	55
第 46 図	勝間龍性院瓦窯跡 遺物実測図(2)……………	56
第 47 図	小路前遺跡 周辺地形図……………	58
第 48 図	小路前遺跡 全体図……………	59
第 49 図	小路前遺跡 平面図・断面図(1)……………	60
第 50 図	小路前遺跡 断面図(2)……………	61
第 51 図	小路前遺跡 断面図(3)……………	62
第 52 図	小路前遺跡 遺物実測図……………	63
第 53 図	千草山廃寺跡・千草山遺跡(第 4 地点) 周辺地形図……………	64
第 54 図	千草山廃寺跡・千草山遺跡(第 4 地点) 平面図・遺物実測図……………	65

## 表 目 次

第 1 表	出土遺物観察表……………	66 ~ 76
-------	--------------	---------

## 図 版 目 次

図版 1	遺構	中台遺跡(第 2 次)/中台遺跡(第 3 次)
図版 2	遺構	中台遺跡(第 3 次)/中台遺跡(第 4 次)
図版 3	遺構	中台遺跡(第 4 次)/郡本遺跡群(第 26 次)
図版 4	遺構	郡本遺跡群(第 27 次)/郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡
図版 5	遺構	郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡/勝間龍性院瓦窯跡
図版 6	遺構	小路前遺跡/千草山廃寺跡・千草山遺跡(第 4 地点)
図版 7	遺物	中台遺跡(第 2 次)/中台遺跡(第 3 次)
図版 8	遺物	中台遺跡(第 3 次)/中台遺跡(第 4 次)/郡本遺跡群(第 26 次)/ 郡本遺跡群(第 27 次)/郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡
図版 9	遺物	中台遺跡(第 2 次)/小路前遺跡
図版 10	遺物	中台遺跡(第 2 次)
図版 11	遺物	中台遺跡(第 2 次)/中台遺跡(第 3 次)
図版 12	遺物	中台遺跡(第 3 次)
図版 13	遺物	中台遺跡(第 3 次)
図版 14	遺物	中台遺跡(第 3 次)/中台遺跡(第 4 次)
図版 15	遺物	中台遺跡(第 4 次)/郡本遺跡群(第 26 次)
図版 16	遺物	郡本遺跡群(第 26 次)/郡本遺跡群(第 27 次)/ 郡本遺跡群(第 28 次)・市原城跡
図版 17	遺物	勝間龍性院瓦窯跡
図版 18	遺物	小路前遺跡/千草山廃寺跡・千草山遺跡(第 4 地点)



# 1 調査遺跡の位置と概要

令和3年度は、中台遺跡(第3次)及び(第4次)、郡本遺跡群(第27次)及び(第28次)・市原城跡、小路前遺跡、千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)、北六原遺跡の7地点の発掘調査を行った。調査遺跡は北部が6か所、南部が1か所であり、調査原因は個人住宅建設が5件、建売住宅建設が1件、その他の開発が1件である。

本書では今年度に調査した4遺跡6地点に加えて、令和2年度後半に調査した中台遺跡(第2次)、郡本遺跡群(第26次)及び勝間龍性院瓦窯跡の成果についても掲載した(第1図)。令和3年度末に調査を行った北六原遺跡については、来年度の整理報告対象とする。

中台遺跡(第2～4次)は、東京湾に面する旧海岸線を西方約4kmの位置に望む標高26m前後の台地上に位置する。これまで昭和40～50年代を中心に、国分寺台地区区画整理事業に伴う発掘調査が行われており、弥生時代後期から古墳時代前期にわたる多くの竪穴建物跡が検出されている。周囲には、神門3～5号墳が存在しており、それを形成した母村としての位置付けも考えられている。また、今回の調査区は、上総国分僧寺跡に西隣しており、これに関連する遺構の存在が想定された。

郡本遺跡群(第26次)、同(第27次)、及び同(第28次)・市原城跡は、東京湾に面する海岸平野を西方約1kmの位置に望む標高22～25m前後の台地上に位置する。

周辺の調査では、国道297号線の西側部分において、大規模な掘立柱建物跡の柱穴が検出されている(田中2011)。光善寺廃寺跡周辺を含む一帯は、上総国府推定地の有力な選択肢のひとつとして指摘されており、特に第28次調査区では、これに関連する遺構の存在が考えられた。

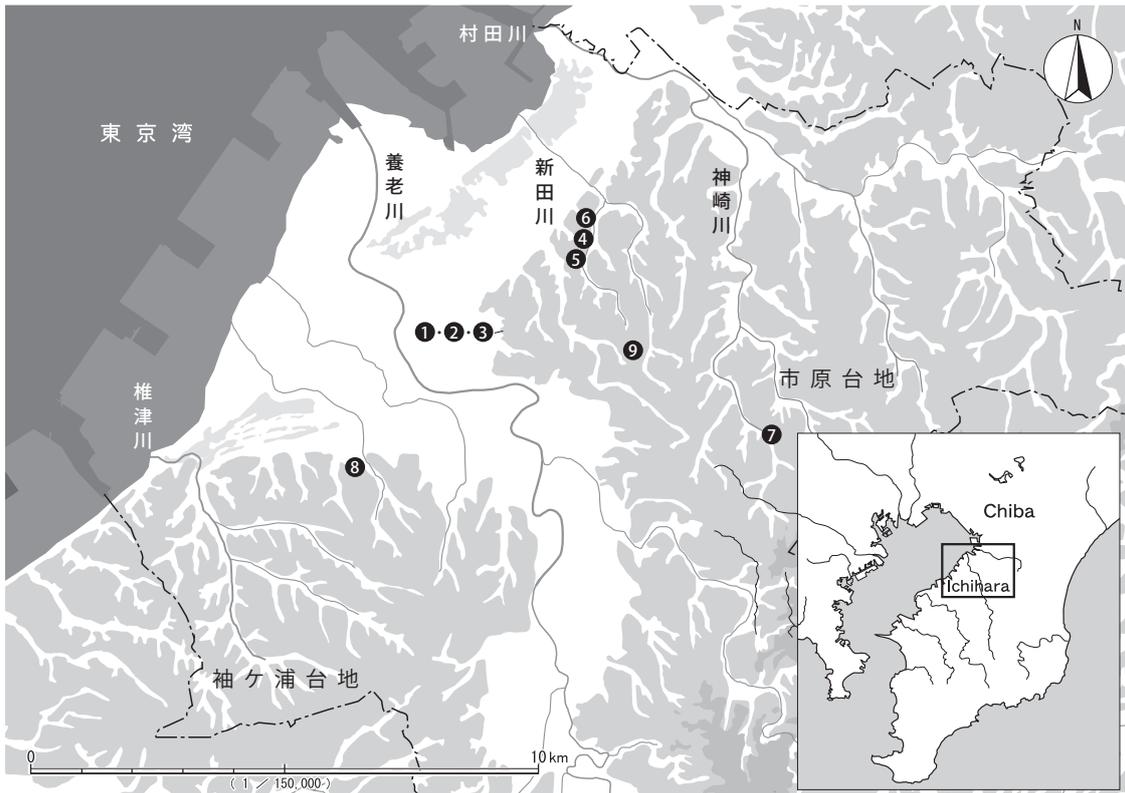
勝間龍性院瓦窯跡は、村田川水系によって開析された標高48m程度の舌状台地斜面部に位置する。調査区周辺は、これまで性格不明の古代瓦出土地として知られていたが、調査の結果、露出した崖面から平安期の瓦窯跡2基を確認した。

小路前遺跡は、養老川下流左岸を北東方向約2kmに望む標高14m程度の微高地上に位置する。北側には海岸平野に沿って東西に形成された砂堆列が横断する。当調査区は、周囲にあまり調査事例がなく、養老川の影響を多く受ける微高地上において、古墳時代後期の竪穴建物跡が検出されたことは、当地における貴重な調査事例となった。

千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)は、新田川上流の支谷に挟まれた標高31m程度の舌状台地上に位置する。当調査区周辺は千草山廃寺跡とされており、関連する遺構の確認が期待された。調査の結果、縄文土器片や奈良・平安時代の土器片及び瓦片が出土したが、遺構は確認されなかった。

## 引用参考文献

- 近藤 敏 2017『市原市千草山遺跡第3地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第40集 市原市教育委員会  
櫻井敦史他 2009『上総国分僧寺跡Ⅰ』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅸ 市原市教育委員会  
高橋康男 1991「8.古甲遺跡」『市原市文化財センター年報 平成3年度』財団法人市原市文化財センター  
高橋康男 1994『市原市 上総国府推定地確認調査報告書』財団法人市原市文化財センター  
田中清美 2011「市原城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集 市原市教育委員会  
鶴岡英一他 2013『市原市中台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅡ 市原市教育委員会  
鶴岡英一他 2016『上総国分僧寺跡Ⅱ』上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅩⅤⅡ 市原市教育委員会  
中野喬介 2019「郡本遺跡群(第25次)」『平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会



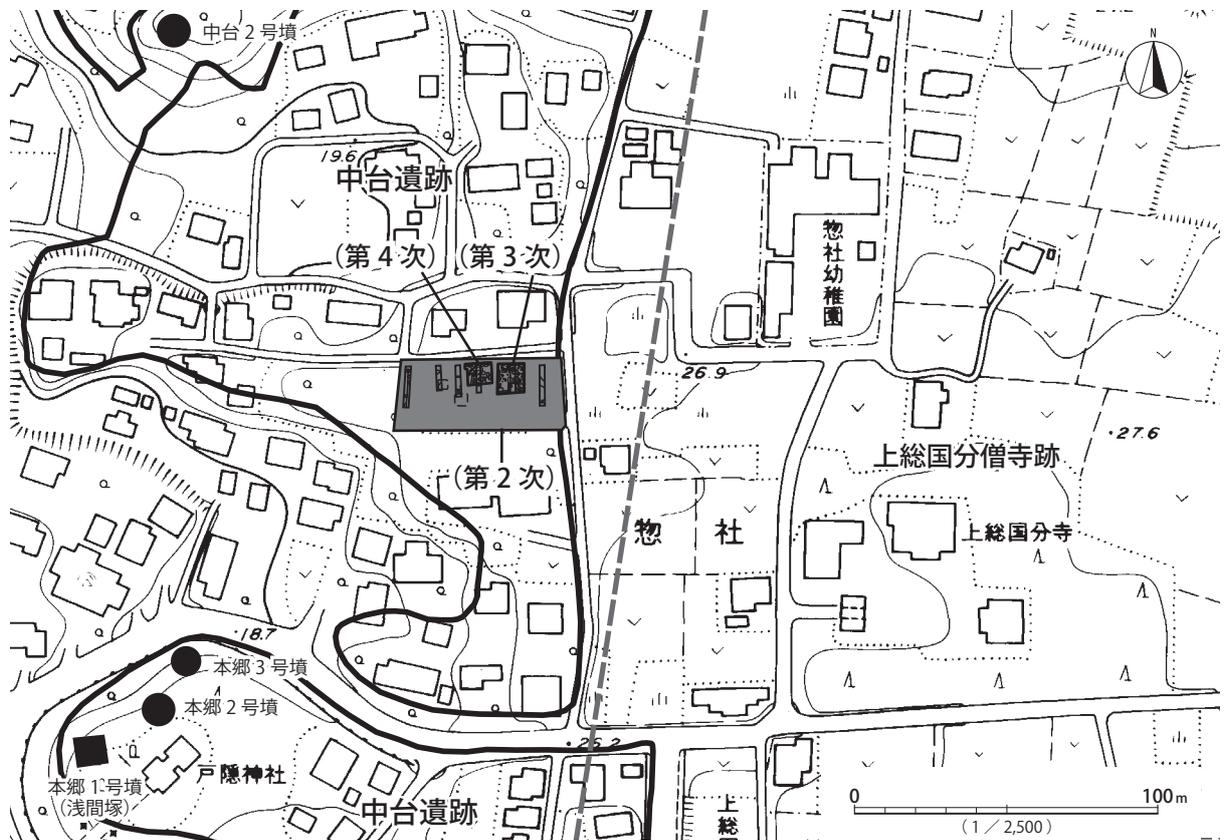
- |              |                     |                       |
|--------------|---------------------|-----------------------|
| ① 中台遺跡 (第2次) | ④ 郡本遺跡群 (第26次)      | ⑦ 勝間龍性院瓦窯跡            |
| ② 中台遺跡 (第3次) | ⑤ 郡本遺跡群 (第27次)      | ⑧ 小路前遺跡               |
| ③ 中台遺跡 (第4次) | ⑥ 郡本遺跡群 (第28次)・市原城跡 | ⑨ 千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点) |

第1図 調査遺跡位置図

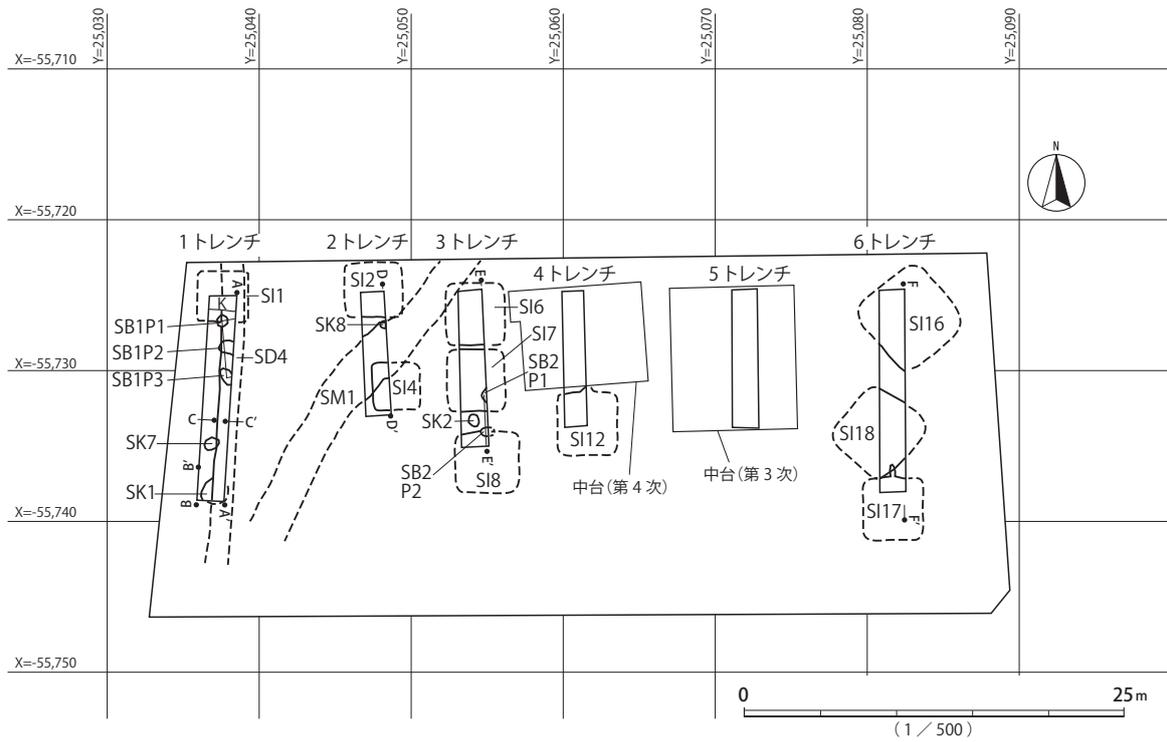
## 2 中台遺跡(第2次)

**遺跡の位置** 遺跡は、東京湾に面する旧海岸線を西方約4kmの位置に望む標高26m前後の台地上に位置する。台地の南側は、養老川下流域へと連なる支谷が西方から東方へと伸びており、沖積低地との比高差は、17m程度である。沖積低地は、養老川の度重なる氾濫により供給された堆積土により、良好な水田地帯を形成している。遺跡が存在する台地は、通称「国分寺台」と呼ばれる台地の西端部中央に位置し、南方300mには、弥生時代終末から古墳時代初頭への過渡期の「古墳」として、全国的に注目されている神門古墳群が存在する。また、東方100mには、国指定史跡である上総国分僧寺跡が存在し、上総国における奈良・平安時代の仏教文化の中心となっていた寺院遺跡が隣接している。神門古墳群周辺から上総国分僧寺跡の下層遺構にまで及ぶ中台遺跡は、弥生時代終末～古墳時代初頭や、奈良・平安時代及び上総国分僧寺跡の殿屋敷地区を中心とした中世遺構に至る、様々な時代の遺構が複合した遺跡ということができ、第3次、第4次を含めた第2次地点において、同様の遺構が確認されることが想定された。

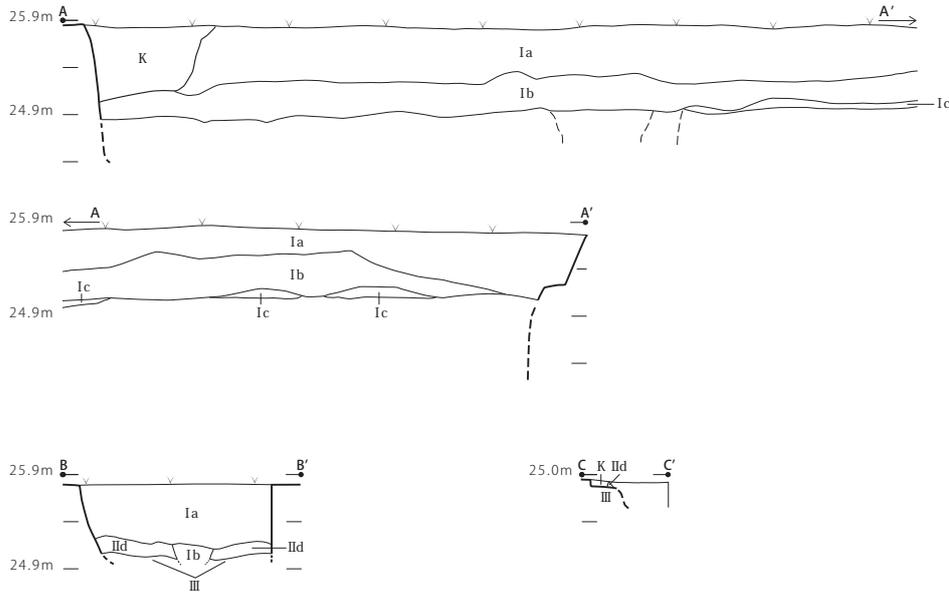
**調査概要** 中台遺跡(第2次)として、宅地造成に先立ち確認調査を行った。事業範囲面積1,324.98㎡に対し、6本のトレンチ計132.0㎡を設定した。その結果、縄文時代土坑や古墳時代前期の竪穴建物跡、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡及び土坑などを確認し、昭和50年代に調査が行われた中台遺跡(第1次)及び上総国分僧寺跡関連の遺構が、全域にわたって展開していることが確認された。この結果を受けて、中央東寄りの個人住宅建設部分を第3次、西に隣接する同じく個人住宅建設部分を第4次として、本調査している。



第2図 中台遺跡(第2・3・4次)周辺地形図

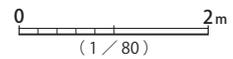


1 トレンチ



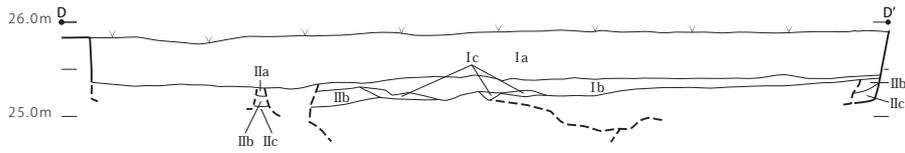
基本層序

- Ia 2.5Y7/2 灰黄色土 客土 粘性あり しまりあり 調査区全体に及ぶ、強く転圧される
- Ib 7.5YR3/2 黒褐色土 旧耕作土 粘性ややあり しまりややあり 近現代の耕作土
- Ic 7.5YR3/3 黒褐色土 耕作攪乱土 粘性ややあり しまりあり 遺構の覆土が、近代の耕作によって掻き混ぜられた層
- IIa 7.5YR3/3 黒褐色土 古代の遺物包含層 粘性ややあり しまりあり 奈良・平安時代の遺物包含層
- IIb 7.5YR3/2 黒褐色土 弥生~古代の自然堆積 粘性ややあり しまりややあり 有機質土の黒色味が強い、粒子細かい
- IIc 7.5YR3/2 黒褐色土 縄文~弥生の自然堆積 粘性ややあり しまりややあり
- II d 7.5YR4/3 褐色土 ローム漸移層 粘性ややあり しまりややあり
- III 7.5YR5/6 明褐色土 ソフトローム層 粘性あり しまりあり
- IV 7.5YR5/6 明褐色土 ハードローム層 粘性あり しまり強い



第3図 中台遺跡(第2次) 平面図・断面図(1)

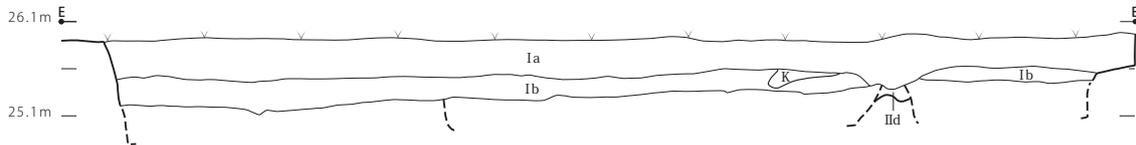
## 2トレンチ



### 基本層序

- Ia 2.5Y7/2 灰黄色土 客土 粘性あり しまりあり 調査区全体に及ぶ、強く転圧される
- Ib 7.5YR3/2 黒褐色土 旧耕作土 粘性ややあり しまりややあり 近現代の耕作土
- Ic 7.5YR3/3 黒褐色土 耕作攪乱土 粘性ややあり しまりあり 遺構の覆土が、近代の耕作によって掻き混ぜられた層
- IIa 7.5YR3/3 黒褐色層 古代の遺物包含層 粘性ややあり しまりあり 奈良・平安時代の遺物包含層
- IIb 7.5YR3/2 黒褐色層 弥生～古代の自然堆積 粘性ややあり しまりややあり 有機質土の黒色味が強い、粒子細かい
- IIc 7.5YR3/2 黒褐色層 縄文～弥生の自然堆積 粘性ややあり しまりややあり

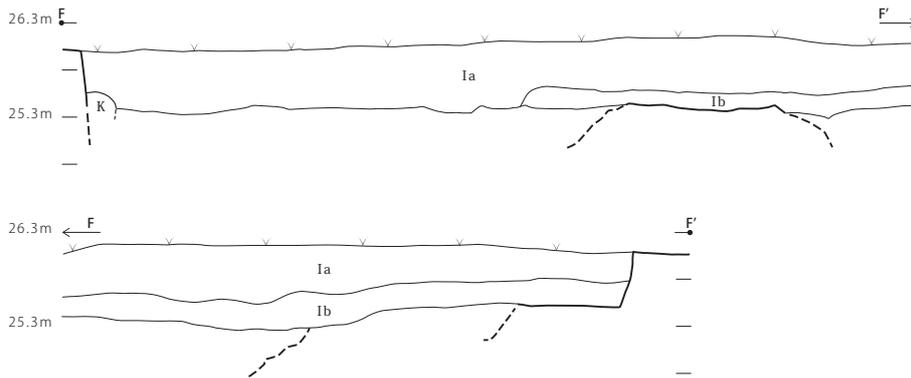
## 3トレンチ



### 基本層序

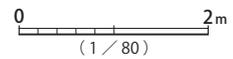
- Ia 2.5Y7/2 灰黄色土 客土 粘性あり しまりあり 調査区全体に及ぶ、強く転圧される
- Ib 7.5YR3/2 黒褐色土 旧耕作土 粘性ややあり しまりややあり 近現代の耕作土
- IIc 7.5YR4/3 褐色土 ローム漸移層 粘性ややあり しまりややあり

## 6トレンチ



### 基本層序

- Ia 2.5Y7/2 灰黄色土 客土 粘性あり しまりあり 調査区全体に及ぶ、強く転圧される
- Ib 7.5YR3/2 黒褐色土 旧耕作土 粘性ややあり しまりややあり 近現代の耕作土

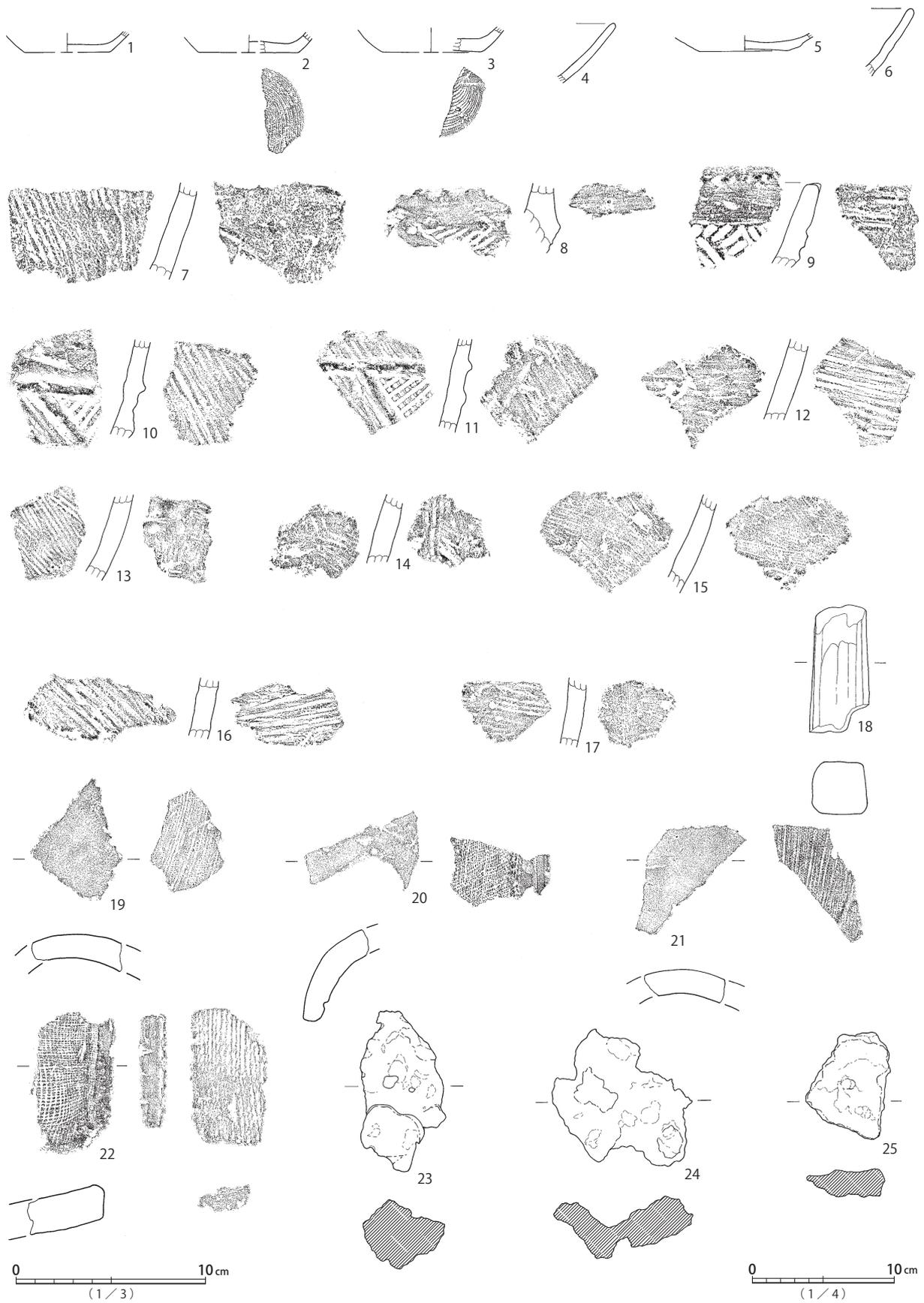


第4図 中台遺跡(第2次) 断面図(2)

**遺構** 1トレンチからは、縄文時代の土坑SK1のほか、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI1や掘立柱建物跡SB1、土坑SK7及び溝状遺構SD4などを確認した。SK1はトレンチ南端において確認され、SD4は、トレンチ内を南北に縦走するようである。SD4は、粘性がややある黒褐色土を主体とする。SI1及びSB1は、トレンチ北側で確認されている。2トレンチからは、古墳時代後期竪穴建物跡SI2、古墳時代の可能性がある溝状遺構SM1、平安時代の竪穴建物跡SI4及び土坑SK8を確認した。SM1は、トレンチ中央を、北東から南西方向に向かって斜走するようである。覆土は、粘性のある黒褐色土を主体とする。トレンチ内の北端において、SI2が確認され、南側において、SI4が確認された。斜走するSM1の北東端部において、SK8が重複する。覆土は、粘性がややある暗褐色土を主体とする。3トレンチからは、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI6、SI7、及びSI8や、平安時代の掘立柱建物跡SB2及び土坑SK2が確認されている。トレンチ内は、竪穴建物跡で多くを占められており、座標北方向に軸を合わせるように建てられていると考えられる。4トレンチは、南端からSI12が確認されているが、その他の部分は中台遺跡(第4次)、5トレンチは中台遺跡(第3次)として本調査がされているので、そちらを参照されたい。6トレンチからは、古墳時代前期の竪穴建物跡SI16、SI18、及び奈良・平安時代の竪穴建物跡SI17を確認した。トレンチ内北端及び南側において、SI16、SI18が確認され、主軸方位は、北西から南東方向を向いているようである。また、トレンチ南端では、SI17が確認され、カマドが認められている。

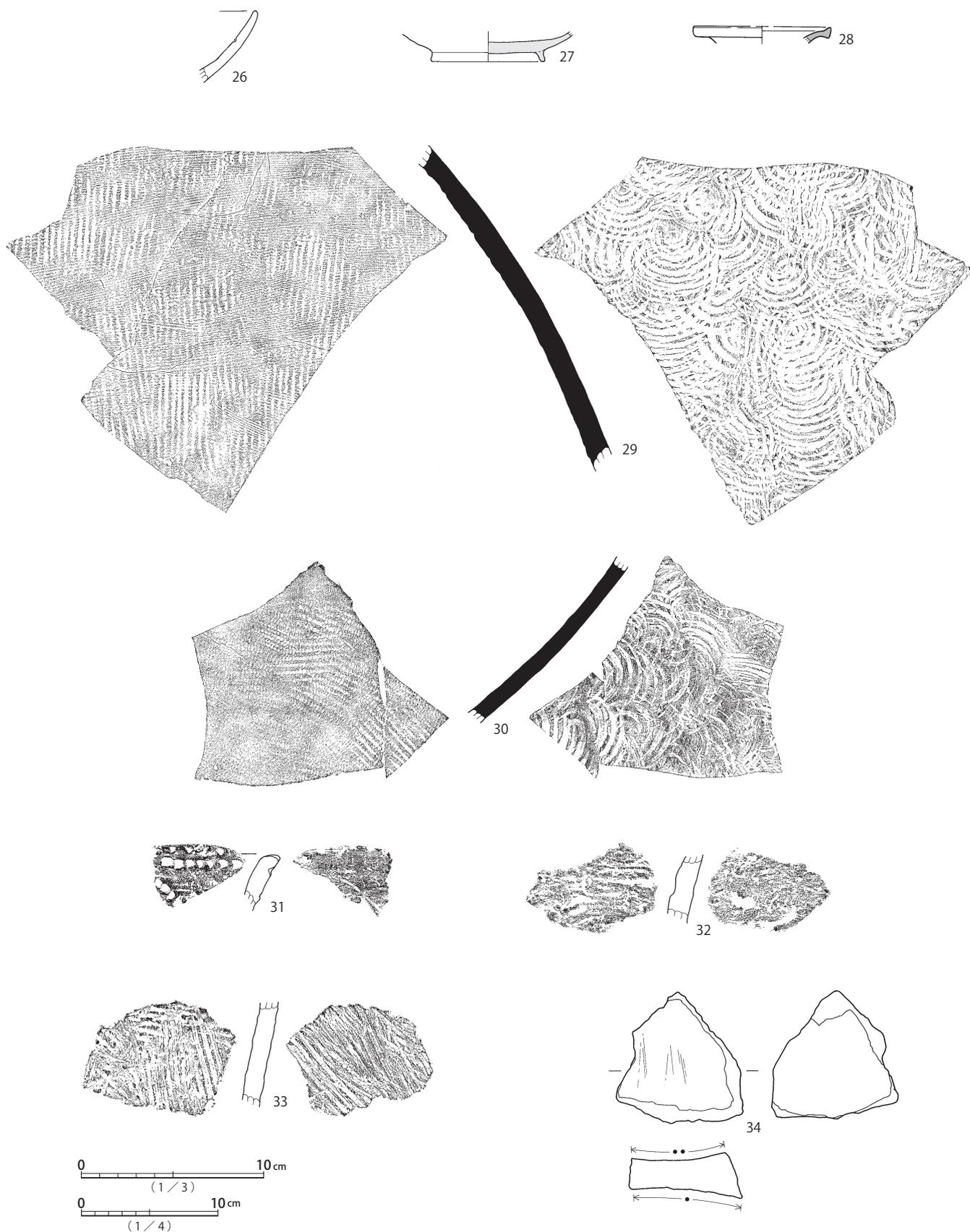
**遺物** 1トレンチでは、SB1の柱穴P2から土師器杯の底部1～3、鉄滓23・24が出土している。2・3は、底部に回転糸切り痕を有する。SD4からは、土師器杯の口縁部4、底部5、鉄滓25が出土している。トレンチ南端にあるSK1からは、内外面に条痕文を有する深鉢土器片9～16が出土している。他には、トレンチ北端にあるSI1から、縄文土器片7が出土したが、混入であろう。また、トレンチ内からは鉄滓が少量出土している。2トレンチでは、北端にあるSI2から、内面に同心円状の当て具痕が残る須恵器大甕胴部29・30が出土した。また、南側にあるSI4からは、緑釉陶器の皿27が出土している。瓦では、均整唐草文や珠文が残る瓦当面を有する軒平瓦35が出土している。他には、縄文土器深鉢口縁部31が出土しているが、混入であろう。3トレンチでは、北端にあるSI6から、土師器杯41や緑釉陶器椀45～47が出土している。中央にあるSI7からは、底部に糸切り痕を持つロクロ土師器杯40が出土している。他には、弥生土器壺胴部片49が出土しているが、混入であろう。南端にあるSI8からは、須恵器杯39及び高台を有する杯44が出土している。また、トレンチ内一括取上げ遺物として、底部内面に墨書を有する土師器杯43が出土している。4トレンチでは、トレンチ南側において、外面に墨書を有し、底部に糸切り痕を持つロクロ土師器杯57や、土師器杯58～61が出土している。SI12から、本調査を行った中台遺跡(第4次)のSK2付近に相当すると考えられる。他には、トレンチ北部において、内外面に条痕文を有する縄文土器深鉢胴部片63、トレンチ中央部において、丸瓦片64・65が出土している。また、図示することはできなかったが、鉄滓が少量出土している。5トレンチではトレンチ南側において、丸瓦68・69、熨斗瓦70、平瓦71が出土している。本調査を行った中台遺跡(第3次)のSI1と同一遺構である可能性が高いと考えられる。6トレンチでは、一括取上げ遺物として、内面に赤彩が施された土師器の小型鉢72が出土している。他には、遺跡の覆土一括取上げ遺物として、平瓦74が出土している。なお、図示できない出土瓦では、C隅が1点出土しているのみで、4隅が無いEが72点であった。

1 トレンチ



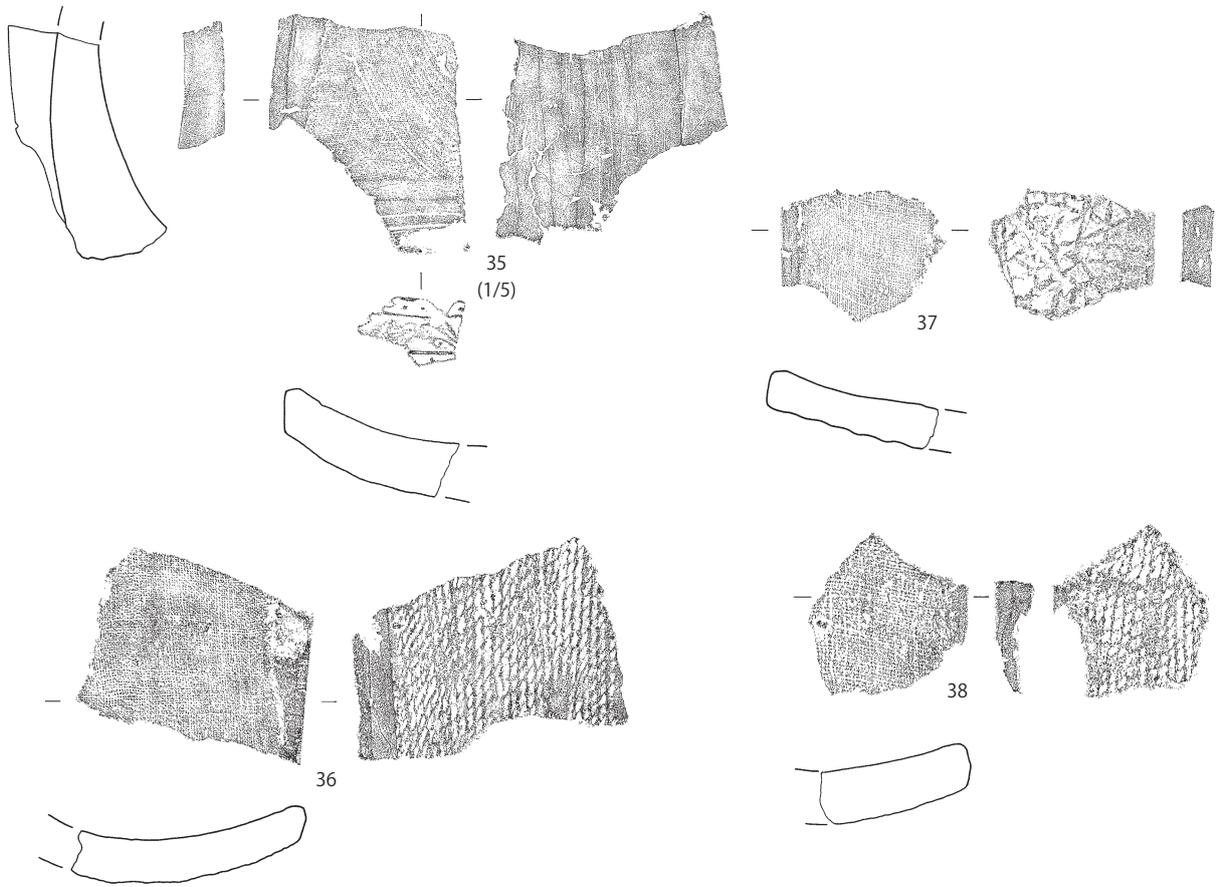
第5図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(1)

2トレンチ

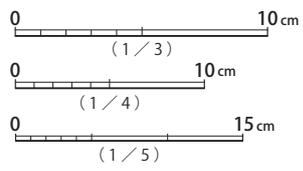
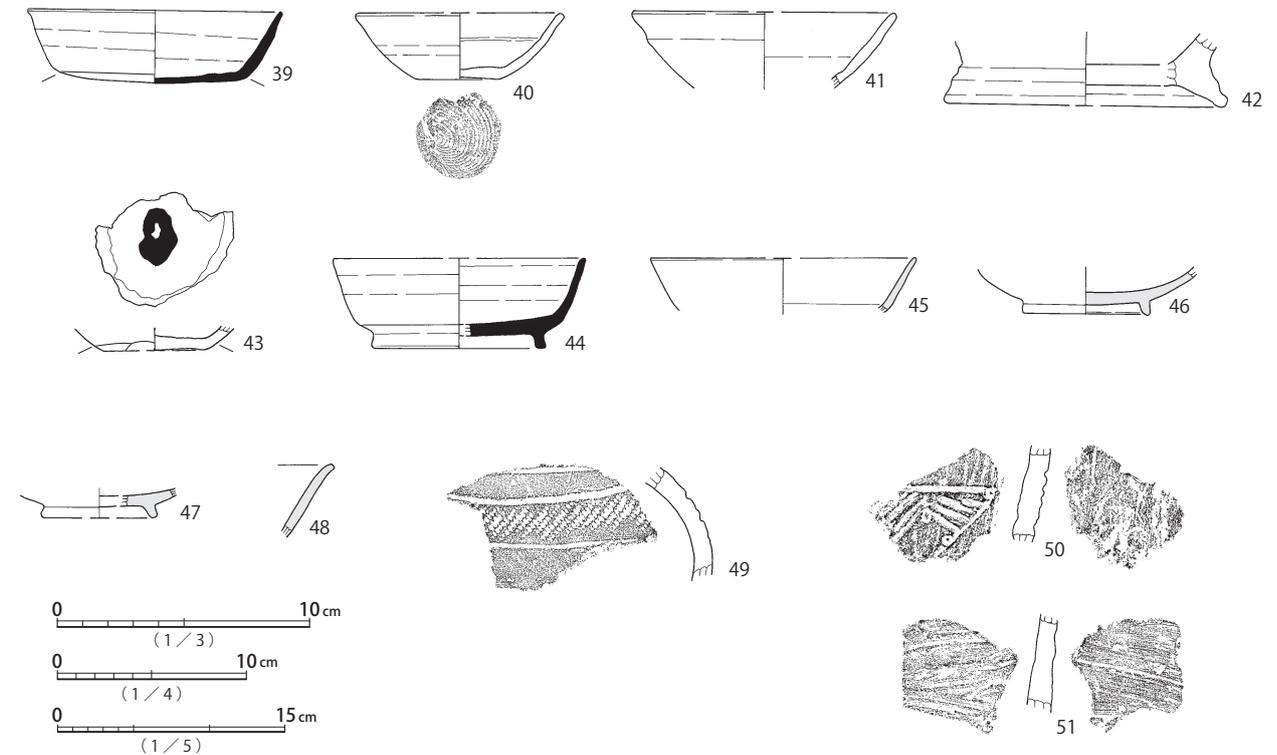


第6図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(2)

2トレンチ

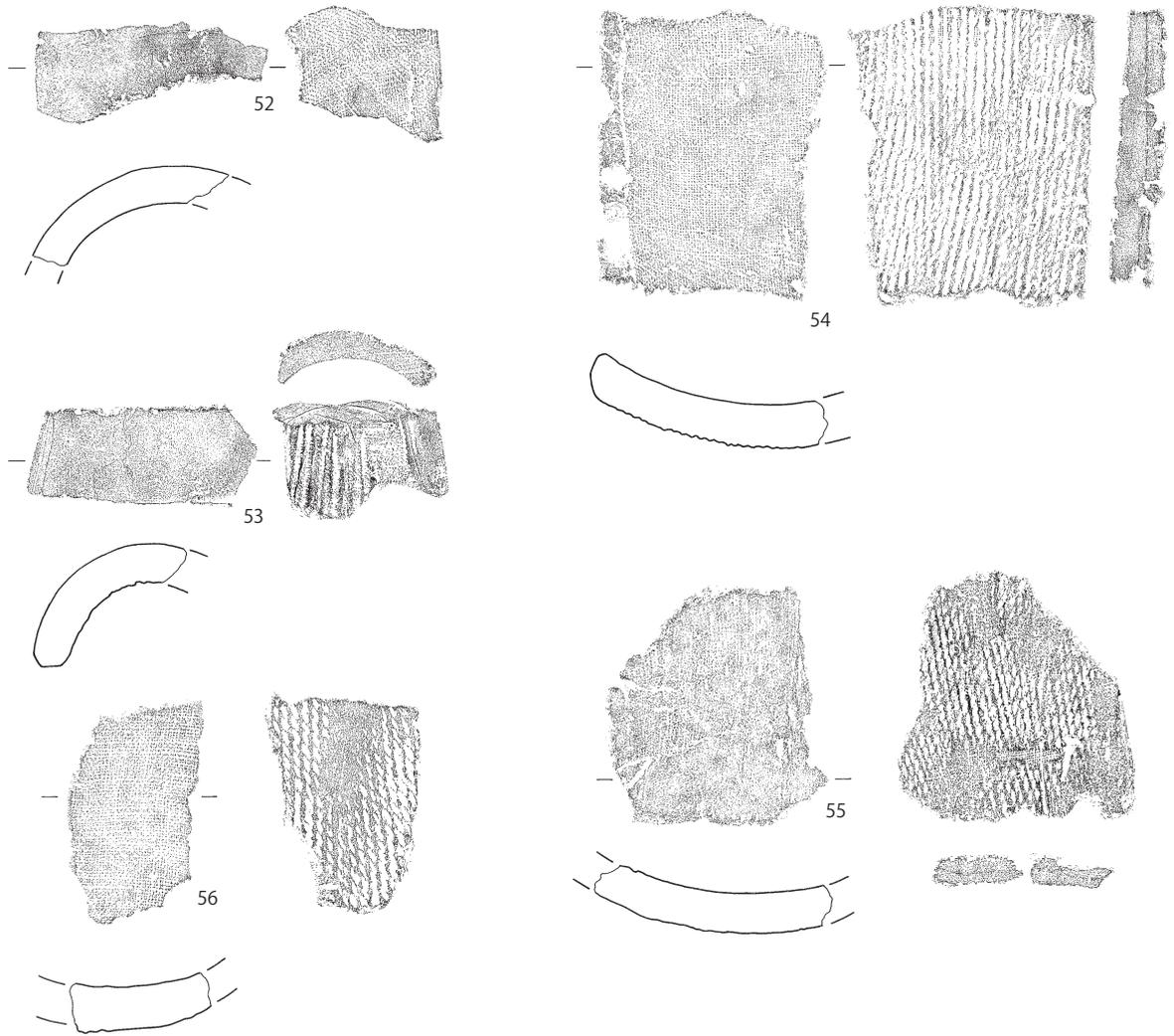


3トレンチ

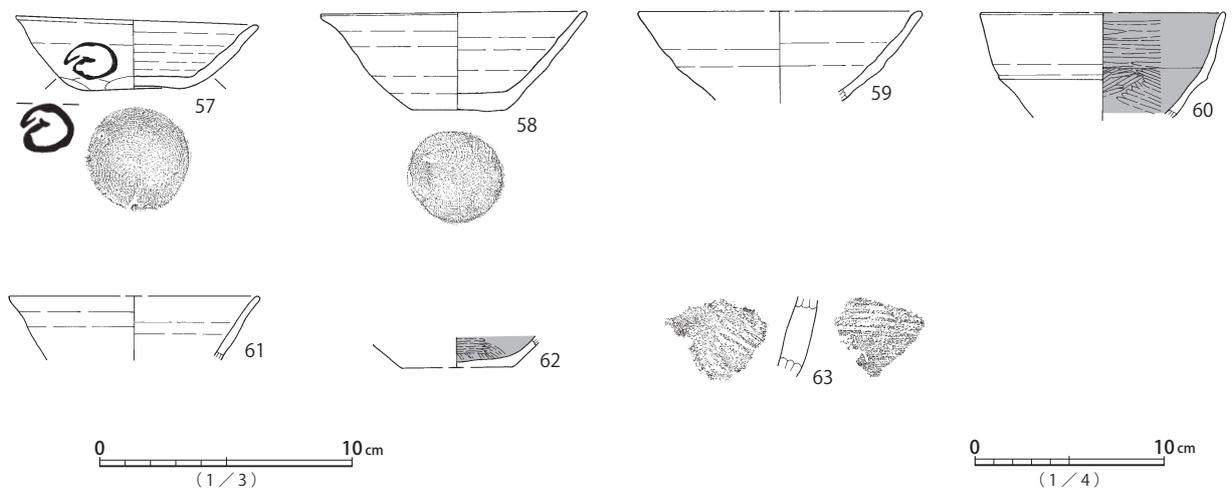


第7図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(3)

3トレンチ

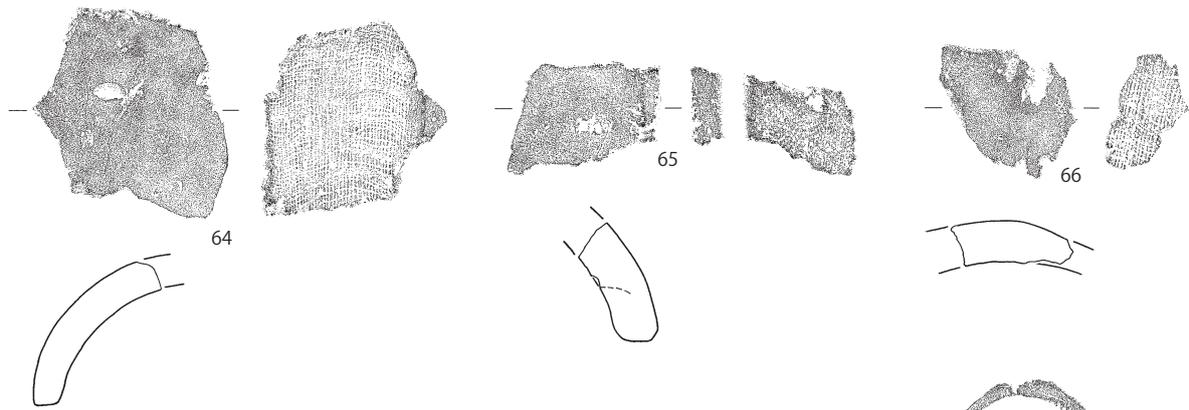


4トレンチ

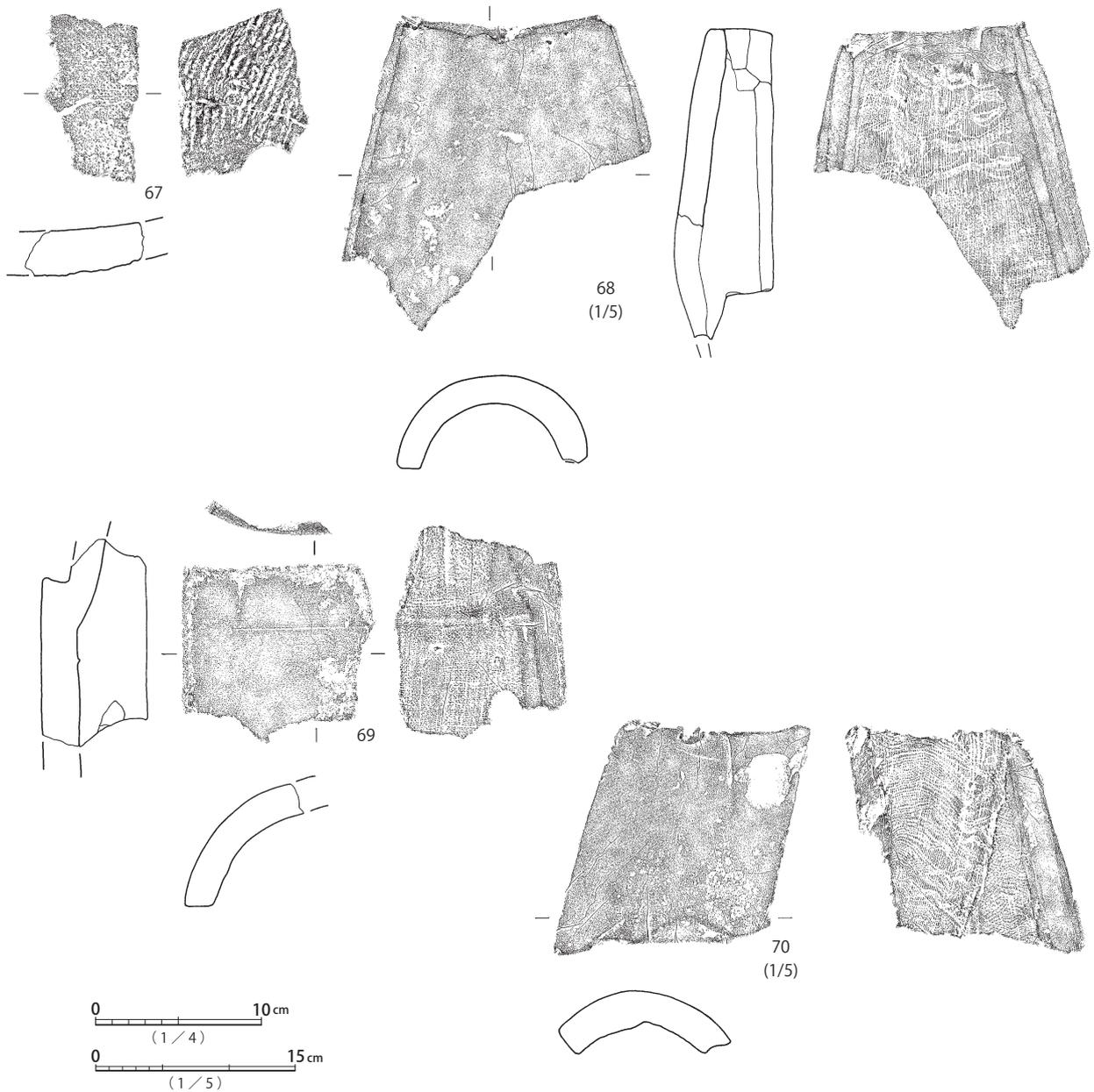


第8図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(4)

4トレンチ

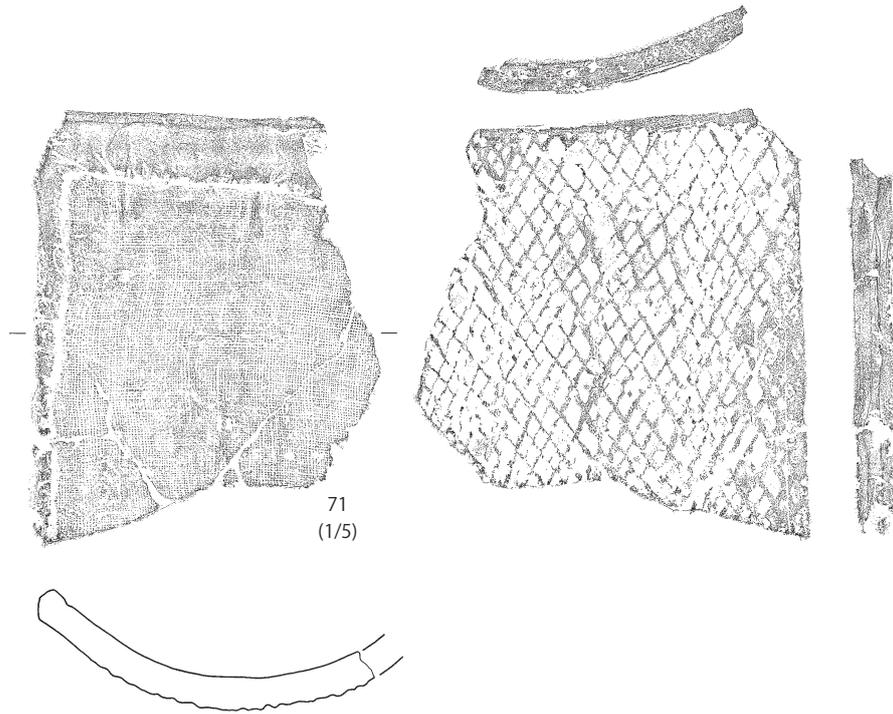


5トレンチ

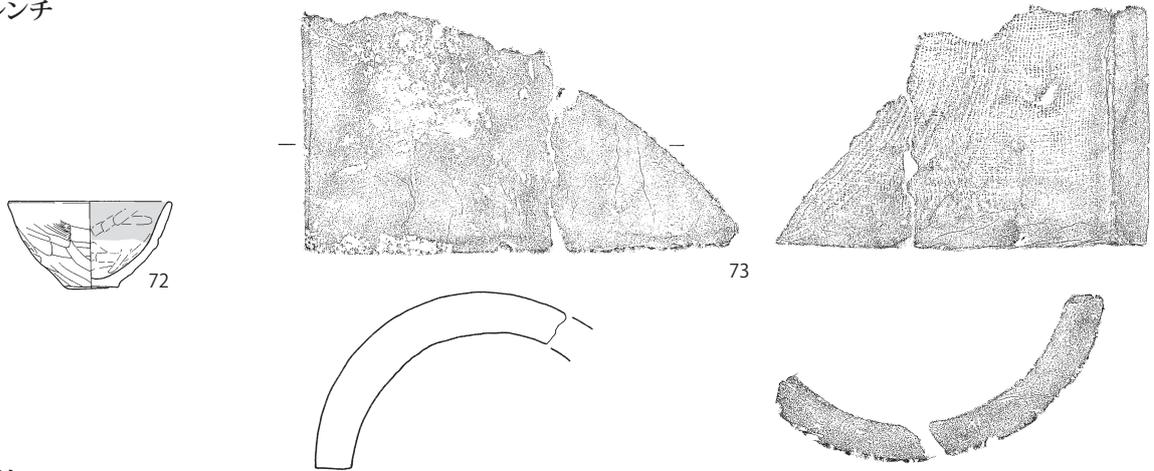


第9図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(5)

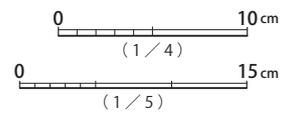
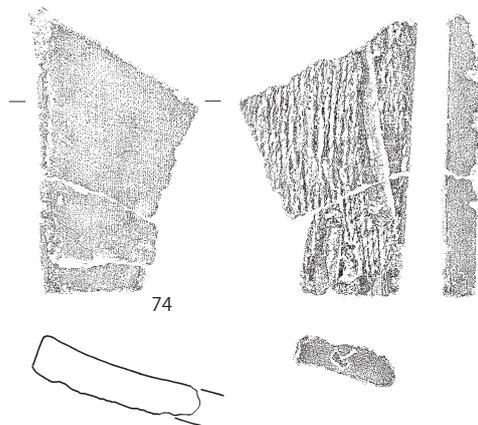
5トレンチ



6トレンチ



遺構外



第10図 中台遺跡(第2次) 遺物実測図(6)

### 3 中台遺跡(第3次)

**調査概要** 中台遺跡(第3次)は、78.3㎡を本調査し、平安時代竪穴建物跡3棟、奈良・平安時代土坑16基、中世土坑49基、及び近世の溝や土坑を検出した。

**遺構と遺物** 竪穴建物跡SI1は、調査区の南東に位置し、平面形態は、隅がやや丸まった方形を呈する。北西部分をSK3により切られている。本遺構の方が古い。平面規模は、現存長で3.8×(3.2)m、遺構深度40cm程度を測る。主軸方位は、N-7°-Eであり、覆土は、ローム粒を多く含む暗褐色土を主体とする。

東側及び北側にカマドが存在し、北側のカマドは、痕跡を残す程度であることから、北側カマドを先に構築し、廃絶後、東側カマドを構築したと考えられる。東側カマドは、焚口付近のソデを中心に、丸瓦を中心とした補強材を使用している。東隣する上総国分僧寺跡の瓦を転用したものと考えられる。丸瓦は、玉縁式9・10、行基式11・12が混在しており、残存状態の良い瓦を選択して使用したと考えられる。

他の遺物としては、覆土中から、ロクロ土師器杯1・2や、墨書土器片3、須恵器大甕胴部片を硯として使用した転用硯8などが出土している。本遺構が存在した9世紀中頃には、上総国分僧寺跡の建物の荒廃が、ある程度進んでいたのかもしれない。

竪穴建物跡SI2は、調査区の東中央に位置し、平面形態は、隅が丸まった方形を呈すると考えられる。南側部分をSK1、SK2により切られている。いずれの遺構よりも、本遺構の方が古い。平面規模は、現存長で(2.4)×(2.0)m、遺構深度20cm程度を測る。主軸方位は、N-5°-Eであり、覆土は、ローム粒を均等に含む暗褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中からロクロ土師器杯19が出土するのみである。建物跡の主軸方位がSI1と近似しており、両建物跡の時期差はあまりないと考えられる。

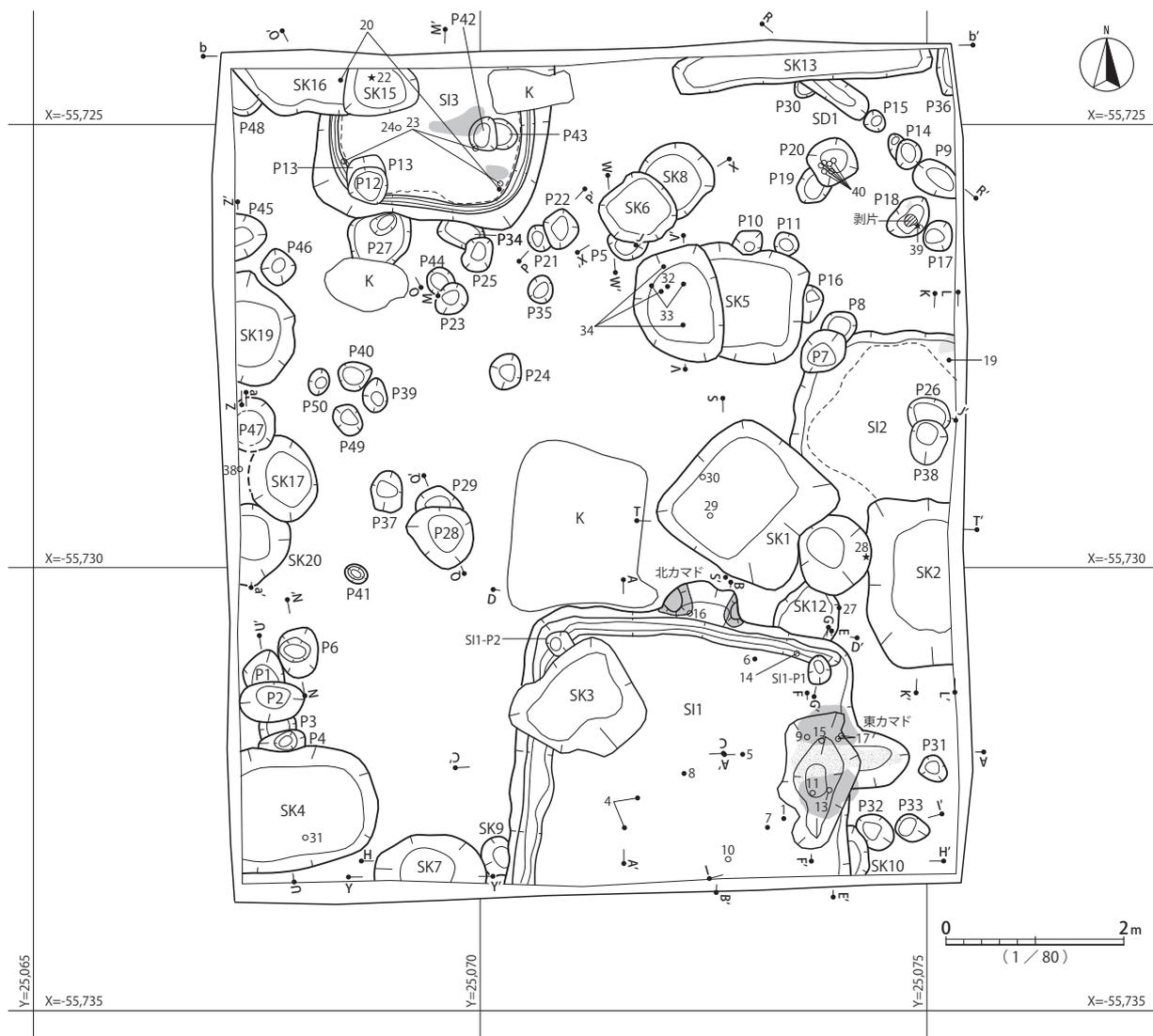
竪穴建物跡SI3は、調査区の北西に位置し、平面形態は、隅がやや丸まった方形を呈すると考えられる。北西部分をSK16により切られている。本遺構の方が古いと考えられる。平面規模は、現存長で2.6×(1.7)m、遺構深度20cm程度を測る。主軸方位は、N-7°-Eであり、覆土は、ローム粒を少量含む暗褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中からロクロ土師器杯20、墨書土器21、釘22、及び平瓦23・24が出土している。本建物跡の主軸方位も、SI1、SI2と近似しており、当調査区に存在する3棟の建物跡の時期差はあまりないと考えられる。

土坑SK1は、調査区の中央東側に位置し、平面形態は、方形の土坑の南東側に、円形の土坑が組み合わさったような形態を呈する。東側部分をSI2と重複し、本遺構の方が新しいと考えられる。平面規模は2.2×1.6m、遺構深度80～96cmを測る。主軸方位は、N-53°-Wであり、覆土は、ロームブロックを含む暗褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中からロクロ土師器杯25、底部に糸切り痕跡を持つ土師器杯底部26、灰釉陶器椀27、鑿状鉄器28及び平瓦29・30が出土している。

SK2は、調査区の南東端部に位置し、平面形態は、やや角の丸まった方形を呈する。北側部分において、SI2と重複する。本遺構の方が新しいと考えられる。平面規模は(0.9)×1.6m、遺構深度



第11図 中台遺跡(第3次) 平面図

40cm程度を測る。主軸方位は、 $N-3^{\circ}-W$ であり、覆土は、ロームを均等に含む暗褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかったが、鉄滓が少量出土している。

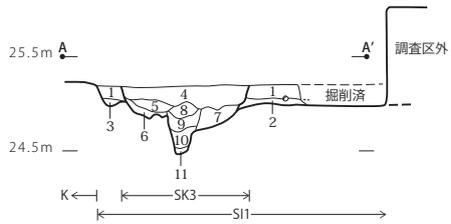
SK3は、調査区の南側に位置し、平面形態は、やや角のやや丸まった方形を呈する。SI1の北西部において切り合い関係にあるが、本遺構の方が新しいと考えられる。平面規模は $1.3 \times 1.2m$ 、遺構深度70cm程度を測る。主軸方位は、 $N-47^{\circ}-E$ であり、覆土は、ロームや炭化物・焼土粒を含む暗褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかったが、鉄滓が少量出土している。

SK4は、調査区の南西端部に位置し、平面形態は、やや角張る楕円形を呈する。平面規模は $(1.5) \times 1.3m$ 、遺構深度50cmを測る。主軸方位は、 $N-83^{\circ}-E$ であり、覆土は、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を主体とする。

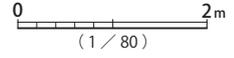
遺物は、覆土中から丸瓦31が出土するのみである。

SK5は、調査区の北東部に位置し、平面形態は、やや角張る楕円形を呈する。平面規模は $2.3 \times 1.3m$ 、遺構深度60cmを測る。主軸方位は、 $N-86^{\circ}-W$ であり、覆土は、ロームブロックを含む黒褐色土を主体とする。

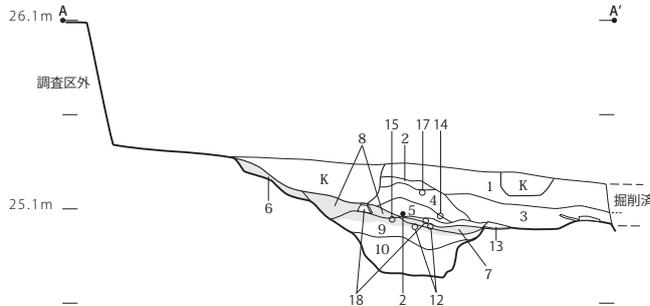
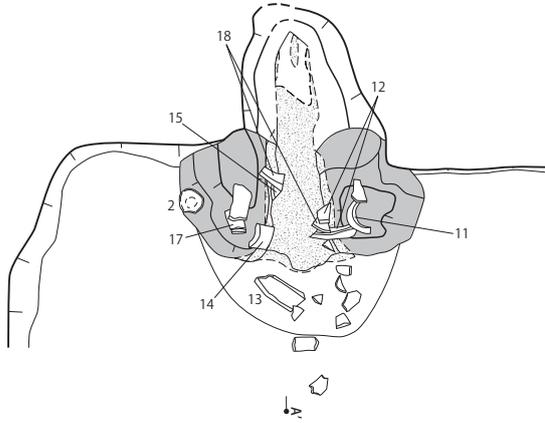
### SK3



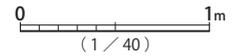
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土ブロック(5～10mm)含む
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～8mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～8mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～40mm)きわめて多量
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～40mm)多量
- 8 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～15mm)多量
- 9 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～15mm)含む
- 10 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)含む
- 11 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量



### SI1 東カマド

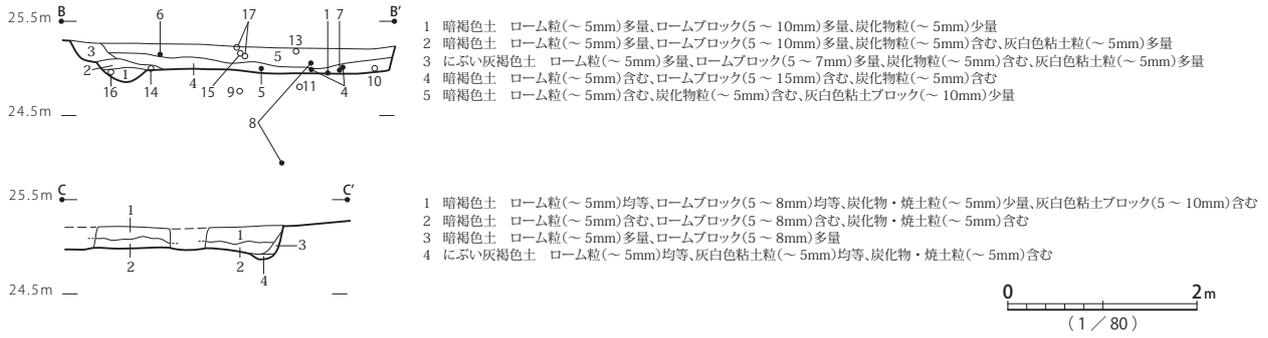


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)含む、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土ブロック(5～15mm)均等
- 6 にぶい灰褐色土 ローム粒(～5mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～15mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土ブロック(5～8mm)多量
- 8 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～15mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)含む
- 9 灰白色土 炭化物粒(～5mm)均等、焼土ブロック(5～30mm)多量、焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 10 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、山砂含む



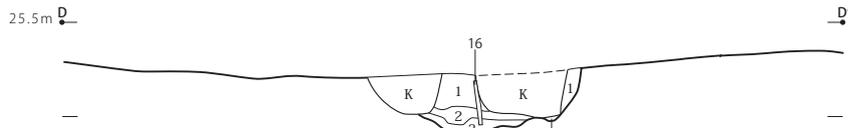
第12図 中台遺跡(第3次)東カマド 平面図・断面図(1)

SI1

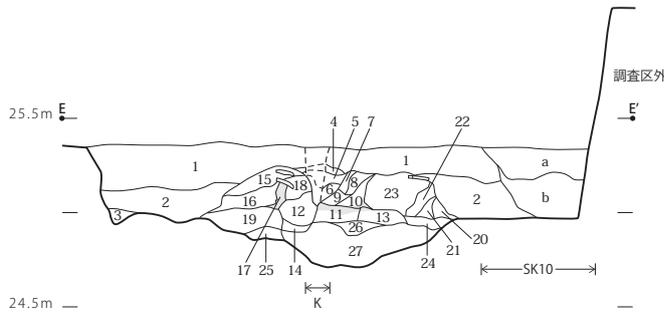


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)含む、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 3 にぶい灰褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～7mm)多量、炭化物粒(～5mm)含む、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～15mm)含む、炭化物粒(～5mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒(～5mm)含む、灰白色粘土ブロック(～10mm)少量

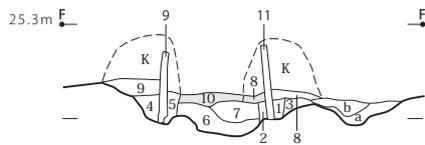
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土ブロック(5～10mm)含む
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～8mm)含む、炭化物・焼土粒(～5mm)含む
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量
- 4 にぶい灰褐色土 ローム粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等、炭化物・焼土粒(～5mm)含む



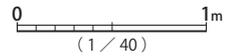
- 1 灰褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(5～30mm)多量
- 3 褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～20mm)多量、炭化物粒・焼土粒含む、灰白色粘土粒含む



- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、炭化物粒(～5mm)含む、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 3 にぶい灰褐色土 ローム粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物・焼土ブロック(5～15mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等、炭化物・焼土ブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～5mm)含む
- 8 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 9 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 10 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 11 灰白色土 炭化物粒(～5mm)均等、焼土ブロック(5～30mm)多量、焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 12 赤褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 13 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 14 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 15 灰褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～7mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 16 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 17 赤褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 18 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 19 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 20 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 21 灰褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 22 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)均等
- 23 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 24 灰褐色土 ローム粒(～5mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 25 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～7mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 26 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 27 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、山砂含む
- a 茶褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- b 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む

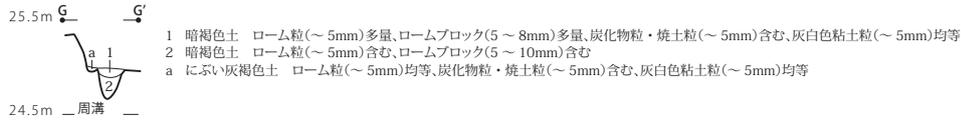


- 1 にぶい暗褐色土
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 灰褐色土 ローム粒(～5mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 4 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)少量
- 5 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～7mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量
- 6 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、山砂含む
- 7 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～80mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、山砂含む
- 8 灰褐色土 ローム粒(～5mm)均等、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- 9 焼土 焼土粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒(～5mm)均等、山砂(～1mm)多量
- 10 灰白色土 炭化物粒(～5mm)均等、焼土ブロック(5～30mm)多量、焼土粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(～5mm)多量
- a 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、炭化物粒(～5mm)微量
- b 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～30mm)多量

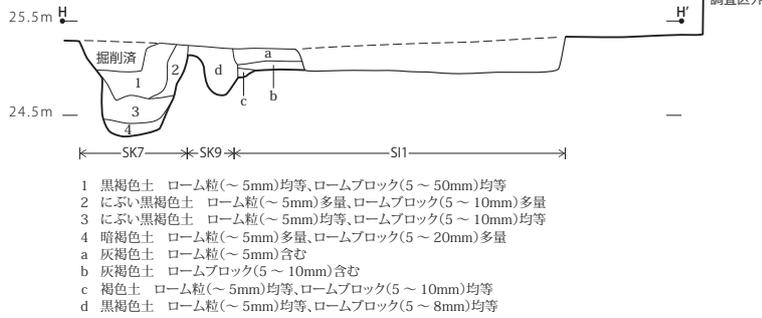


第13図 中台遺跡(第3次)断面図(2)

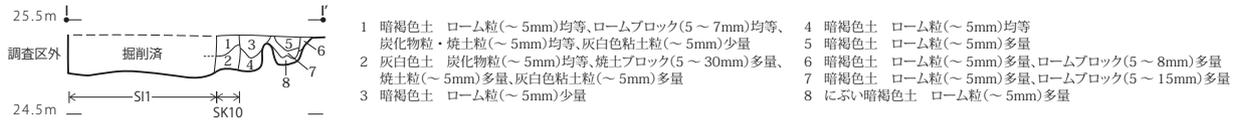
### SI1 P1



### SI1・SK7・SK9



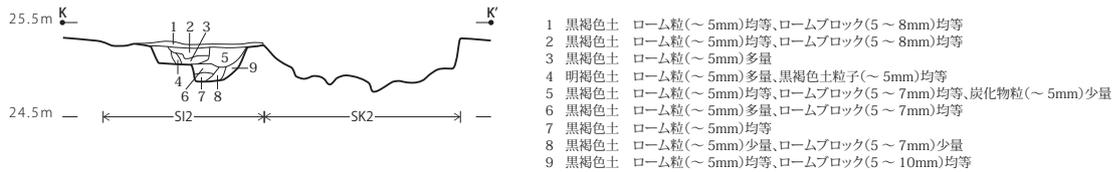
### SI1・SK10・P32・P33



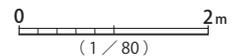
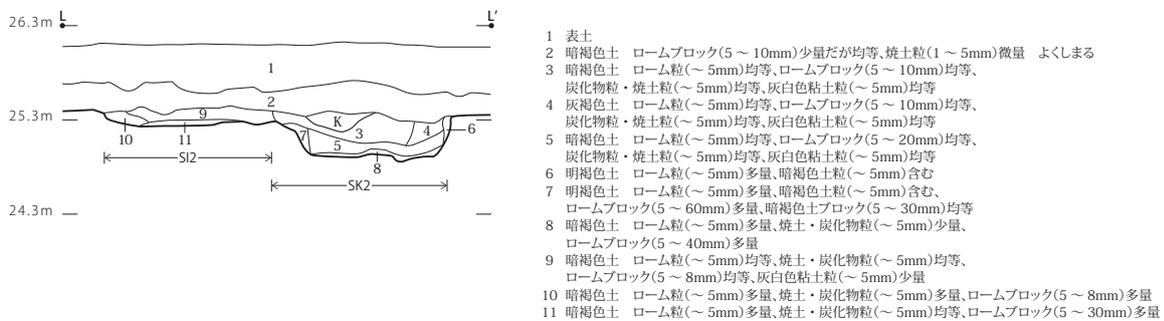
### SI2 P7



### SI2 P26・P38

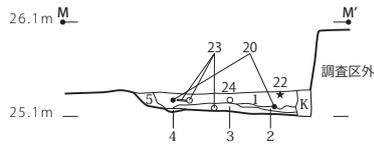


### SI2・SK2



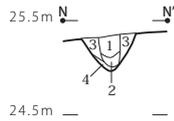
第14図 中台遺跡(第3次)断面図(3)

### SI3



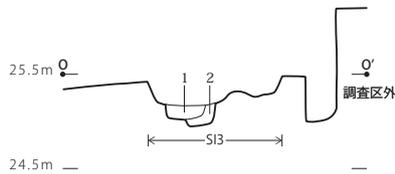
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 2 灰褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土粒(～5mm)含む、灰白色粘土ブロック(5～10mm)多量
- 3 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土粒(～5mm)含む、灰白色粘土ブロック(5～10mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土・炭化物粒(～5mm)均等

### P6



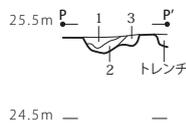
- 1 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量
- 2 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 4 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量

### P12・P13



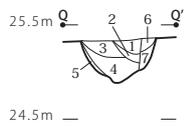
- 1 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 2 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む

### P21・P22



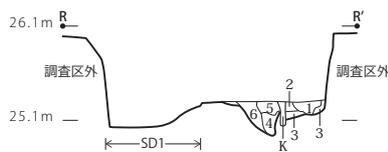
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
- 3 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量

### P28・P29

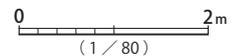


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)均等
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～15mm)多量
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～15mm)多量
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～15mm)均等
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量

### SD1・P9・P14・P15

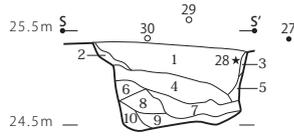


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)少量、暗褐色土粒含む
- 4 にぶい黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等
- 5 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～8mm)含む
- 6 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等
- a 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む

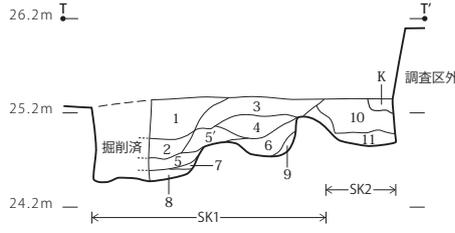


第15図 中台遺跡(第3次)断面図(4)

### SK1

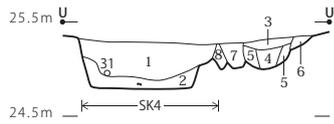


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～30mm)少量、炭化物粒(～3mm)含む
- 2 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～20mm)多量、黒褐色土含む
- 3 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～50mm)少量
- 4 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～50mm)多量、焼土粒(～5mm)含む
- 5 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～50mm)含む
- 6 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～30mm)含む
- 7 明褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～30mm)含む、黒褐色土含む
- 8 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～30mm)含む
- 9 明褐色土 ローム粒(～5mm)きわめて多量、ロームブロック(5～50mm)きわめて多量
- 10 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量



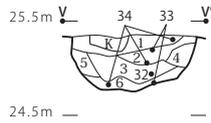
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～30mm)少量、炭化物粒(～3mm)含む
- 2 黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～50mm)多量、焼土粒(～5mm)含む
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～15mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～60mm)きわめて多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 5 明褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)含む、黒褐色土含む
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量
- 7 黒色土 ローム粒(～5mm)少量
- 8 明褐色土 ローム粒(～5mm)きわめて多量、ロームブロック(5～50mm)きわめて多量
- 9 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 10 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～8mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む、白色粒(～5mm)含む
- 11 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量

### SK4 P1～P4



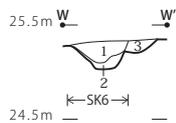
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 2 にぶい黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 4 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 8 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～20mm)多量

### SK5



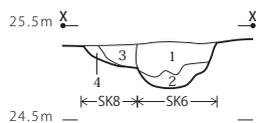
- 1 暗褐色土 ロームブロック(5～15mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 3 黒褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～20mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む

### SK6・P5

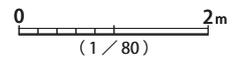


- 1 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～30mm)均等
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等

### SK6・SK8

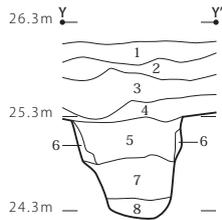


- 1 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～30mm)均等
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)含む、ロームブロック(5～10mm)含む
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量



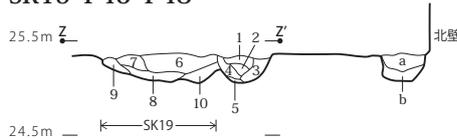
第16図 中台遺跡(第3次)断面図(5)

### SK7



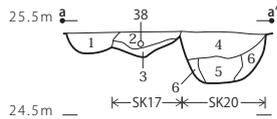
- 1 現地表面
- 2 褐灰色土 ロームブロック(10～20mm)少量だが均等
- 3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)少量だが均等、焼土粒(1～5mm)微量 よくしまる
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 5 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～50mm)均等
- 6 にぶい黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量
- 7 にぶい黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 8 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～20mm)多量

### SK19・P45・P48



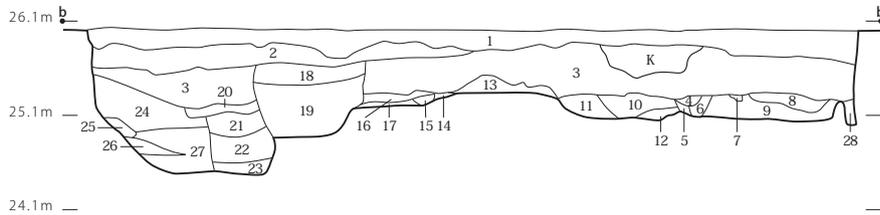
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量
- 3 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
- 5 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量
- 7 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 8 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～30mm)多量
- 9 にぶい暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～30mm)均等
- 10 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～8mm)少量
- a 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等
- b 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量

### SK17・SK20・P7

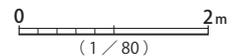


- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等
- 2 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量
- 3 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 4 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む、白色粒(～5mm)含む
- 5 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～20mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む
- 6 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～5mm)含む

### 北側壁



- 1 表土
- 2 褐灰色土 ロームブロック(10～20mm)少量だが均等
- 3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)少量だが均等、焼土粒(1～5mm)微量 よくしまる
- 4 暗黒色土 ローム粒(～5mm)微量
- 5 暗黒褐色土 ロームブロック(5～10mm)均等 しまりややゆるい
- 6 暗黒褐色土 5より黒色味強い、ロームブロック(10～20mm)少量
- 7 暗黒褐色土 ロームブロック(5～20mm)少量だが均等
- 8 暗黒褐色土 ロームブロック(10～50mm)均等
- 9 褐色土 地山、ソフトローム
- 10 暗黒褐色土 ロームブロック(5～20mm)少量だが均等
- 11 暗褐色土 黒色味やや強い、ロームブロック(5～20mm)均等
- 12 暗黒色土 ロームブロック(5～10mm)少量
- 13 暗褐色土 褐色味やや強い、ロームブロック(5～30mm)多量
- 14 褐色土 地山、ソフトローム
- 15 暗黒褐色土 黒色味強い、ロームブロック(5～10mm)少量
- 16 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量
- 17 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量、粘土ブロック(10～30mm)少量
- 18 明褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(10～30mm)少量
- 19 明褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(10～30mm)多量
- 20 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)少量、粘土粒(10～20mm)少量
- 21 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 22 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量 しまり弱い
- 23 褐色土 ローム主体土、ロームブロック(40～50mm)多量、黒褐色土斑状に含む
- 24 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(10～30mm)少量
- 25 暗褐色土 24より褐色味強い、ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(10～30mm)少量
- 26 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量
- 27 褐色土 ローム主体土、ロームブロック(40～50mm)多量、暗褐色土斑状に含む
- 28 暗黒褐色土 ロームブロック(10～20mm)少量だが均等



第17図 中台遺跡(第3次)断面図(6)

遺物は、覆土中から土師器杯32・34や、須恵器杯33が出土する。

SK6は、調査区の北側に位置し、平面形態は、SK8と複合して、やや角張る楕円形を呈する。平面規模は1.3×0.8m、遺構深度50cm程度を測る。主軸方位は、N-50°-Eであり、覆土は、ロームブロックを均等に含む黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から条痕文を持つ縄文土器片35・36が出土するが、混入であろう。

SK12は、調査区の南東側に位置し、平面形態は、不整な円形を呈する。北側部分において、SK1と重複する。平面規模は(0.55)×0.7m程度を測る。

遺物は、東端部から灰釉陶器碗の上半部27の一部が出土しているが、隣接するSK1の遺物と接合することから、SK1の遺物と判断したい。

SK13は、調査区の北東端に位置し、平面形態は、長軸のやや角張る楕円形を呈する。平面規模は2.9×(0.4)m、遺構深度20cm程度である。主軸方位は、N-80°-Eであり、覆土は、ロームブロックを均等に含む暗黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から土師器杯37が出土している。

SK17は、調査区の西端に位置し、平面形態は、不整な円形を呈する。平面規模は0.7×(0.9)m、遺構深度20cm程度である。覆土は、ロームを少量含む黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から平瓦38が出土している。他に図示には及ばない程度の炉壁状の被熱土塊片が少量認められた。

P9は、調査区の北東端に位置し、平面形態は、不整な楕円形を呈する。P18に隣接し、平面規模は(0.5)×0.4m程度を測る。図示できる遺物の出土はなかったが、鉄滓が少量出土している。後述するP18と同時期の遺構である可能性が高いと考えられる。

P18は、調査区の北東端に位置し、平面形態は、不整な円形を呈する。鉄滓が出土したP9に隣接する。平面規模は0.4×0.4m程度を測り、確認面を中心に鍛造剥片が広がっていた。

遺物は、鍛造剥片中から、鐙の吊り手金具39が出土している。2か所に鉤留めが施されている。

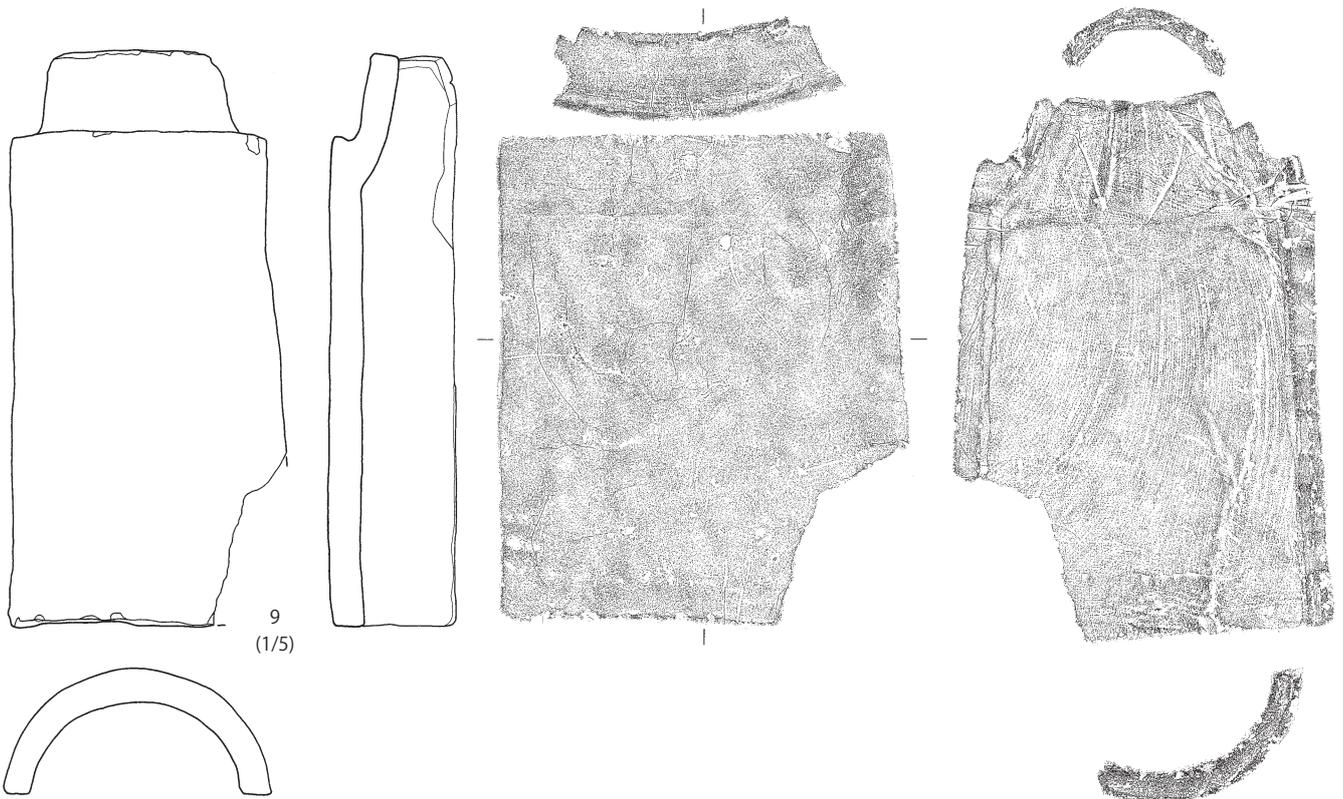
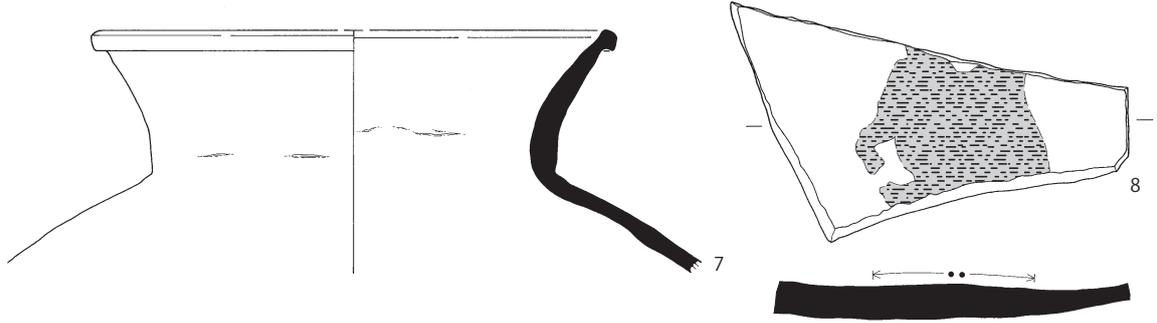
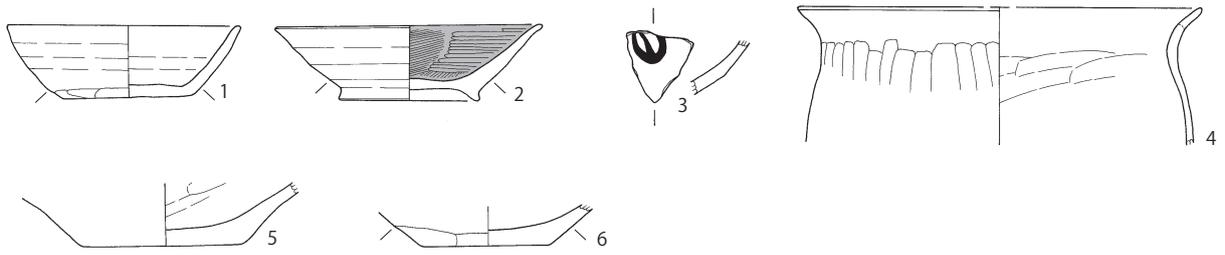
P20は、調査区の北東側に位置し、平面形態は、P19と複合して、不整な円形を呈する。平面規模は0.8×0.5m程度を測る。遺物は、平瓦40が出土している。

他の遺物では、遺構外遺物として、土師器杯41、台付甕42、カワラケの小型皿43、縄文土器片44、及び平瓦45、玉縁式の丸瓦46などが出土している。

なお、図示できない瓦では、B隅のあるものが2点、C隅が1点出土しているのみで、4隅が無いEが68点であった。

調査区北東のP18周辺は、鉄滓や鍛造剥片が広がっている中に、鉄製馬具である鐙の吊り手金具が出土しており、本遺構周辺に、鍛冶関連工房等の遺構が存在していた可能性がある。

SI1

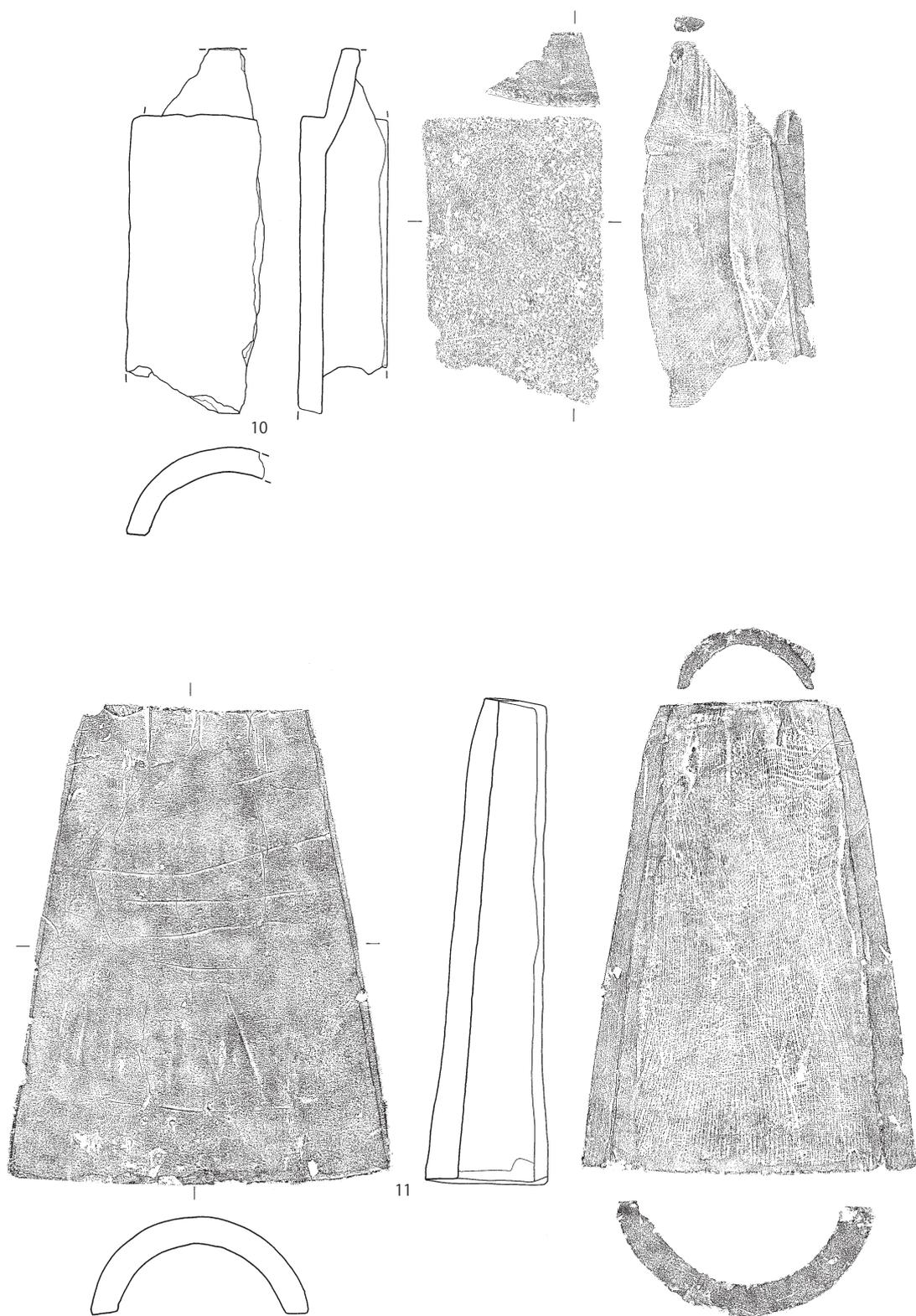


0 10cm  
(1/3)

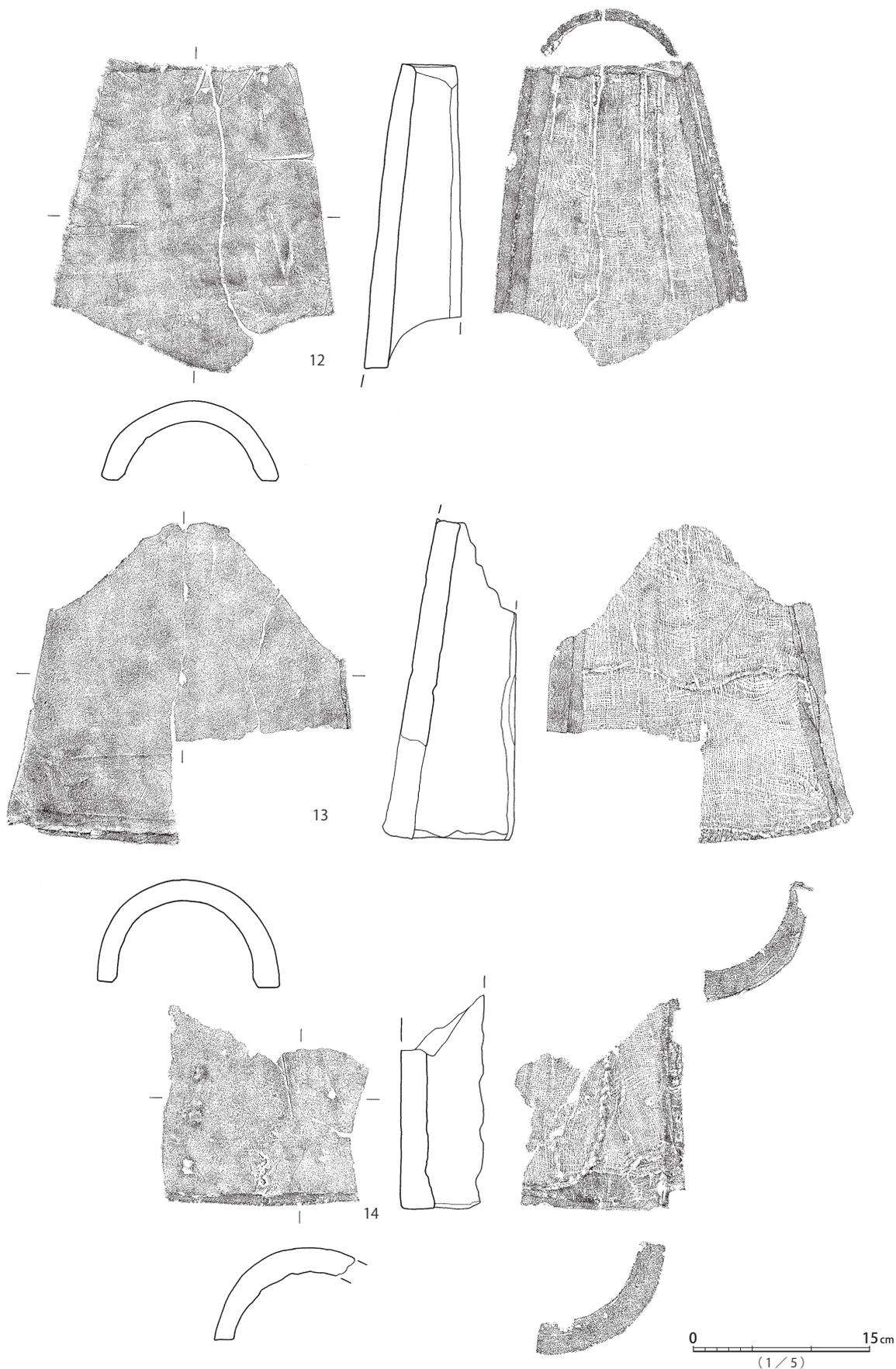
0 10cm  
(1/4)

0 15cm  
(1/5)

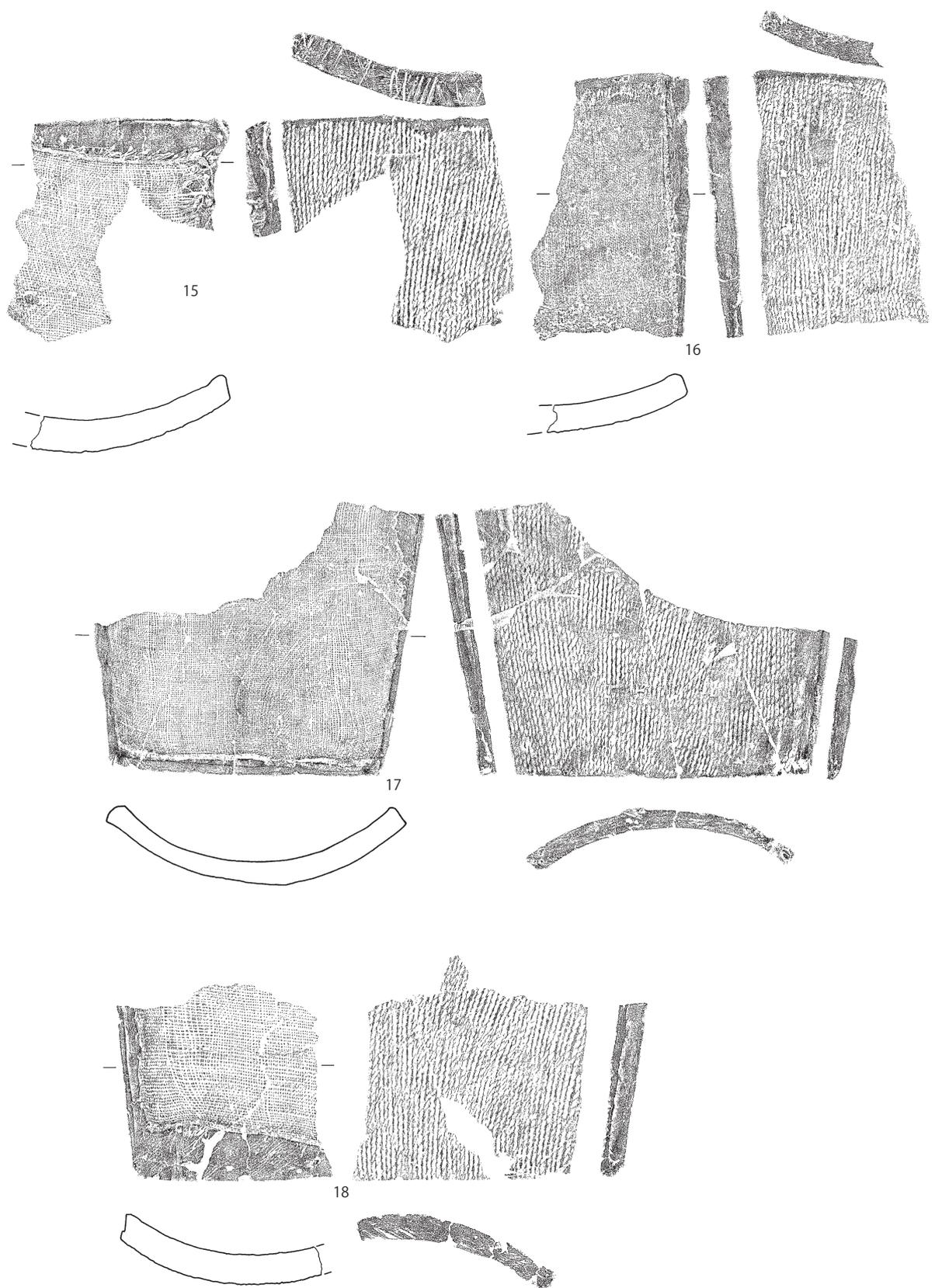
第18図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(1)



第19図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(2)



第20図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(3)

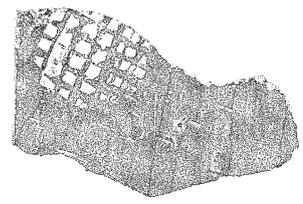
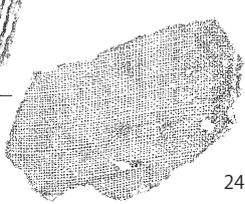
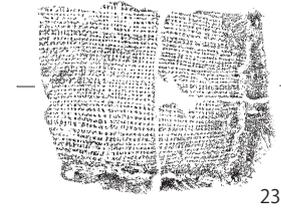
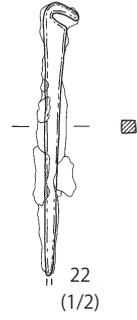
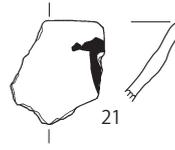
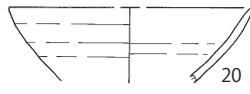


第21図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(4)

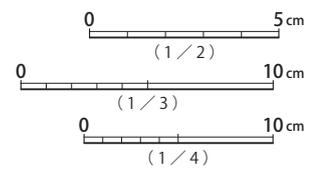
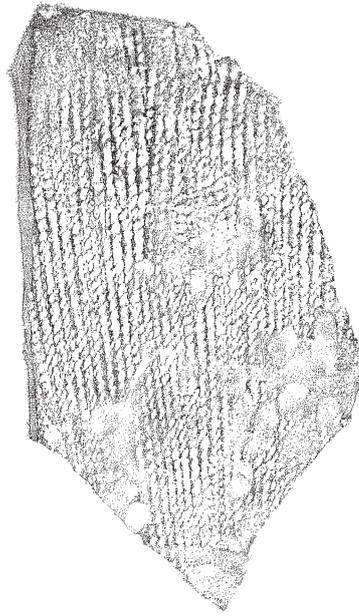
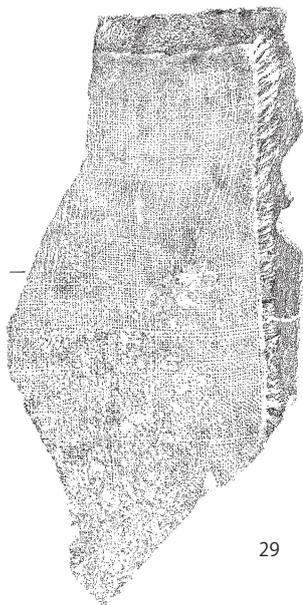
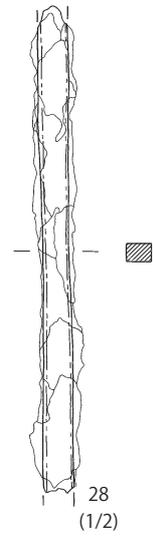
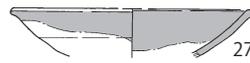
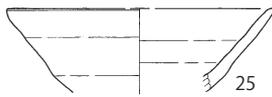
SI2



SI3

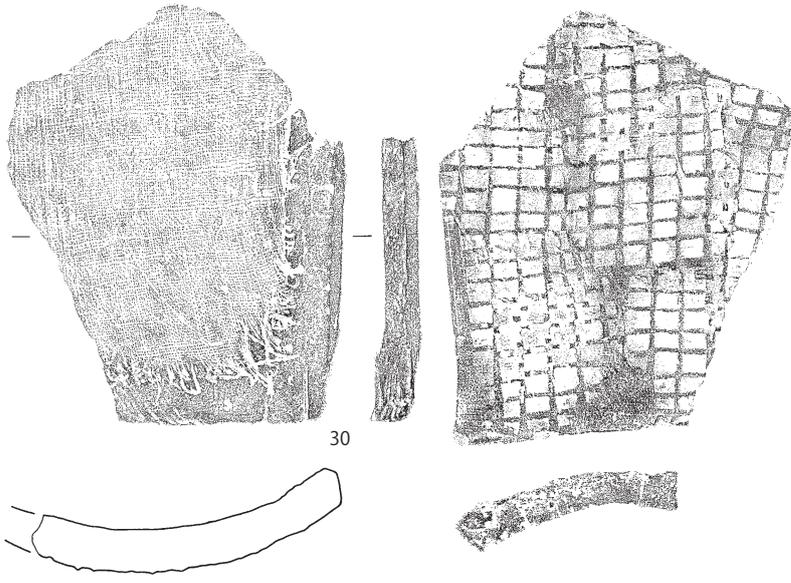


SK1

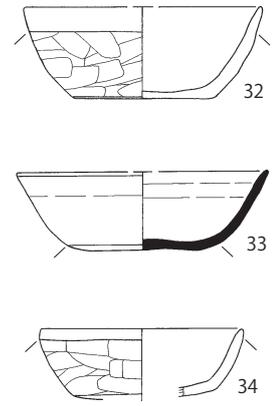


第22図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(5)

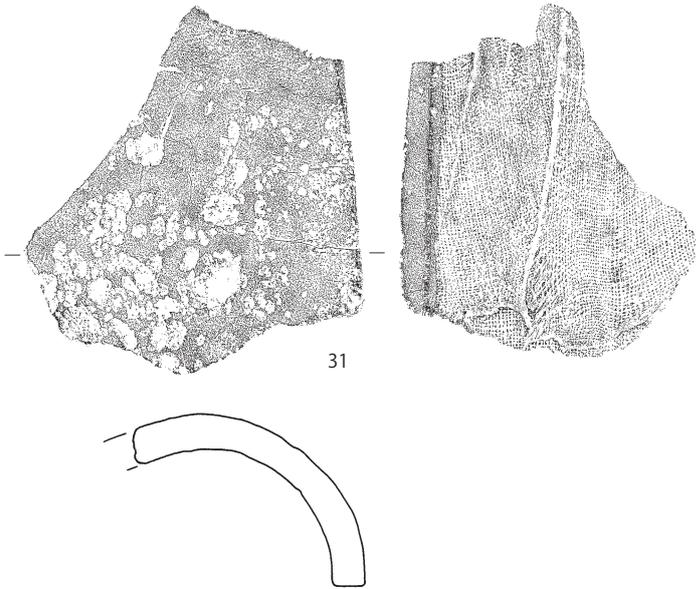
SK1



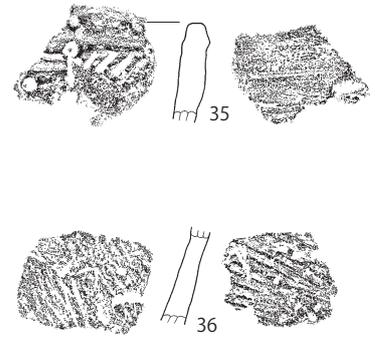
SK5



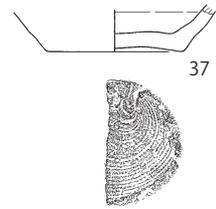
SK4



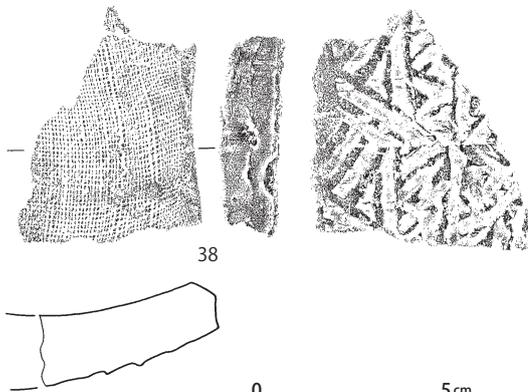
SK6



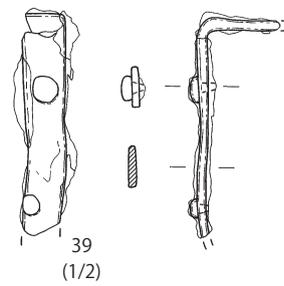
SK13



SK17



P18

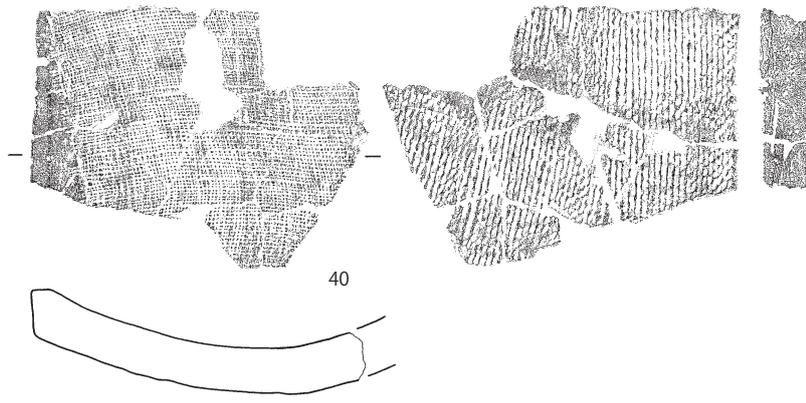


0 5cm (1/2)

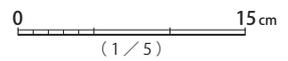
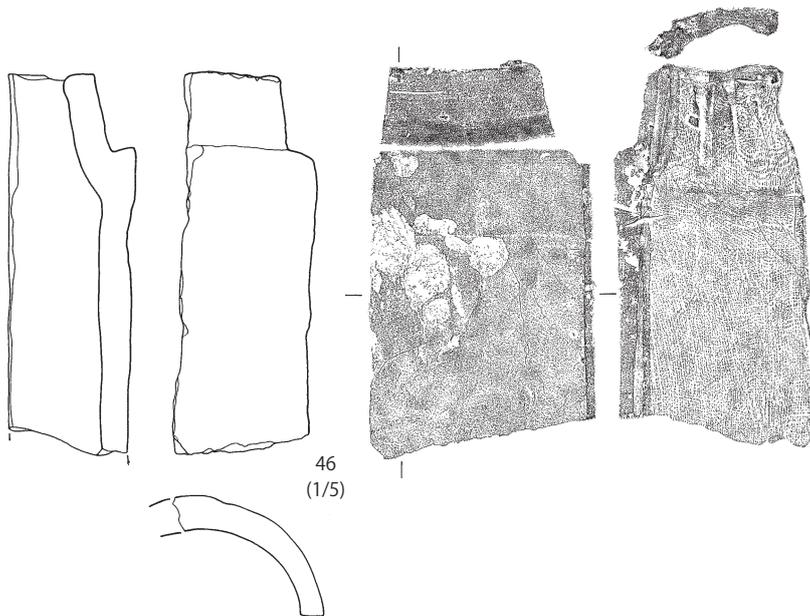
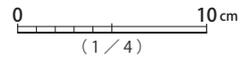
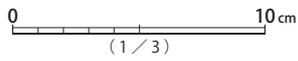
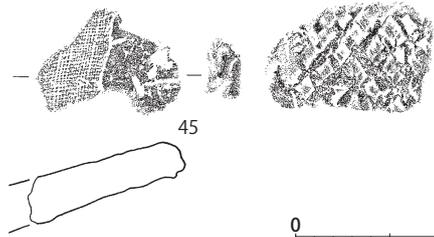
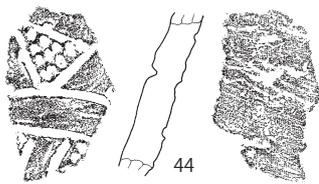
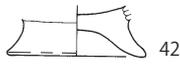
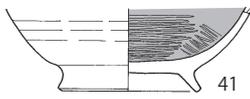
0 10cm (1/3)

0 10cm (1/4)

第23図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(6)



遺構外



第24図 中台遺跡(第3次) 遺物実測図(7)

## 4 中台遺跡(第4次)

**調査概要** 中台遺跡(第4次)は、63㎡を本調査し、平安時代竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代土坑2基、中世土坑38基、及び中世の溝6条を検出した。

**遺構と遺物** 竪穴建物跡SI1は、調査区の北東に位置し、平面形態は、方形を呈する。南部分をSK5やSK6により切られているが、本遺構の方が古いと考えられる。平面規模は、現存長で4.8×(3.8)m、遺構深度20cm程度を測る。主軸方位は、N-2°-Eであり、覆土は、ローム粒を含む黄褐色土を主体とする。

北側にカマドが存在しているが、西側をSK12により切られており、右側のソデ部を残すのみである。ソデは、灰白色粘土を含む黄褐色土を主体として作られていた。

明瞭な硬化面は検出されず、壁溝も認められなかった。柱穴は、4か所検出され、深度は、P1が46cm、P2が31cm、P3が38cm、P4が22cm程度を測る。

遺物は、覆土中から土師器杯の底部1が出土するが、図示できない遺物として、丸瓦及び平瓦片、条痕文系の縄文土器片が出土している。縄文土器片は混入であろう。

土坑SK2は、調査区の南端に位置し、平面形態は、隅がやや丸まった方形を呈すると考えられる。平面規模は、現存長で(1.6)×1.4m、遺構深度80cm程度を測る。主軸方位は、N-52°-Eであり、覆土は、ローム粒を均等に含む黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から土師器杯2・3・4・5、須恵器杯底部6、甕口縁部7・8、甕下半部9が出土している。

SK3は、調査区の南東部に位置し、SI1の南辺と切り合っている。平面形態は、不整な円形を呈する。平面規模は、現存長で0.8×0.7m、遺構深度40cm程度を測り、覆土は、ローム粒を均等に含む灰黄褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から須恵器甕10が出土している。外面に縦位のタタキ目が残り、千葉市域産と考えられる。

SK6は、調査区の南東部に位置し、SI1と重複関係にある。平面形態は、方形を呈し、南東部において、SK5と重複する。平面規模は1.8×1.0m、遺構深度30cm程度を測る。主軸方位は、ほぼ座標北であり、覆土は、ローム粒を均等に含む黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から縄文土器片11が出土しているが、混入であろう。SK5と共に、中世期の土坑である可能性がある。

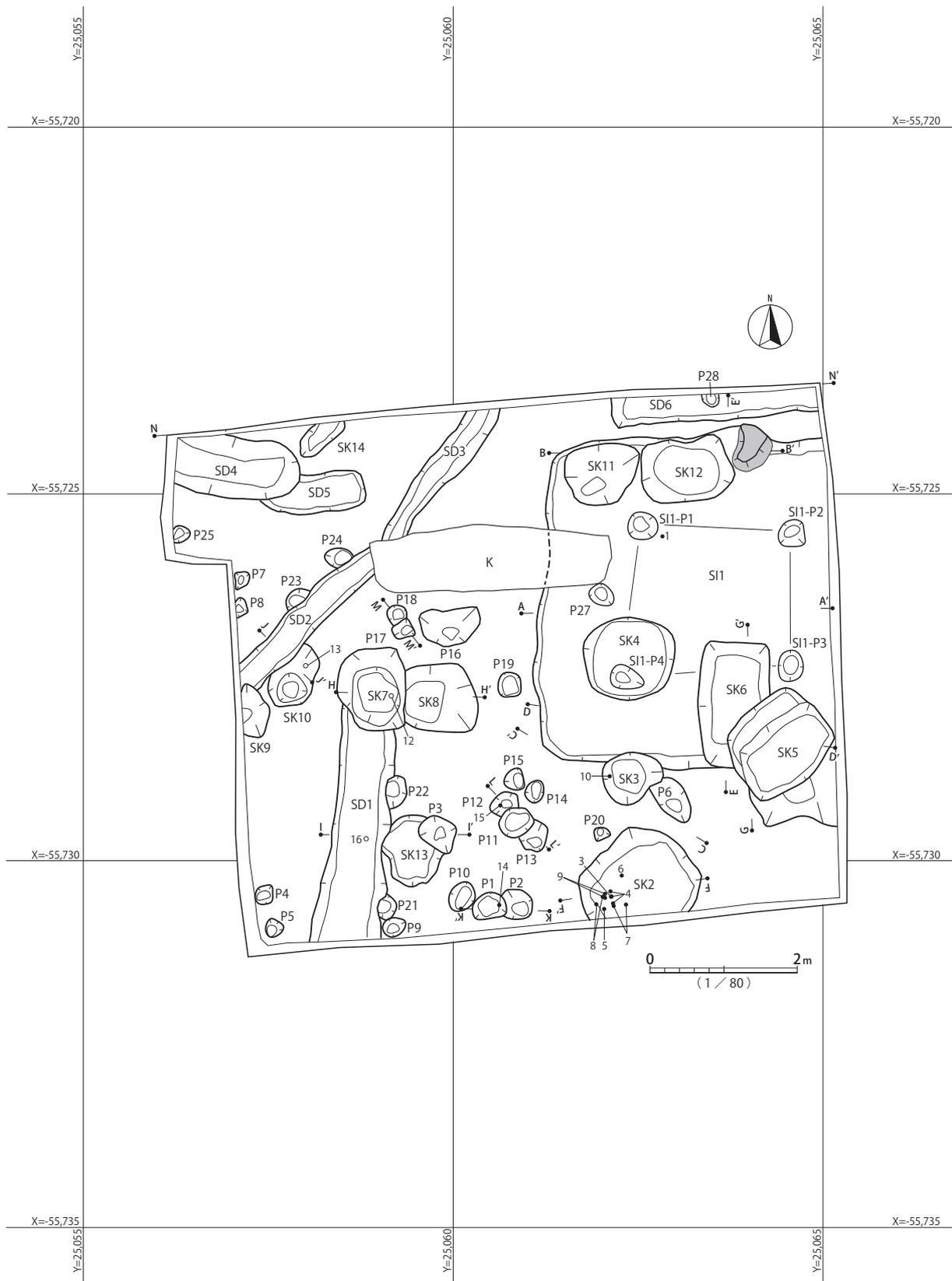
SK7は、調査区の西寄りに位置し、平面形態は、東隣するSK8と組み合わさるように不整な円形が2つ連なっている。平面規模は1.2×0.9m、遺構深度70cm程度を測る。覆土は、ロームブロックを多量に含む褐灰色土を主体とする。

遺物は、覆土中から平瓦12が出土するが、図示できない遺物として、丸瓦片が出土している。隣接するSK8からは、図示できる遺物の出土はなかったが、平瓦片が出土している。SK7及びSK8は、共に中世期の土坑と考えられ、地下式坑のような一体の遺構である可能性がある。

SK10は、調査区の西側に位置し、平面形態は、不整な円形を呈する。平面規模は1.0×0.7mを測る。

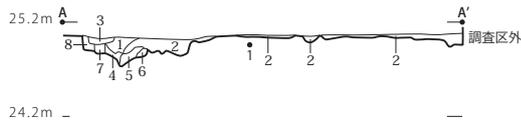
遺物は、覆土中から丸瓦13が出土しているが、図示できない遺物として、平瓦片が出土している。

P1は、調査区の南端部に位置し、平面形態は、P2と複合して、やや角の張る楕円形を呈する。平



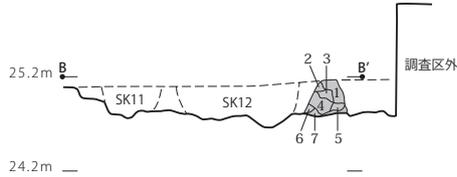
第25図 中台遺跡(第4次) 平面図

### SI1



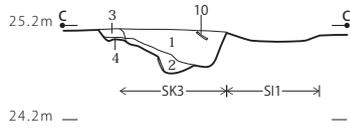
- |        |                       |        |                 |
|--------|-----------------------|--------|-----------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒含む、焼土粒含む          | 5 黄褐色土 | ローム粒多量          |
| 2 黒褐色土 | ローム粒含む、焼土粒含む、灰白色粘土粒少量 | 6 黄褐色土 | 5より褐色味強い、ローム粒多量 |
| 3 褐色土  | ローム粒多量                | 7 黄褐色土 | ローム粒多量、焼土粒微量    |
| 4 褐色土  | ローム粒多量                | 8 黄褐色土 | ローム粒多量          |

### SI1 カマド



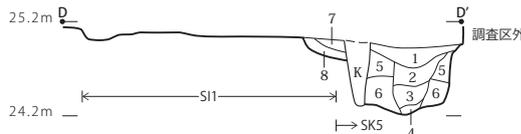
- |         |   |
|---------|---|
| 1 黄褐色土  | ローム粒含む、ロームブロック(5～20mm)少量、灰白色粘土粒多量         |
| 2 灰黄褐色土 | ローム粒多量、灰白色粘土粒均等                           |
| 3 黄褐色土  | ローム粒多量、灰白色粘土ブロック(5～50mm)含む、灰白色粘土粒均等、焼土粒含む |
| 4 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)含む、灰白色粘土粒含む、焼土粒含む   |
| 5 暗赤褐色土 | ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)含む                  |
| 6 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土粒少量含む          |

### SI1・SK3



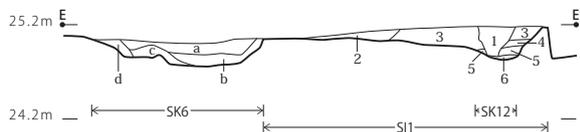
- |         |   |
|---------|---|
| 1 灰黄褐色土 | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等、灰白色粘土粒少量、焼土粒少量 |
| 2 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量                |
| 3 黒褐色土  | ローム粒少量、焼土粒多量                            |
| 4 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量、焼土粒少量          |

### SI1・SK5



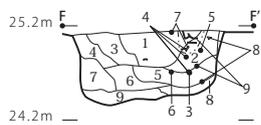
- |         |   |
|---------|---|
| 1 灰黄褐色土 | ローム粒少量                                  |
| 2 黄褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等                |
| 3 黄褐色土  | ローム粒少量、ロームブロック(5～10mm)少量                |
| 4 灰黄褐色土 | ローム粒多量、ロームブロック(5～8mm)多量、焼土・炭化物粒含む       |
| 5 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)多量                |
| 6 黒褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量                |
| 7 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量 |
| 8 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量 |

### SI1・SK6



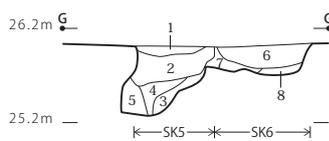
- |         |  |         |   |
|---------|--|---------|---|
| 1 黒褐色土  | ローム粒含む、灰白色粘土ブロック(5～20mm)多量                 | 6 黒褐色土  | ローム粒含む、ロームブロック含む、灰白色粘土粒少量、焼土粒多量         |
| 2 灰黄褐色土 | ローム粒含む、焼土粒含む                               | a 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量 |
| 3 黄褐色土  | ローム粒含む、灰白色粘土ブロック(5～20mm)多量、焼土粒含む           | b 灰黄褐色土 | ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量 |
| 4 黄褐色土  | ローム粒含む、ロームブロック含む、灰白色粘土粒少量、焼土粒含む            | c 明黄褐色土 | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量                |
| 5 黄褐色土  | ローム粒含む、ロームブロック含む、灰白色粘土ブロック(5～10mm)多量、焼土粒含む | d 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量、灰白色粘土粒少量、焼土粒微量 |

### SK2 南側

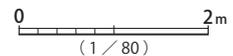


- |         |  |         |                                   |
|---------|--|---------|-----------------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)均等、灰白色粘土ブロック(5～10mm)含む、焼土・炭化物粒含む | 5 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)多量、灰白色粘土粒含む |
| 2 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～8mm)少量、灰白色粘土ブロック含む、焼土・炭化物粒含む          | 6 黄褐色土  | ロームブロック(5～30mm)多量、炭化物粒含む          |
| 3 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～8mm)均等                                | 7 灰黄褐色土 | ロームブロック(5～20mm)多量、炭化物粒含む          |
| 4 黄褐色土  | ロームブロック(5～50mm)多量                                      | 8 黄褐色土  | ロームブロック(5～30mm)多量                 |
|         |  | 9 灰黄褐色土 | ロームブロック(10～20mm)多量                |

### SK5・6

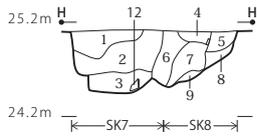


- |         |  |
|---------|--|
| 1 黒褐色土  | ローム粒含む、焼土粒含む、灰白色粘土ブロック(5～20mm)多量           |
| 2 黄褐色土  | ローム粒含む、ロームブロック含む、焼土粒含む、灰白色粘土ブロック(5～20mm)均等 |
| 3 黒褐色土  | ローム粒多量、灰白色粘土ブロック(5～50mm)含む、灰白色粘土粒少量、焼土粒多量  |
| 4 黒褐色土  | ローム粒少量                                     |
| 5 黒褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等                   |
| 6 黄褐色土  | ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等                   |
| 7 明黄褐色土 | ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量                   |
| 8 黄褐色土  | ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量                   |



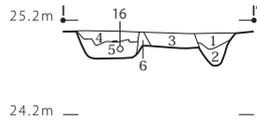
第26図 中台遺跡(第4次)断面図(1)

### SK7・8



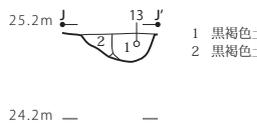
- 1 にぶい褐色土 ローム粒均等、ロームブロック(5～12mm)均等、焼土・炭化物粒均等
- 2 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～30mm)多量、焼土・炭化物粒多量
- 3 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量、焼土・炭化物粒含む
- 4 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～30mm)多量、焼土・炭化物粒含む
- 5 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土・炭化物粒少量
- 6 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)均等、焼土・炭化物粒含む
- 7 にぶい褐色土 ローム粒均等、ロームブロック(5～10mm)均等
- 8 灰褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～40mm)多量
- 9 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)多量

### SD1 P3



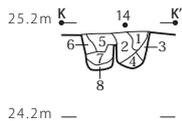
- 1 黒褐色土 ローム粒多量
- 2 暗褐色土 ローム粒多量
- 3 灰黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～20mm)含む、炭化物粒少量
- 4 黄褐色土 ロームブロック(5～10mm)含む
- 5 黄褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量
- 6 灰黄褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量

### SD2・SK10



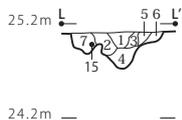
- 1 黒褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量
- 2 黒褐色土 ローム粒多量

### P1・2 南側



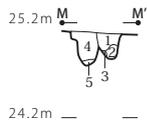
- 1 灰褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～7mm)多量、焼土粒少量
- 2 褐色土 ローム粒均等、焼土粒少量
- 3 黒褐色土 ローム粒均等、焼土粒少量
- 4 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～7mm)多量、焼土粒少量
- 5 灰褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量
- 6 暗褐色土 ローム粒少量、焼土・炭化物粒含む
- 7 黒褐色土 ローム粒均等、焼土・炭化物粒含む
- 8 にぶい褐色土 ローム粒均等、ロームブロック(5～7mm)均等

### P11・12・13



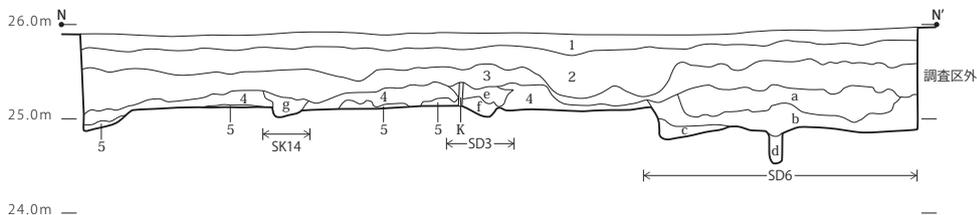
- 1 灰黄褐色土 ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)含む、焼土・炭化物粒含む
- 2 黒褐色土 ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)含む、焼土・炭化物粒含む
- 3 黒褐色土 ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土・炭化物粒含む
- 4 黄褐色土 ローム粒含む、ロームブロック(5～10mm)多量、焼土・炭化物粒含む
- 5 黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)均等
- 6 黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～10mm)多量
- 7 灰黄褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～30mm)多量

### P17・18

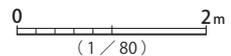


- 1 黒褐色土 ローム粒均等、ロームブロック(5～8mm)均等
- 2 褐色土 ローム粒多量、ロームブロック(5～8mm)多量
- 3 黒褐色土 ローム粒多量
- 4 黒褐色土 ローム粒均等、ロームブロック(5～8mm)均等
- 5 黄褐色土 ローム粒多量

### SI1 北面



- 1 表土
- 2 灰黄褐色土 ロームブロック(10～20mm)含む
- 3 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量、焼土粒微量
- 4 暗褐色土 ロームブロック(5～30mm)多量
- 5 褐色土 地山i<sub>0</sub>ソフトローム
- a 黄褐色土 ロームブロック(5～30mm)多量、灰白色粘土粒含む
- b 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量
- c 褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量
- d 暗褐色土 ローム粒多量
- e 灰黄褐色土 ロームブロック(5～15mm)多量
- f 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量
- g 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)多量、焼土粒(～5mm)微量

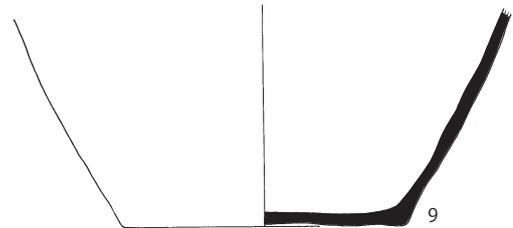
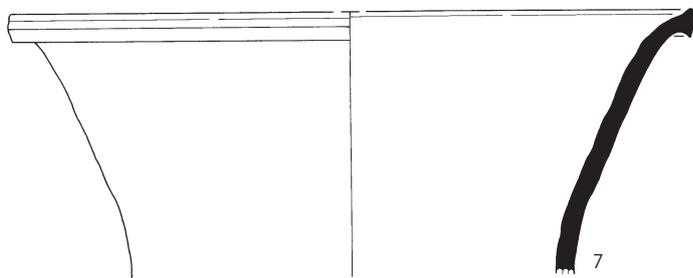
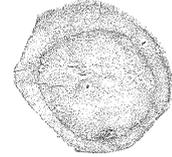
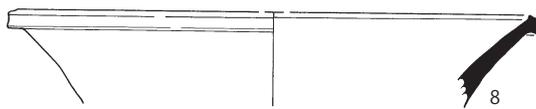
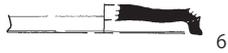
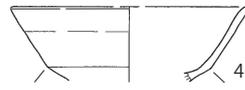
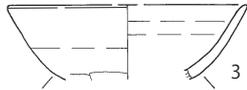
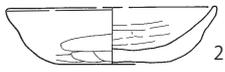


第27図 中台遺跡(第4次)断面図(2)

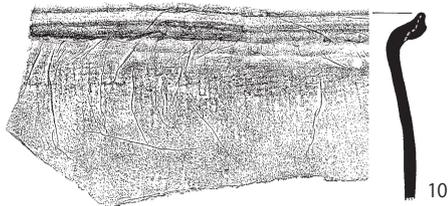
SI1



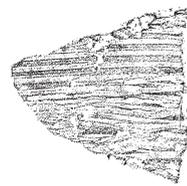
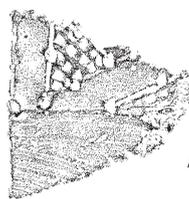
SK2



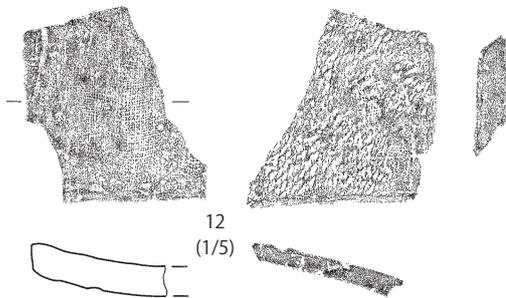
SK3



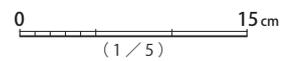
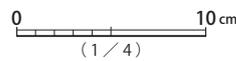
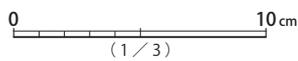
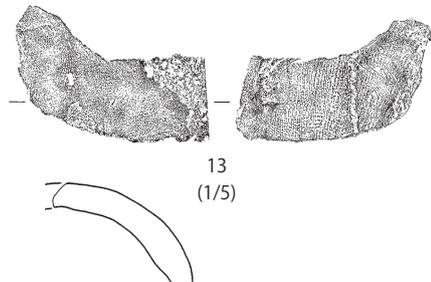
SK6



SK7

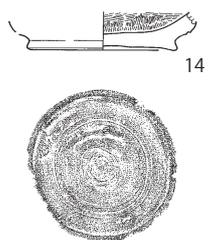


SK10



第28図 中台遺跡(第4次) 遺物実測図(1)

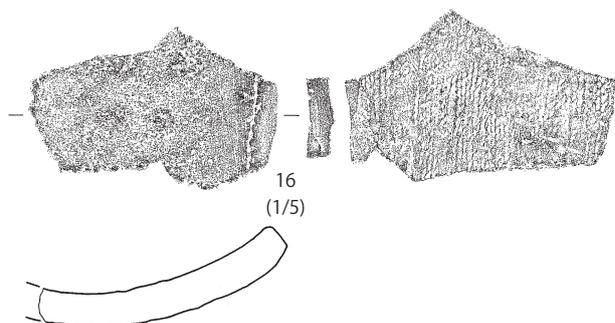
P1



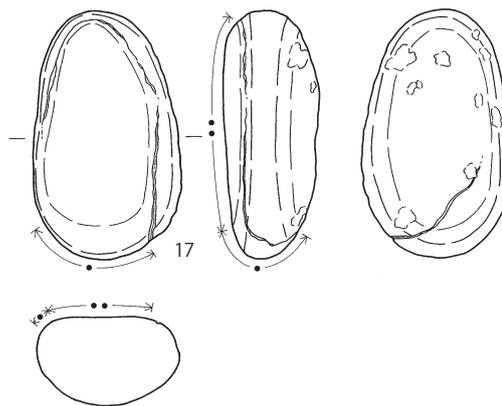
P12



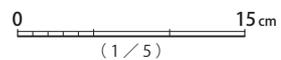
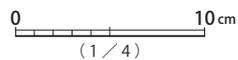
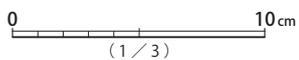
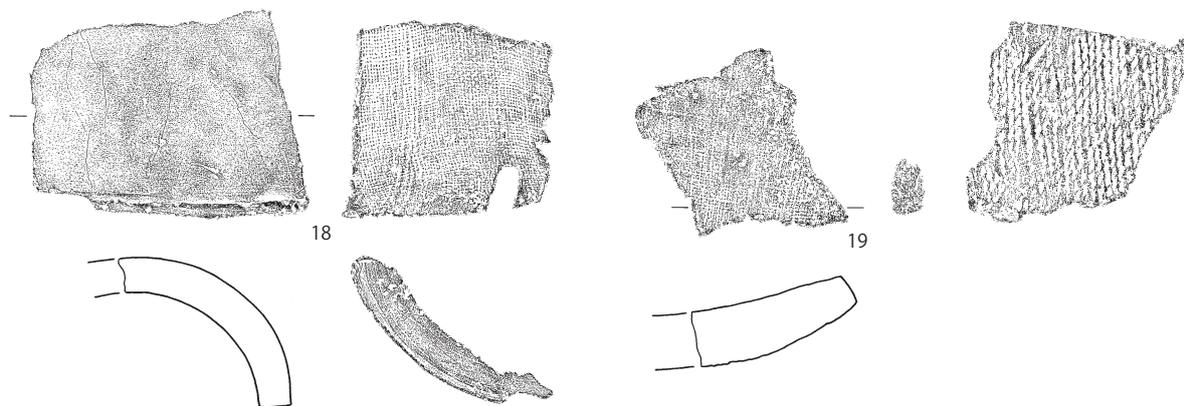
SD1



SD6



遺構外



第29図 中台遺跡(第4次) 遺物実測図(2)

面規模は0.8×0.4m、遺構深度40cm程度を測る。覆土は、ローム粒を均等に含む黒褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から内面が黒色処理された土師器杯14が出土する。

P11は、調査区の南側に位置し、平面形態は、P12やP13と複合して、3つの円形土坑が縦に連なったような形態を呈する。平面規模は0.5×0.4m、遺構深度40cm程度を測る。覆土は、ロームブロックを多く含む黄褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかったが、鉄滓が少量出土している。

P12は、調査区の南側に位置し、平面形態は、P11及びP13と連なり、団子状を呈する。平面規模は1.0×0.4m、遺構深度40cm程度であり、覆土は、ロームブロックを多量に含む灰黄褐色土を主体とする。

遺物は、覆土中から土師器杯15が出土している。

SD1は、調査区の南西側に位置し、北側端部でSK7と重複する。本遺構の方が新しいと考えられる。平面規模は(3.1)×0.9mを測る。主軸方位は、N-6°-Eであり、覆土は、ロームブロックを含む黄褐色土を主体とする。

遺物は、平瓦16が出土している。また、図示することはできなかったが、条痕文系の縄文土器深鉢胴部片や、灰釉陶器壺と考えられる細片などが出土している。他の遺物では、遺構外遺物として、丸瓦18、平瓦19が出土している。

なお、図示できない遺物として、緑釉陶器の細片が出土している。瓦では、いずれも4隅が無いEのみで20点であった。

中台遺跡(第2～4次)について、第2次地点として全体の確認調査を行い、第3次及び第4次地点において本調査を行った。

本調査を実施した第3・4次地点において、弥生時代後期～古墳時代の遺構は基本的に検出されず、平安期を中心とした竪穴建物跡や中世期まで下る土坑が、検出された遺構の主体であった。このことは、神門古墳群を中心とする遺構群より、隣接する上総国分僧寺跡の影響を強く受けた遺構群が、本調査地点まで展開していたことを示していると考えられる。

第3次地点で検出された竪穴建物跡SI1の東側カマドの構築材に転用されていた丸瓦等は、上総国分僧寺跡の瓦が持ち込まれた可能性がきわめて高いと考えられる。本遺構が存在した9世紀の中頃には、上総国分僧寺跡西辺部周辺の建物の荒廃が、ある程度進んでいた可能性が考えられる。

## 5 郡本遺跡群(第26次)

**遺跡の位置** 郡本遺跡群(第26・27次)、及び同(第28次)・市原城跡は、東京湾旧海岸線から東方約2kmにある標高22～25m程度の台地上に位置し、台地の縁辺部は、小谷によって樹枝状に開析された舌状地形が連なる。

これまで、台地北端部の光善寺廃寺跡や市原城跡などがある市原地区から、門前地区や郡本地区を経て、藤井地区に至る広範囲において、住宅等の建設に伴う小規模な調査が数次にわたり行われてきた。

各調査地点では、奈良・平安時代や中世期の遺構が濃密に検出されており、現在は、遺構の状況や規模によって、奈良・平安時代に関しては、官衙エリア及び官衙周辺エリアの絞り込みが行われようとしている段階である。

第26次調査区の東側は、字「古甲」と呼ばれ、古国府を連想させる地名であることから、周囲は、上総国府推定地の一つとして重点的に発掘調査が行われてきている。今回の調査地点に隣接する南側において、平成3年度に発掘調査が行われており、掘立柱建物跡の柱穴の可能性のあるピット群や、竪穴建物跡などが検出されている。出土遺物の帰属時期は、奈良時代後半から平安時代前半を主体とする。

南西100mでは、平成4年度に発掘調査が行われ、幅8mに及ぶ大溝が検出されている。帰属時期は、奈良時代後半から平安時代前半よりも新しいとの見解が示されている。

一方、第27次調査区の北西100mには、官庁などを守護するという神である守公神を想起する「守公山神主院」跡が存在しており、本地点周辺は市原郡衙推定地となっている。

さらに、台地北側に位置する第28次調査区は、北方100mに光善寺廃寺跡が存在し、周囲からは、古相を示す凸面布目の平瓦片が採集され、上総国分僧・尼寺建立以前の寺院跡として注目されている。南北に走る国道297号を越えた西側の辻地区では、長軸2mに及ぶ規模の柱穴が確認されており、大型の掘立柱建物跡の存在を予想させる。

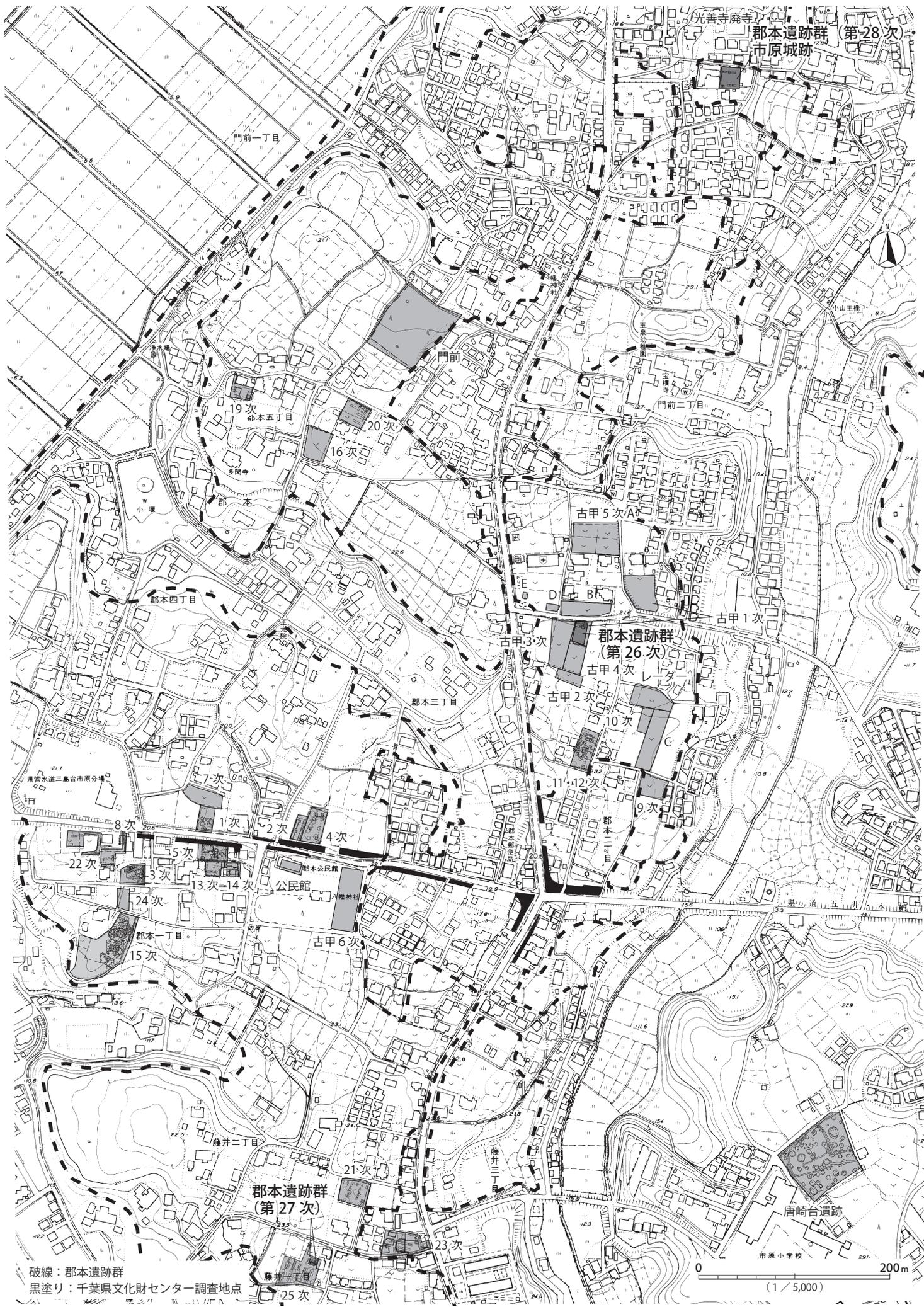
第28次調査区東側は、谷に向かって緩斜面になり始める地点であることから、官衙関連の南北方向の区画溝等が存在する可能性が想定された。

**調査概要** 郡本遺跡群(第26次)は、個人住宅の建築に伴って発掘調査が行われ、86.88㎡の本調査を実施した。その結果、奈良時代の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代の溝状遺構1条が検出された。

**遺構と遺物** 竪穴建物跡SI1は、調査区の南側に位置し、南半部は、調査区外に続くと考えられる。平面形態は、方形を呈し、東辺が北に延長される形で張り出している。東辺をSK2に切られており、本遺構が先行すると考えられる。平面規模は、現存長で(2.9)(張り出し部を含めると(5.1))×5.4m、遺構深度30cm程度である。主軸方位は、N-88°-Eであり、覆土は、黒色味の強い黒褐色土を主体とする。

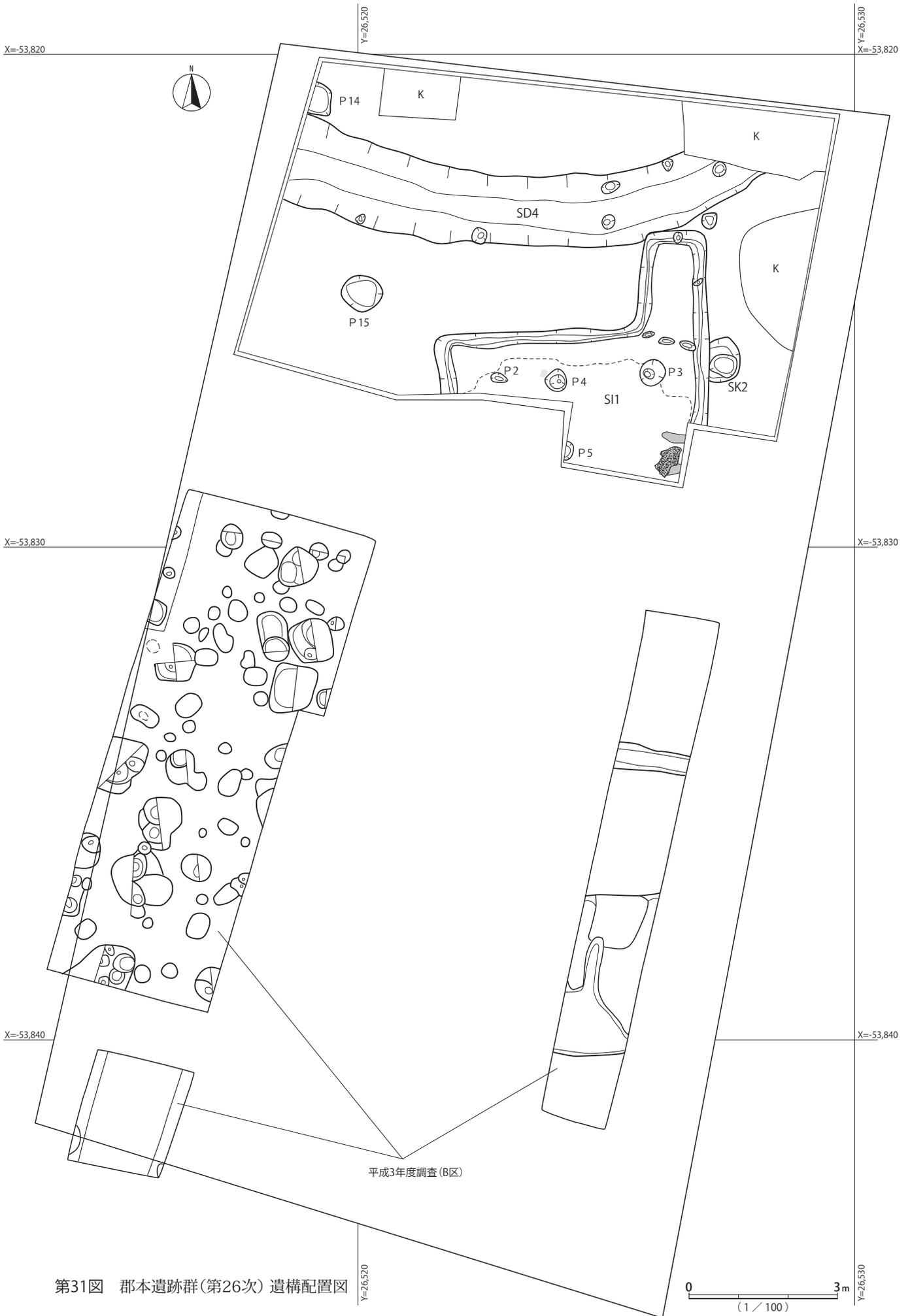
東壁にカマドが存在しているが、遺存状態は極めて悪く、カマドのソデの残骸と考えられる白色粘土溜りの間に炭化物粒が広がっている状況であった。ソデは、白色粘土と山砂を主体として作られていた。

また、柱穴からカマドに向かって硬化面が検出された。壁溝も遺構内を全周する。

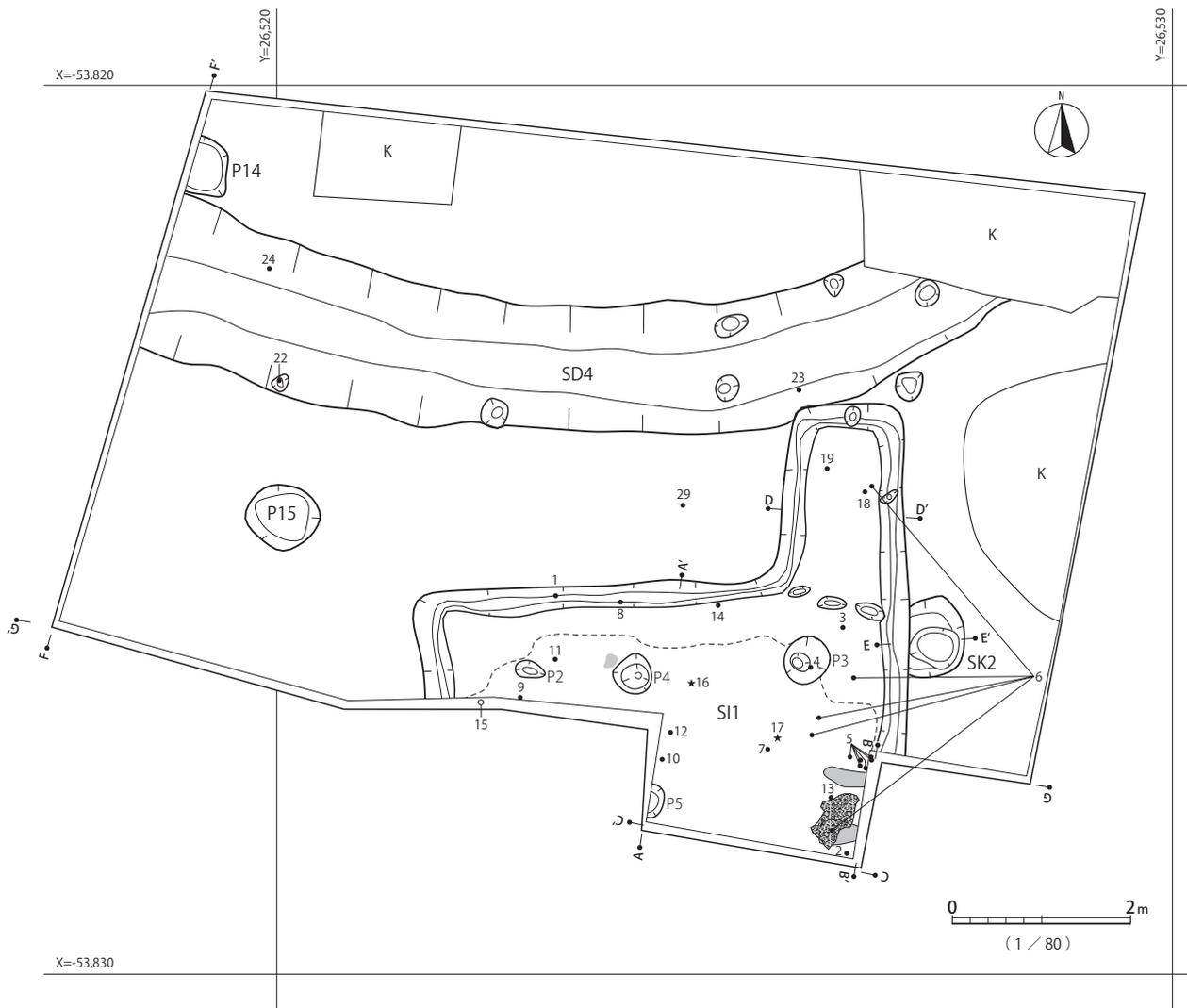


破線：郡本遺跡群  
 黒塗り：千葉県文化財センター調査地点

0 200m  
 (1/5,000)



第31図 郡本遺跡群(第26次) 遺構配置図



第32図 郡本遺跡群(第26次) 平面図

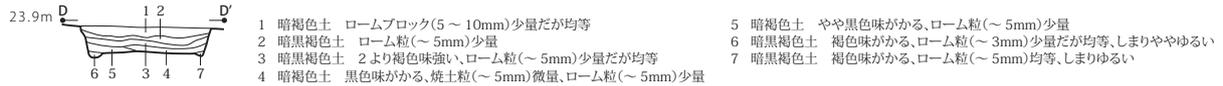
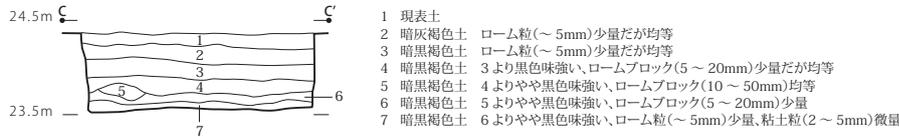
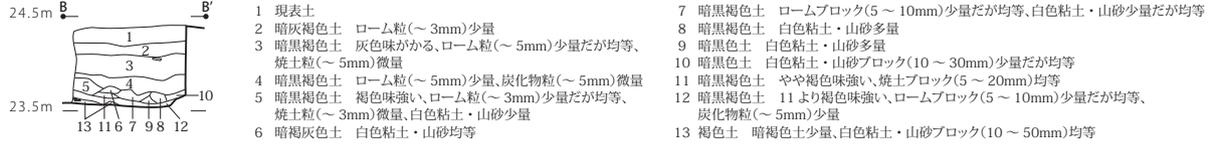
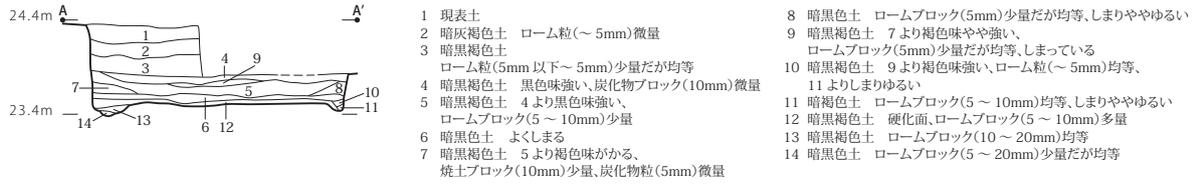
張り出し部は、 $1.4 \times 2.0\text{m}$ の規模で拡張されている。SI1本体と張り出し部との接続部分の床面には、長楕円形の窪みが3か所直線的に並んで検出されており、何らかの間仕切り施設を伴った可能性がある。また、張り出し部からは少なからず土器片が出土しており、収納施設としての機能を果たした可能性も考えられる。

遺物は、カマド南ソデ脇床面直上から甕6が出土し、P3から、土師器の甕4が出土している。また、覆土中から土師器の杯1～3、小型甕5、甕7、須恵器の高台付杯8・13、杯9～11、皿12、蓋14、平瓦15などが出土している。1及び2の底面には、墨書が施されている。その他、床面から鉄滓17が出土している。また、張り出し部からは、須恵器の蓋18・19が出土している。甕6の破片は張り出し部にも分布しており、張り出し部は竪穴本体と同時に機能廃絶したと見られる。

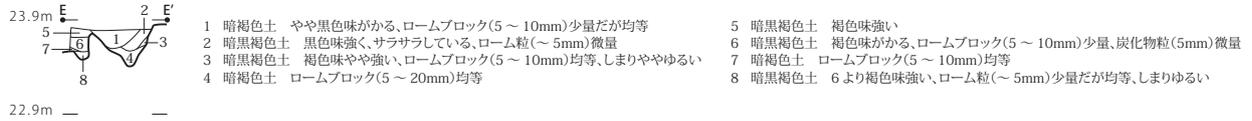
その他、図示できる遺物ではないものの、緑釉陶器の皿の可能性のある体部細片や、鉄滓少量などが出土している。

土坑SK2は、調査区の南東部に位置し、西側がSI1と重複する。本遺構の方が、新しいと考えられる。平面形態は、不整な円形を呈する。平面規模は、現存長で $(0.6) \times 0.9\text{m}$ 、遺構深度30cm程度を測り、覆土は、やや黒色味がかかる暗褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかった。中世期の遺

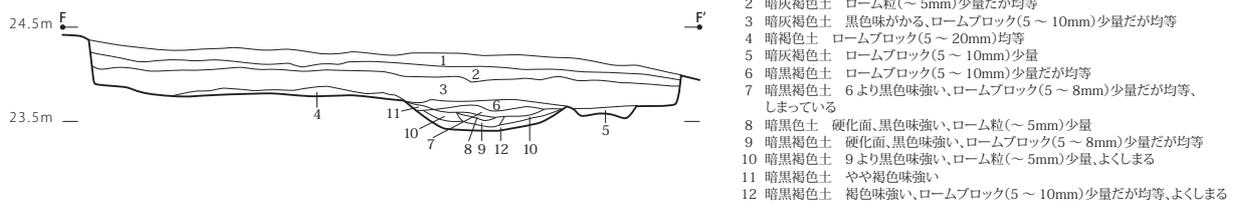
SI1



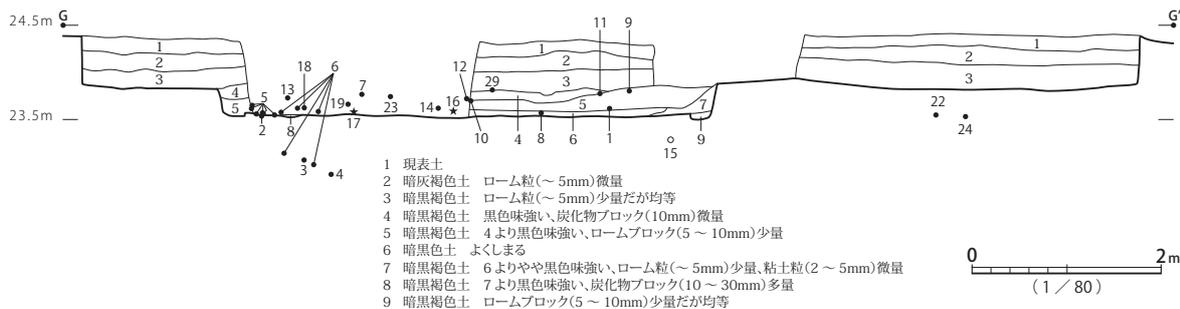
SK2



西端

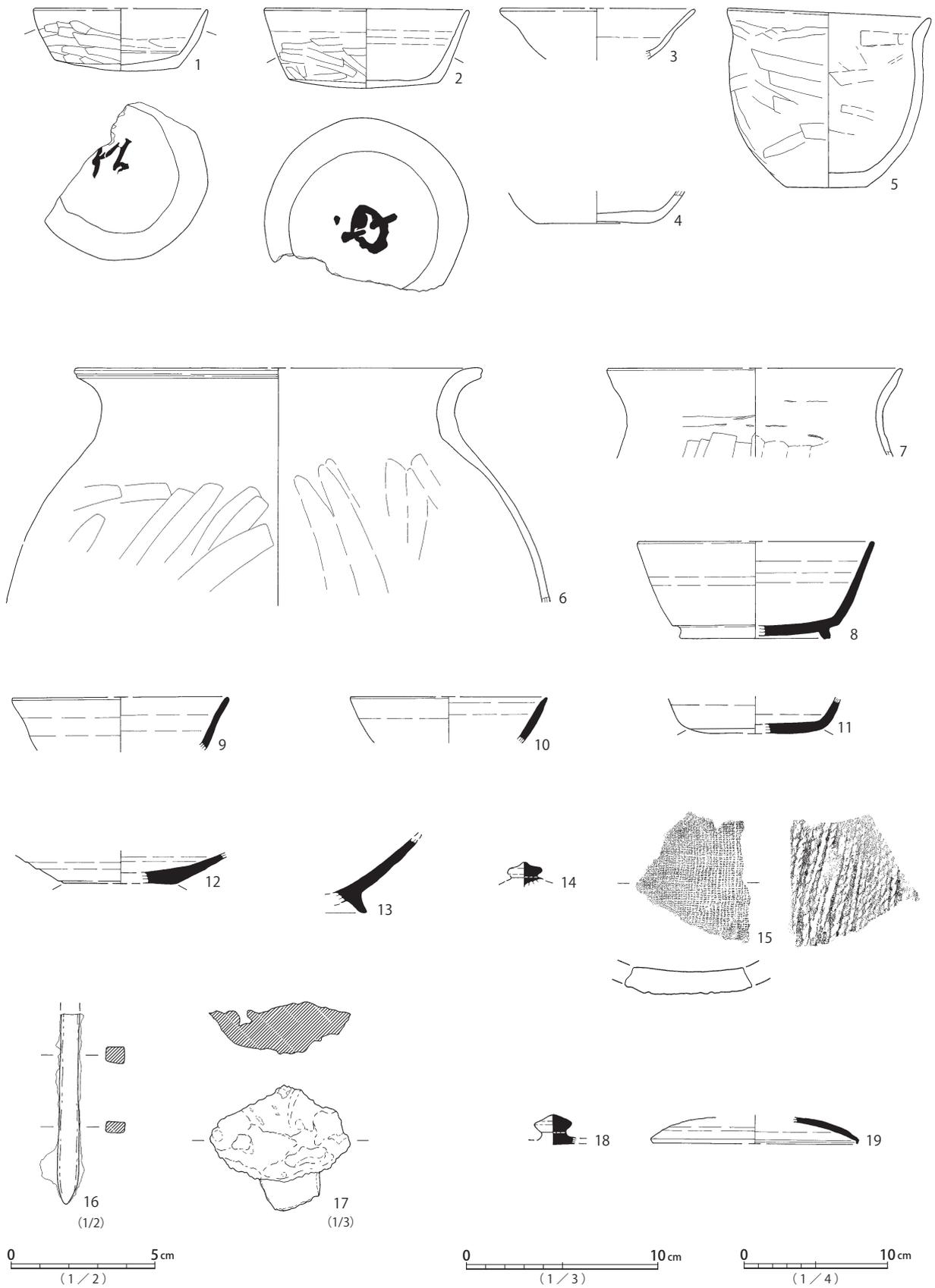


南端



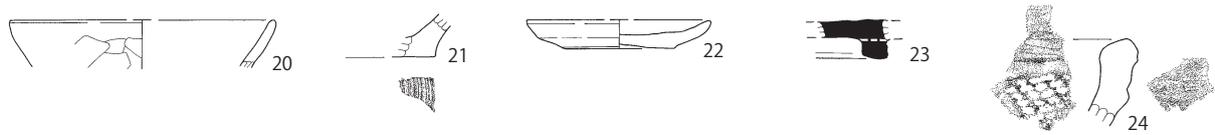
第33図 郡本遺跡群(第26次)断面図

SI1

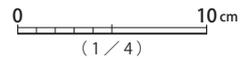
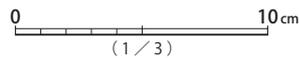
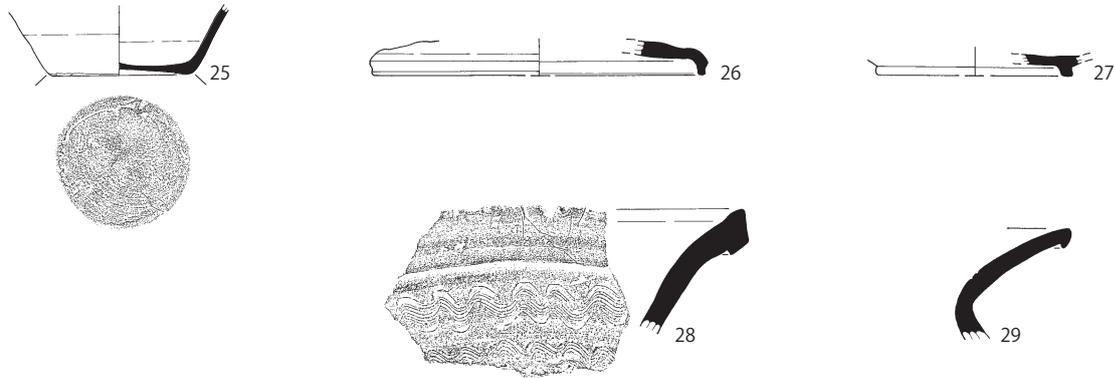


第34図 郡本遺跡群(第26次) 遺物実測図(1)

SD4



遺構外



第35図 郡本遺跡群(第26次) 遺物実測図(2)

構であろうか。

SD4は、調査区の北側を、西から北東方向に緩く曲がりながら、東側の谷部へと向かっていく。平面規模は(9.3)×1.6m程度を測る。主軸方位は、N-87°-Eであろうか。覆土は、ロームブロックを少量だが均等に含む黒褐色土を主体とする。遺構内の中～下層覆土がよくしまっており、道として使用されていた可能性がある。

遺物は、覆土中から土師器杯20、カワラケ21・22、須恵器の壺底部23及び縄文土器口縁部片24などが出土している。SD4は中世期に機能したと考えられる。

他の出土遺物では、遺構外出土遺物として、須恵器の杯25、蓋26、高台付杯底部27、及び甕口縁部28・29が出土している。

平成3年度調査(B区)において確認された掘立柱建物跡の可能性のあるピット等は、今回の調査区において検出されなかった。帰属時期が8世紀第2～3四半期を主体とする、収蔵施設の可能性がある張り出し部を持つ竪穴建物跡が検出されたことは、今後の上総国府推定地を考えるうえで、ひとつの示唆を与えてくれていると考えられる。

## 6 郡本遺跡群(第27次)

**調査概要** 郡本遺跡群(第27次)は、63.74㎡を本調査し、奈良・平安時代竪穴建物跡2棟、古墳時代土坑7基、奈良・平安時代土坑10基、平安時代溝状遺構1条を検出した。

**遺構と遺物** 竪穴建物跡SI1は、調査区の北東端部に位置し、遺構の大半が北東調査区外に展開しているものと考えられる。平面形態は、隅がやや丸まった方形を呈する。平面規模は、現存長で(1.5)×(1.4)m、遺構深度20cm程度を測る。主軸方位は、N-9°-Eであろうか。覆土は、ロームブロックを少量だが均等に含む黒褐色土を主体とする。硬化面が検出され、壁溝も検出された。図示できる遺物としては、覆土中から土師器甕の上半部1が出土するのみである。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、平面形態、遺物及び覆土の状況から、奈良・平安期を主体とする遺構と考えられる。

竪穴建物跡SI2は、調査区の北西側浄化槽設置部分で検出され、遺構の大半が北側調査区外に続くものと考えられる。平面形態は、方形と推定する。平面規模は、現存長で(1.7)×(0.8)m、遺構深度20cm程度を測る。覆土は、黒褐色土を主体とする。硬化面や壁溝は、検出されなかった。図示できる遺物としては、覆土中から折り返し口縁を持つ弥生土器壺の口縁2が出土するのみである。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、覆土の状況等から、SI1と近似した時期の遺構と判断したい。

土坑SK1は、調査区の西端に位置し、SD1の西端部と切り合っている。SK1の方が、古いと考えられる。平面形態は、不整な円形を呈する。平面規模は、現存長で(0.6)×1.1m、遺構深度30cm程度を測り、覆土は、ローム粒を少量含む暗褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかった。

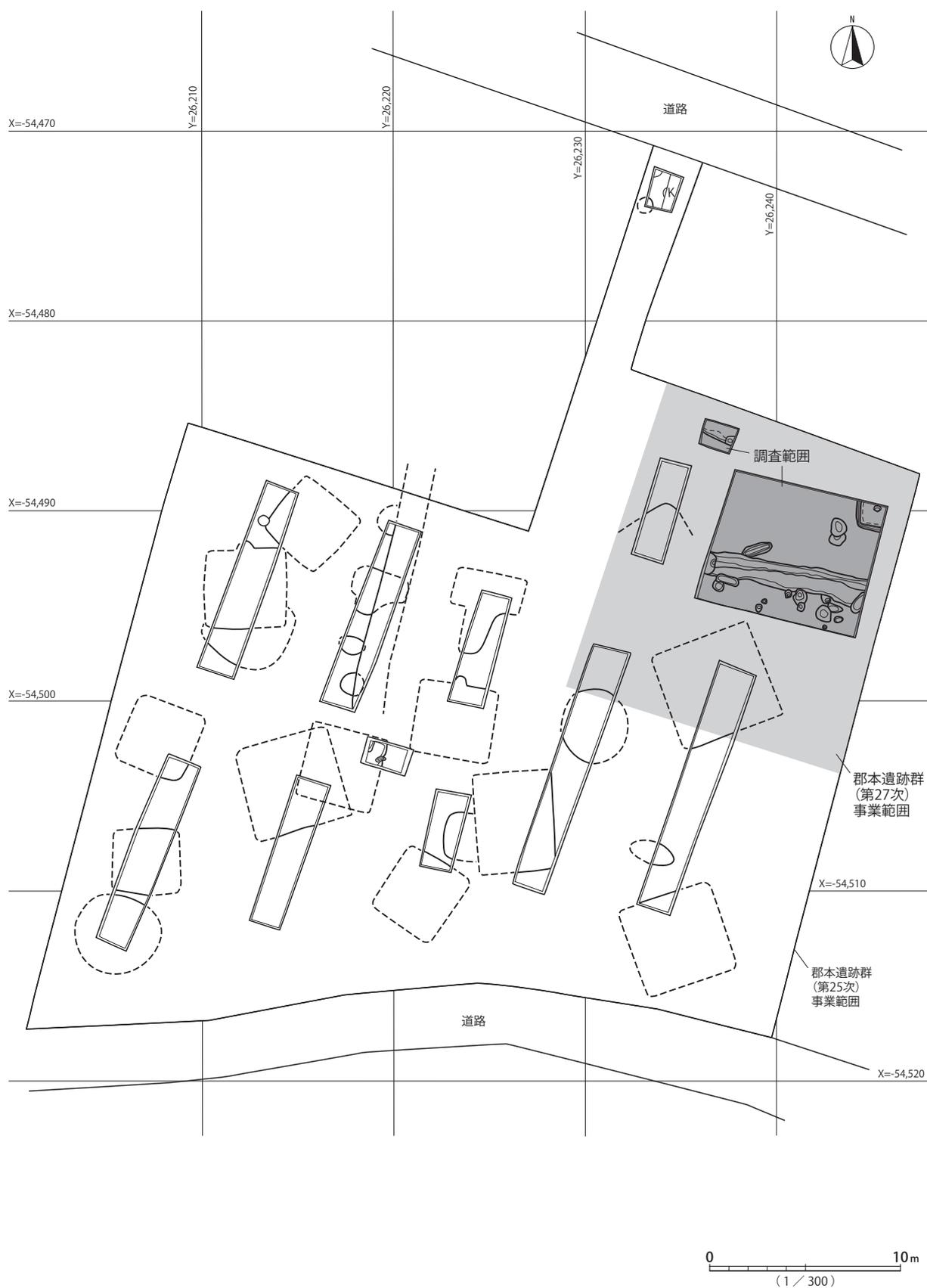
SK2は、調査区の東端に位置し、平面形態は、隅がやや張った楕円形を呈する。平面規模は、現存長で(0.8)×(0.5)mを測り、主軸方位は、N-40°-Eである。遺物は、覆土中から土師器壺口縁部3が出土している。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、遺物等から古墳時代前期前葉を中心とした遺構の可能性はある。

SK3は、調査区の西側に位置し、SD1と一部、切り合っている。平面形態は、やや角の張る楕円形を呈する。平面規模は、現存長で(1.6)×0.6m、遺構深度70cm程度を測り、覆土は、ロームを少量含む黒褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土はなかったが、遺構の形態及び覆土の状況から、縄文時代の陥し穴である可能性が高いと考えられる。

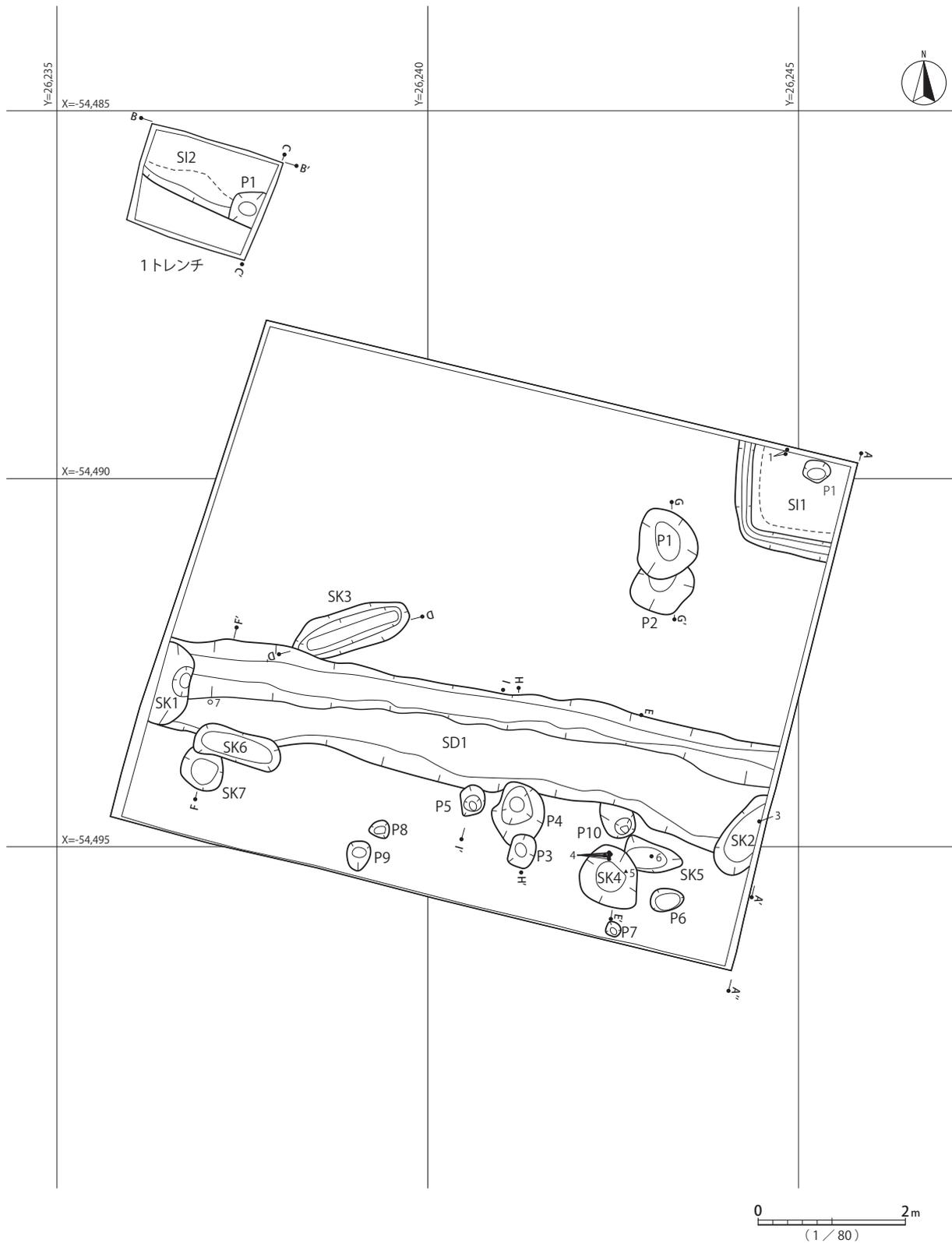
SK4は、調査区の南東部に位置し、SK5と重複関係にある。平面形態は、不整な円形を呈し、北東側において、SK5と重複する。平面規模は1.0×0.8m、遺構深度40cm程度を測り、覆土は、ローム粒を均等に含む黒褐色土を主体とする。遺物は、覆土中から土師器壺の胴部4が出土している。外面が丁寧にヘラミガキされ、赤彩が施されている。他には、石器として磨石5が出土している。被熱しており、焼け礫として再利用された可能性がある。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、遺物等から古墳時代前期を主体とした遺構の可能性はある。

SK5は、調査区の南東部に位置する。平面形態は、不整な楕円形を呈し、南西側において、SK4と重複する。平面規模は1.0×0.4m、遺構深度30cm程度を測り、覆土は、ロームを均等に含む暗褐色土を主体とする。遺物は、覆土中から土師器の小型壺6が出土している。帰属時期を判断する根拠に乏しいが、遺物等から古墳時代前期前葉～中葉を主体とした遺構の可能性はある。

溝状遺構SD1は、調査区の南側を東西に横断している。平面規模は(8.4)×1.1～1.5m程度を測る。



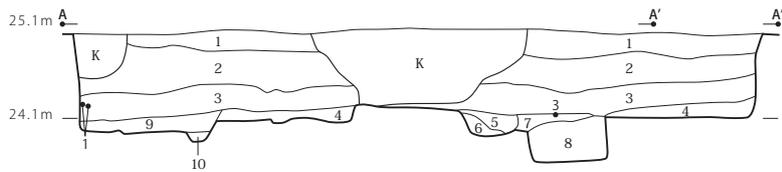
第36図 郡本遺跡群(第27次)全体図



第37図 郡本遺跡群(第27次) 平面図

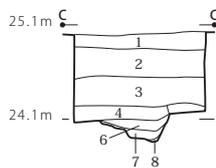
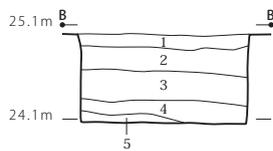
主軸方位は、 $N-79^{\circ}-W$ である。出土遺物は、平瓦7のみである。その他、1トレンチから土師器甕の底部8や、遺構外出土遺物として、土師器杯の底部9が出土している。底部に糸切り痕が残る。

# 東面



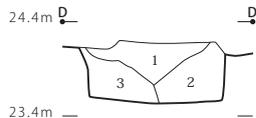
- 23.1m —
- 1 表土
  - 2 褐灰色土 ローム粒(～1mm)少量
  - 3 黒褐色土 ローム粒(～1mm)多量、ロームブロック(5～10mm)少量
  - 4 黄褐色土 ローム漸移層
  - 5 黄褐色土 ローム粒(～5mm)均等
  - 6 黒褐色土 ローム粒(～1mm)少量、ロームブロック(20～30mm)多量
  - 7 灰黄色土 ローム粒(～5mm)多量
  - 8 黒褐色土 ローム粒(～1mm)少量、ロームブロック(10～30mm)均等
  - 9 黒褐色土 褐色味強い、ロームブロック(10～30mm)少量だが均等
  - 10 黒褐色土 9より黒色味がかかる、ロームブロック(10～20mm)少量

# SI2



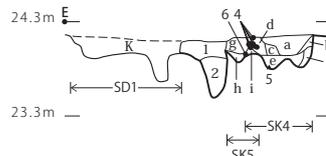
- 1 現表土
- 2 暗灰褐色土 ローム粒(～3mm)少量
- 3 暗褐色土 やや灰色味がかかる
- 4 暗黒褐色土
- 5 暗黒褐色土 4よりやや明るい、ロームブロック(10～20mm)少量
- 6 暗黒褐色土 5より黒色味強い、ロームブロック(5～10mm)微量、しまりゆるい
- 7 暗黒色土 6より明るい、ローム粒(5mm)少量だが均等
- 8 褐色土 地山にローム。

# SK3



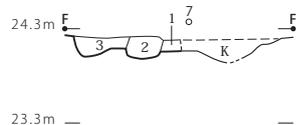
- 23.4m —
- 1 黒褐色土 ローム粒(～1mm)多量
  - 2 黒褐色土 ローム粒(～1mm)少量、ロームブロック(30～40mm)少量
  - 3 黒褐色土 ローム粒(～1mm)少量、ロームブロック(30～60mm)多量

# SK4・5



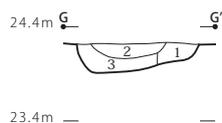
- 23.3m —
- 1 黒褐色土 ローム粒(～5mm)少量、ロームブロック(5～10mm)少量
  - 2 灰褐色土 ローム粒(～5mm)少量
  - a 黒褐色土 ローム粒(～5mm)均等
  - b 暗黒褐色土 ローム粒(～5mm)多量
  - c 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～10mm)多量
  - d 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量
  - e 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等
  - f 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量
  - g 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～10mm)均等
  - h 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、ロームブロック(5～8mm)均等
  - i 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等

# SK6・7

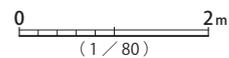


- 23.3m —
- 1 黒褐色土 ローム粒(～1mm)多量、ロームブロック(～10mm)均等
  - 2 褐灰色土 炭化物粒(～5mm)少量、焼土粒(～1mm)少量、ロームブロック(～10mm)均等
  - 3 黒褐色土 ローム粒(～1mm)多量、ロームブロック(～5mm)少量

# P1・P2

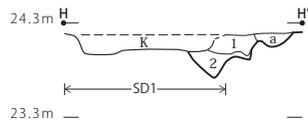


- 23.4m —
- 1 暗褐色土 ローム粒(～1mm)少量
  - 2 暗褐色土 ローム粒(～2mm)少量
  - 3 明褐色土 ローム粒(～1mm)少量



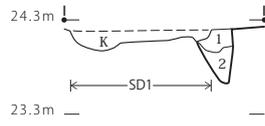
第38図 郡本遺跡群(第27次)断面図(1)

SD1・P3・P4

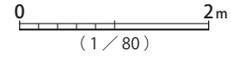


- 1 黒褐色土 ローム粒(~5mm)多量、ロームブロック(5~8mm)多量
- 2 黄褐色土 ローム粒(~5mm)多量、ロームブロック(5~8mm)多量
- a 黒褐色土 ローム粒(~5mm)均等、ロームブロック(5~8mm)均等

P5



- 1 暗褐色土 ローム粒(~5mm)多量、ロームブロック(5~15mm)多量
- 2 暗褐色土 ローム粒(~5mm)多量、ロームブロック(5~8mm)多量



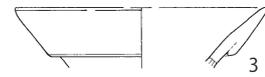
SI1



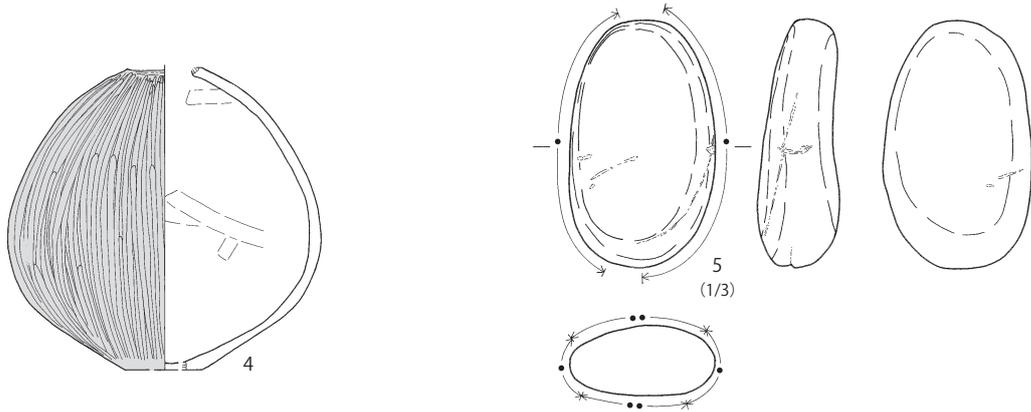
SI2



SK2



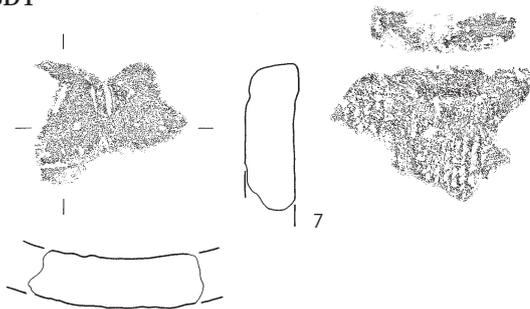
SK4



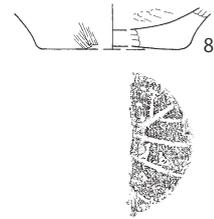
SK5



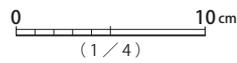
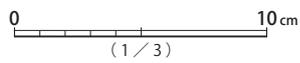
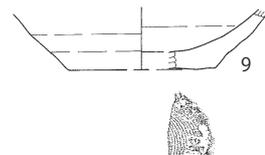
SD1



1 トレンチ



遺構外



第39図 郡本遺跡群(第27次)断面図(2)・遺物実測図

## 7 郡本遺跡群(第28次)・市原城跡

**調査概要** 郡本遺跡群(第28次)は、建売住宅建設に先立って確認調査が行われ、事業範囲面積499.87㎡に対し、6本のトレンチ計49.9㎡を設定した。その結果、弥生時代竪穴建物跡2棟や奈良・平安時代竪穴建物跡2棟・溝状遺構1条・土坑4基、及び中世土坑1基などを確認し、奈良・平安時代を始めとした遺構が、調査対象面積の全域にわたって展開していることがわかった。

**遺構と遺物** 1トレンチからは、平安時代の溝状遺構SD1や中世土坑SK1を確認した。SD1は、トレンチ中央において確認され、幅2.4m程度を測り、南北に走る。覆土は、ロームブロックを少量だが均等に含む黒色土を主体とする。遺物は、須恵器鉢底部片2、板状鉄製品9が出土している。他に、古墳時代中期高杯の脚部3や、弥生後期壺の口縁部片4、口頸部片5～7が出土しているが混入であろう。また、図示できない遺物として、丸・平瓦片及び鉄滓が少量出土している。SK1は、平面規模が径1.2m程度を測り、平面形態は、不整な円形を呈すると考えられる。ロクロ土師器杯1や平瓦8が出土しているが、混入であろう。覆土の状況から、中世期の土坑であると判断した。

2トレンチからは、弥生時代後期竪穴建物跡SI1を確認した。SI1は、トレンチ南東端部に位置し、遺構の大半が南側に展開しているものと考えられる。覆土は、ローム粒を少量だが均等に含む暗褐色土を主体とする。遺構外ではあるが、弥生時代後期甕の口縁部片10が出土しており、本遺構に由来する可能性がある。

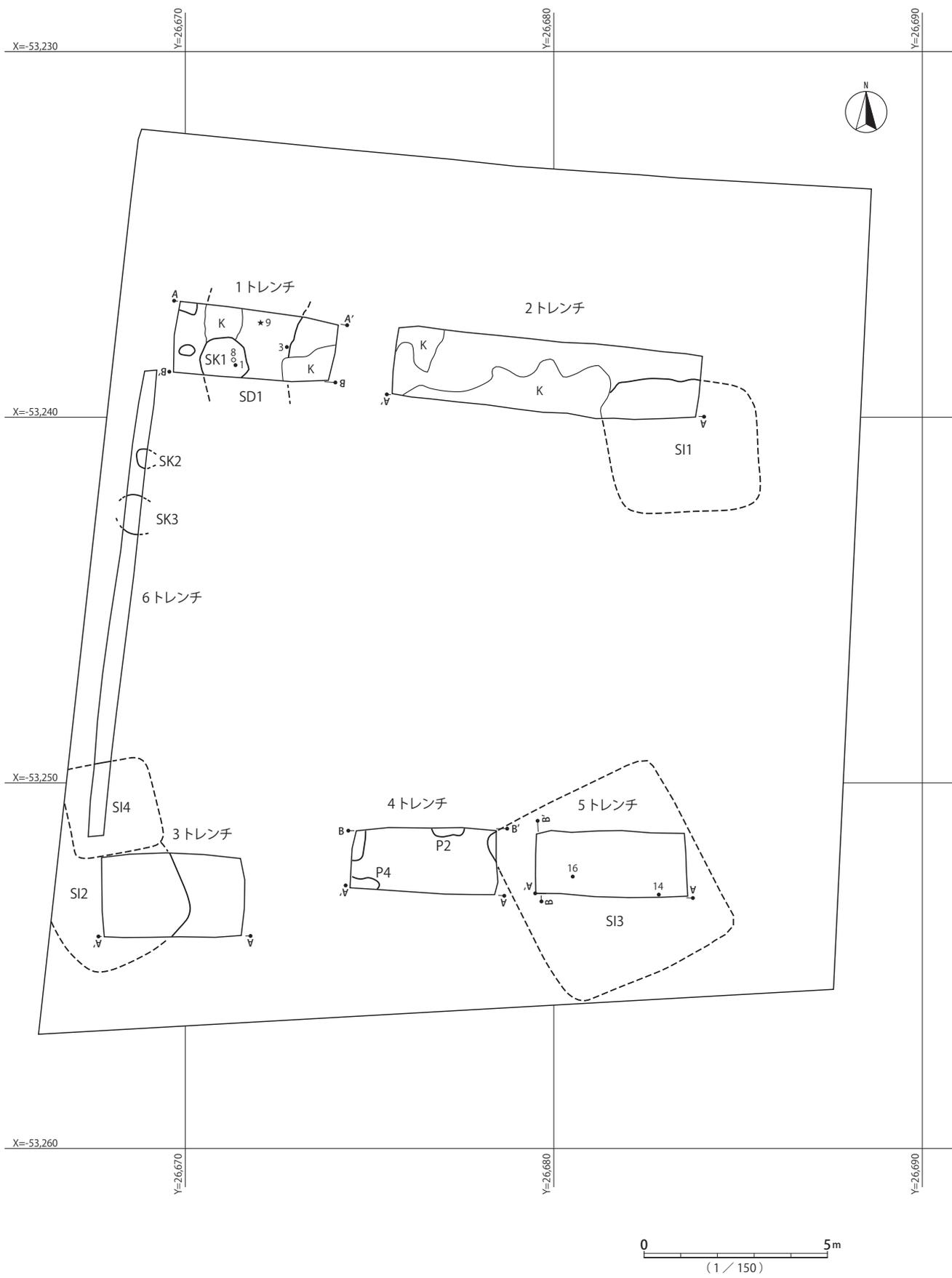
3トレンチからは、弥生時代後期の竪穴建物跡SI2が確認されている。平面形態は、やや隅の張る円形を呈すると考えられる。確認面において、焼土の堆積が認められた。覆土は、ローム粒を少量含む暗褐色土を主体とする。出土遺物は、遺構内から弥生土器甕の口縁部片11が出土している。口唇部に刻み目が施されている。

4トレンチでは、主に5トレンチで確認された竪穴建物跡SI3の北西隅部が確認されている。出土遺物は、トレンチ内から土師器高台付杯の底部12が出土している。

5トレンチからは、4トレンチでも確認されたSI3が、トレンチ全体において確認されている。4トレンチにおいて確認された北西隅部の状況から、平面形態は方形を呈すると考えられる。覆土は、ローム粒を少量だが均等に含む黒色味の強い暗黒褐色土を主体とする。一部確認面において、炭化物の広がりが見られた。遺物は、遺構内からロクロ土師器杯13、須恵器杯14、羽釜の胴部片15及び甕の口縁部16が出土している。13は、内面に黒色処理が施されている。なお、図示できる遺物ではないものの、15と同一個体と考えられる小片が出土している。遺構の帰属時期は、遺物等から9世紀前～中葉を中心とすると考えられる。

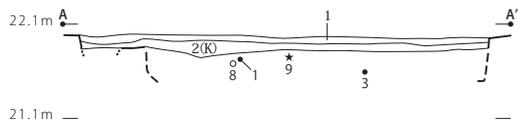
6トレンチからは、奈良・平安時代の竪穴建物跡SI4や、土坑SK2・3が確認されている。図示できる遺物の出土はなかった。

今回の調査地点は、東側が谷部に続く緩斜面となっていることから、官衙関連遺構の東側区画溝の確認が期待されたが、確認された溝状遺構は直線的ではなく、ややカーブしながら南下していく可能性が高く、上記の性格を帯びる可能性は低いと考えられる。



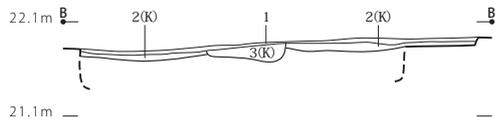
第40図 郡本遺跡群(第28次)・市原城跡 平面図

### 1 トレンチ北壁

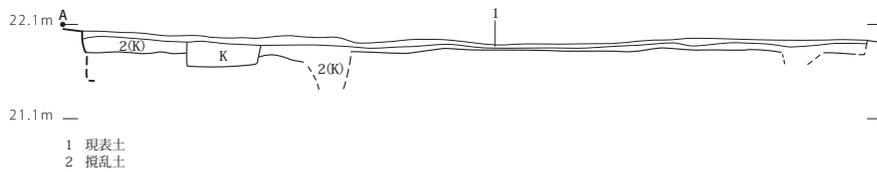


- A-A', B-B'
- 1 現表土
  - 2 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)均等、攪乱土
  - 3 暗灰黒色土 ロームブロック(5～40mm)少量、砕石片混入、攪乱土

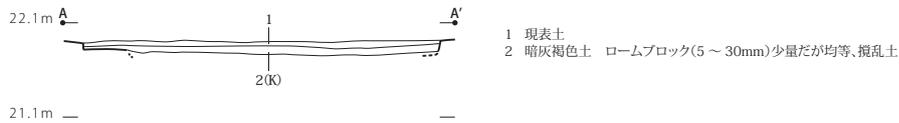
### 1 トレンチ南壁



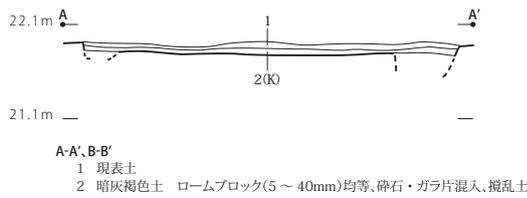
### 2 トレンチ南壁



### 3 トレンチ南壁

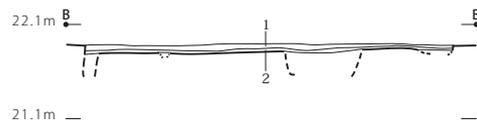


### 4 トレンチ南壁

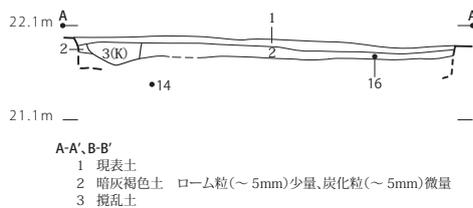


- A-A', B-B'
- 1 現表土
  - 2 暗灰褐色土 ロームブロック(5～40mm)均等、砕石・ガラス片混入、攪乱土

### 4 トレンチ北壁

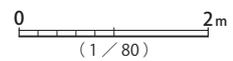
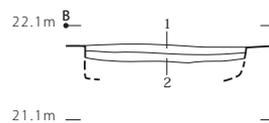


### 5 トレンチ南壁



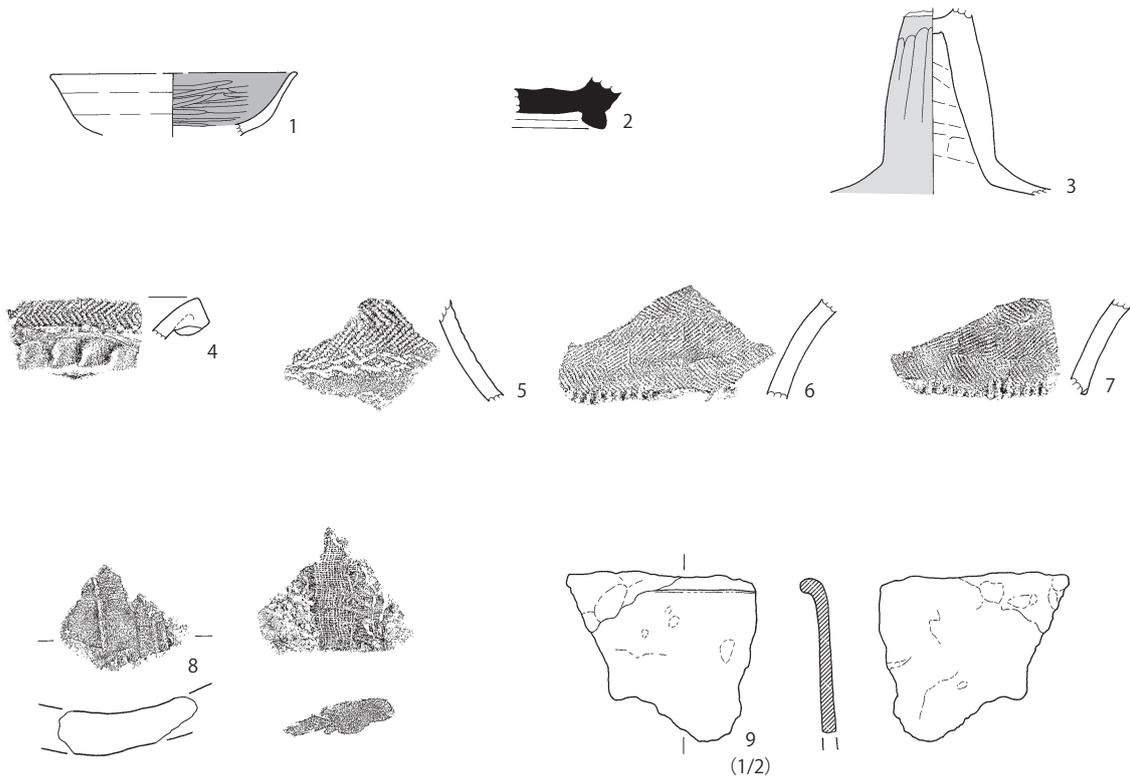
- A-A', B-B'
- 1 現表土
  - 2 暗灰褐色土 ローム粒(～5mm)少量、炭化粒(～5mm)微量
  - 3 攪乱土

### 5 トレンチ西壁



第41図 郡本遺跡群(第28次)・市原城跡 断面図

1 トレンチ



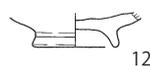
2 トレンチ



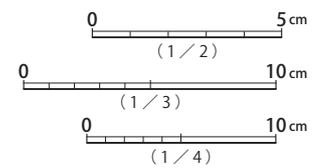
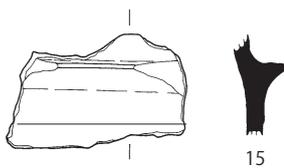
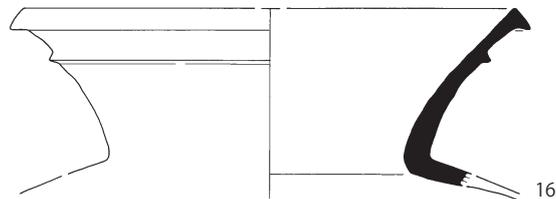
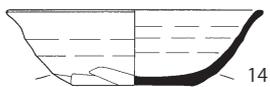
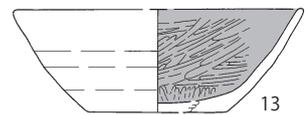
3 トレンチ



4 トレンチ



5 トレンチ



第42図 郡本遺跡群(第28次)・市原城跡 遺物実測図

## 8 勝間龍性院瓦窯跡

**遺跡位置** 遺跡は上総国と下総国の境界となる、村田川支流の神崎川によって開析された、標高50～53m前後の段丘西斜面に位置する。遺跡が立地する段丘面は龍性院の境内となっており、東側の台地に対して低くなり、18～20mほどの比高差がある(第43図)。遺跡が立地する段丘斜面部は、部分的に崩落を起こし、さらに斜面の西側は道路によって削られており、周囲の改変が著しい。龍性院境内である段丘面には龍性院遺跡が位置し、布目瓦が採取されている。周囲の奈良・平安時代の遺跡としては、葉木遺跡群や勝間遺跡群があるが、発掘調査をしておらず、詳細は不明である。

遺跡は地質的には下総層群姉崎層上に位置する。基本層序は調査区と東側台地の斜面崩落部より確認した(第44図)。急斜面であり、接近しての観察が困難であったため、I～A層までは模式図である。I層は表土、II層は褐色土、III～VIII層は立川ローム、A層は常総粘土層、B1、B2は姉崎層のにぶい黄褐色砂、B3は姉崎層のにぶい黄橙色砂質シルト、B4は姉崎層の明黄褐色砂質シルトである。

**調査概要** 龍性院遺跡で布目瓦が採取されることが明らかになったのは、平成21年の佐野彪氏の報告による(佐野2009)。佐野氏は龍性院の階段斜面と、階段を登りきった左手一帯で瓦が採取されることを指摘し、古代寺院、あるいは瓦窯跡の存在を推測した。当時、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲は、段丘面のみであり、斜面部は含まれていなかった。今回調査した勝間龍性院瓦窯跡は、段丘面の西側斜面部の擁壁設置工事中に発見され、確認調査を実施した。既に工事予定範囲の掘削を終えていたため、トレンチ調査はせず、工事により掘削された遺構断面を精査し記録をとったのみであるため、平面プランは不明である。調査の結果、2基の瓦窯跡が確認された(第44・45図)。

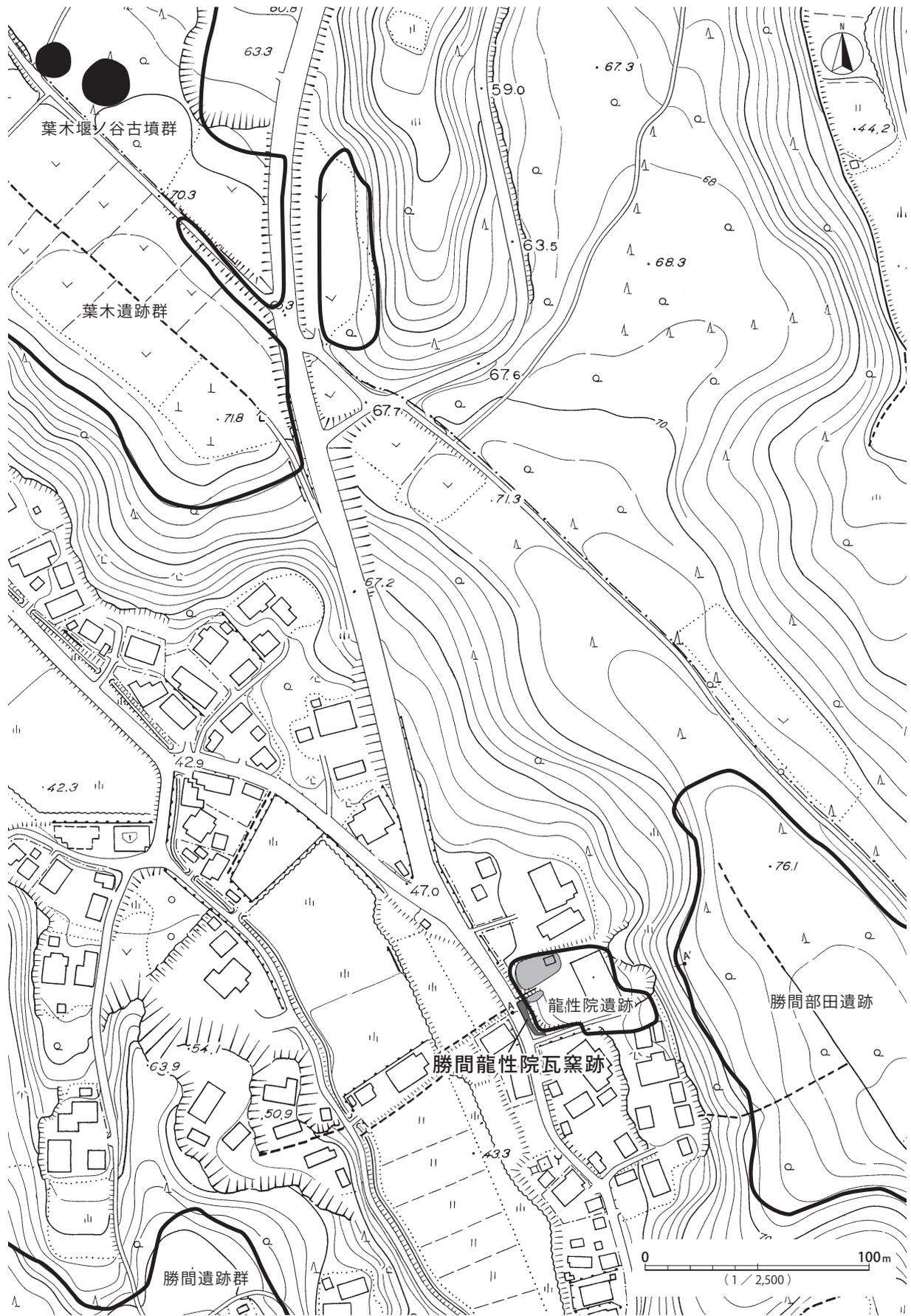
**遺構と遺物** 1号窯はB3層までを掘り込んで築かれる(第45図)。北側を2号窯に切られる。掘方幅1.27m、窯体幅1.03mを測る。掘方を含めた深さは0.73m、窯体の深さは0.51mである。窯底はにぶい黄橙色粘土を貼って構築され、粘土は被熱し酸化していた。窯体内は地山由来の砂層が被熱し、硬化した窯壁ブロックが堆積していた。窯体内の覆土は焼土粒、白色粘土を含むにぶい赤褐色土を主体とする自然堆積である。掘方の覆土は粘土粒、焼土粒を含んだB1層由来のにぶい黄褐色砂である。

遺構の平面プランは不明であるが、窯体幅が狭いことや窯体の断面がU字形を呈すること、窯体内に段がみられないこと、掘方を有することから、窯の形体と検出部位は半地下式無段登窯の奥壁付近とみられる。燃烧部は削平され残っていないため、有階式か無階式かは不明である。遺構断面から主軸方位はN-41°-Eと推測される。

出土遺物は全くないが2号窯と窯の構築方法が類似するため、大きな時期差はないと推測する。

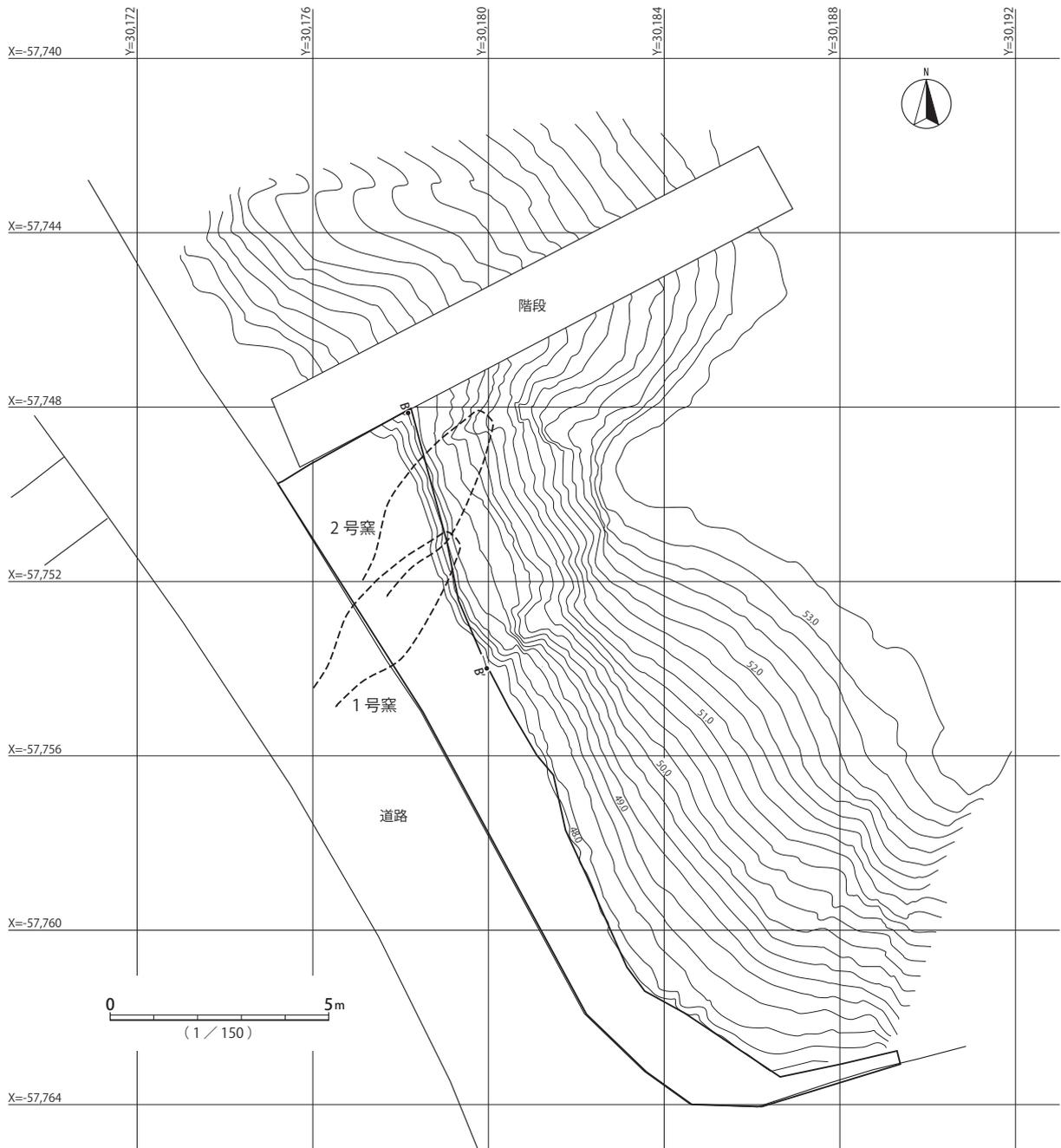
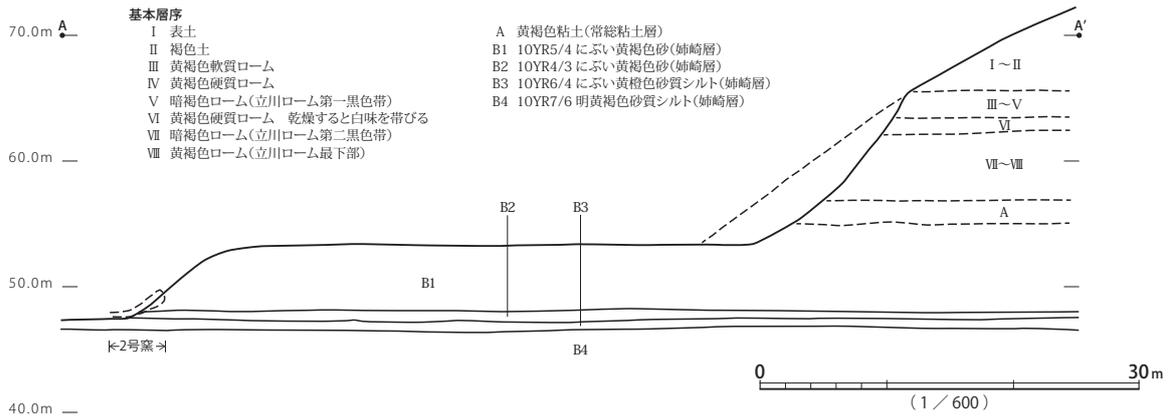
2号窯はB1層を掘り込んで築かれる(第45図)。南側で1号窯を切る。掘方幅1.86m、窯体幅2.22mを測る。掘方を含めた深さは0.71m、窯体の深さは0.67mである。窯底は灰褐色粘土を貼って構築され、粘土は還元していた。窯体内は地山由来の砂層が被熱し、硬化した窯壁ブロックが堆積していた。窯壁は平瓦片や礫により補強されている。窯体内の覆土は焼土粒を含む灰黄褐色土を主体とする自然堆積である。掘方の覆土はB1層由来のにぶい黄褐色砂で、被熱し酸化していた。

遺構の平面プランは不明であるが、窯体内に段がみられないこと、掘方を有することから、窯の形態と検出部位は半地下式無段登窯の焼成部とみられる。燃烧部は削平され残っていないため、有

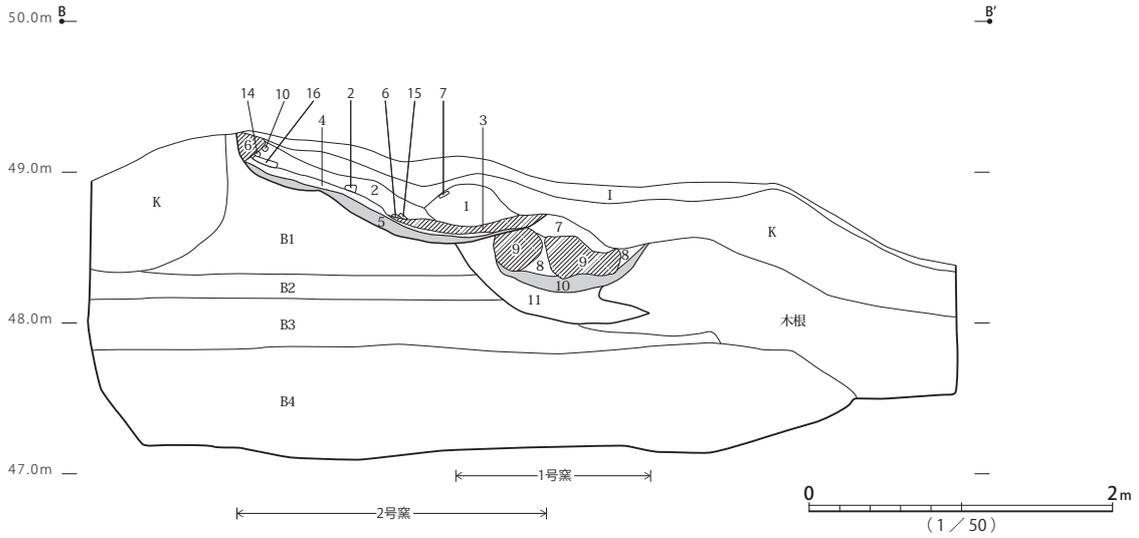


第43図 勝間龍性院瓦窯跡 周辺地形図

■ 瓦散布範囲



第44図 勝間龍性院瓦窯跡 断面図(1)・平面図



- 1 5YR5/6 明赤褐色土 焼土粒、炭化物粒、粘土粒含む。粘性有り。(2号窯覆土)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土粒少量含む。やや粘性有り。ボソボソし、しまらない。(2号窯覆土)
- 3 5YR5/6 明赤褐色砂質ブロック 焼土粒、白色粘土細粒多く含む。被熱し硬化する。(2号窯壁崩落土)
- 4 10YR5/2 灰褐色粘土 焼土粒、黄褐色粒含む。粘性有り。還元しボソボソする。(2号窯底貼粘土)
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粒 被熱し酸化する。(2号窯掘方)
- 6 5YR5/6 明赤褐色砂ブロック 焼土粒含む。白色粘土ブロック多く含む。(2号窯壁構築土)
- 7 5YR5/4 にぶい赤褐色土 焼土粒、白色粘土粒、黄褐色粒多く含む。粘性有り。よくしまる。(1号窯覆土)
- 8 5YR5/4 にぶい赤褐色土 焼土粒、白色粘土粒、黄褐色粒多く含む。よくしまる。(1号窯覆土)
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色砂ブロック 焼土粒含む。白色砂、黒色砂、橙色砂多く含む。ラミナ状の縞。被熱し固く焼きしまる。(1号窯壁崩落土)
- 10 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土 焼土粒、黄褐色砂含む。被熱し酸化する。(1号窯底貼粘土)
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色砂 粘土粒、焼土粒含む。(1号窯掘方)

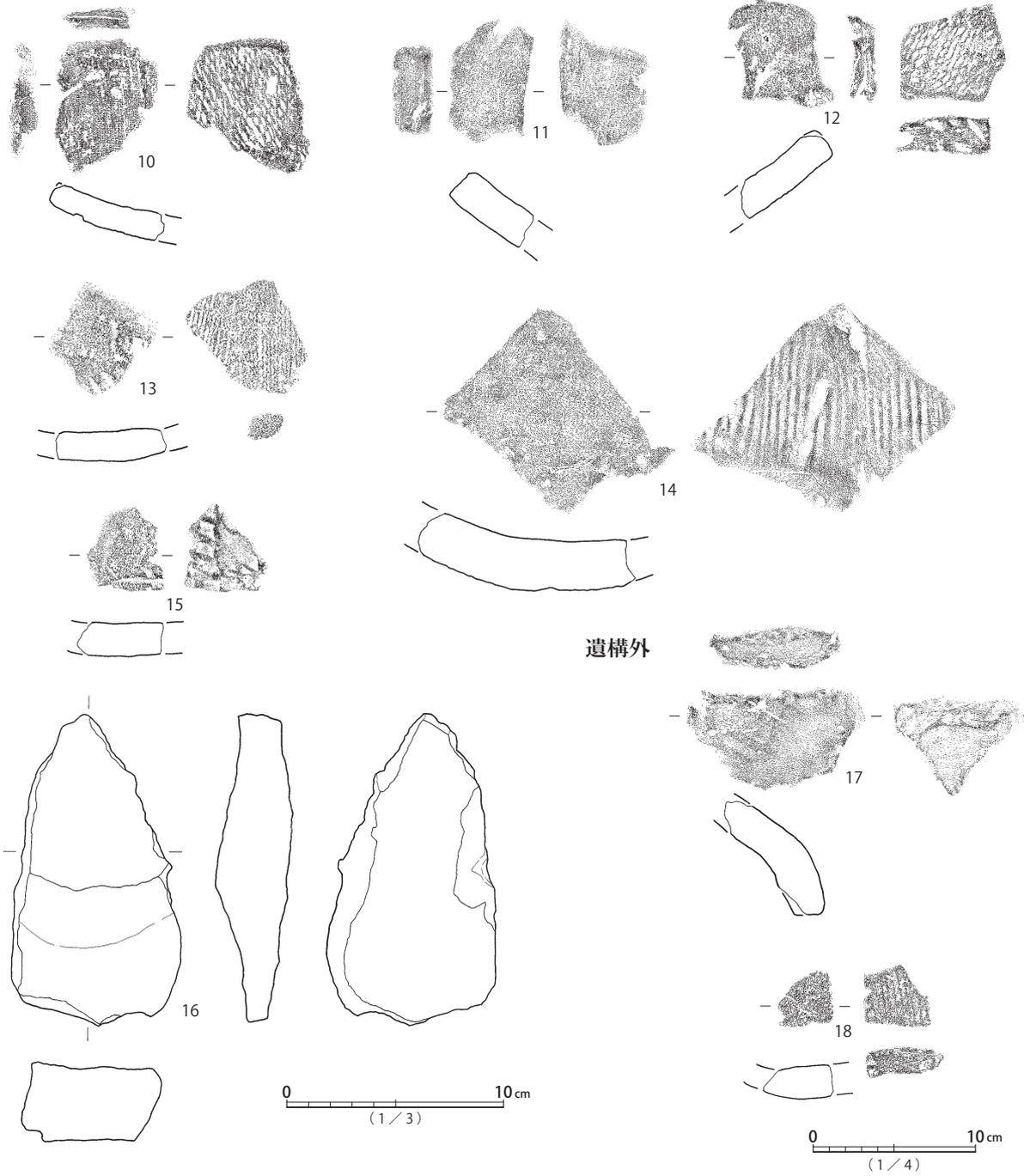
- = 還元範囲
- = 酸化範囲
- = 窯壁ブロック

2号窯

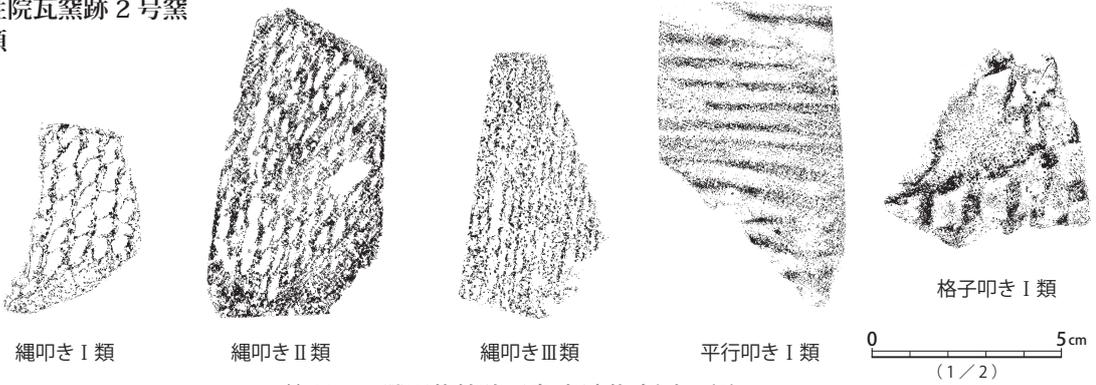


第45図 勝間龍性院瓦窯跡 断面図(2)・遺物実測図(1)

2号窯



勝間龍性院瓦窯跡 2号窯  
平瓦分類



第46図 勝間龍性院瓦窯跡 遺物実測図(2)

階式か無階式かは不明である。遺構断面から主軸方位はN-36°-Eと推測される。

出土遺物は丸瓦、平瓦、礫が出土している(第45・46図)。1は行基式丸瓦、2～4は形式不明の丸瓦、5～13は凸面縄叩きの平瓦、14は平行叩きの平瓦、15は格子叩きの平瓦、16は礫である。2・6・15は窯底からの出土、10・14・16は窯壁から出土し構築材としての利用が考えられる。

この他、調査区内で遺物を採取している。17は行基式丸瓦、18は平瓦である。

## まとめ

今回の調査で半地下式無段登窯2基を検出した。平面プランは確認していないが、断面から主軸方位を検討した結果、N-36°-E～N-41°-Eと推測できた。この方位は南側の段丘斜面傾斜と同じ方位をとるため、改変される以前の地形は、この傾斜が調査区まで続いていたものとみられる。

今回出土した瓦は小片が多く、分類が困難であったが、行基式丸瓦2点223.0g、形式不明丸瓦8点603.9gであり、主に行基式丸瓦を生産した可能性が高い。一方、平瓦は叩き板の種類から5種に分類した(第46図)。縄叩きI類は縄の節が太いもので、1点70.0g出土している。縄叩きII類は縄の節がI類より細いもので、10点826.4g、縄叩きIII類は縄の節が最も細いもので、2点156.2g出土している。平行叩きI類は上総国分僧寺39類と同一の叩き板で、1点541.1g出土している。格子叩きI類は上総国分僧寺での出土は確認できていない。1点66.7g出土している。出土点数が多い縄叩きII類は、勝間龍性院瓦窯跡で生産された可能性が高いが、それ以外は出土点数が少なく、隣接する龍性院遺跡から、窯の構築材や窯道具として運び込まれた可能性も否定できない。

勝間龍性院瓦窯跡の年代は、出土平瓦の製作技法がすべて粘土板一枚づくりであることから、国分寺創建以降とみられる。上総国内では国分寺創建期での瓦窯の構造は、有畦式平窯が主体だが、9世紀前半の南河原坂窯2期や、神門瓦窯で半地下式無階登窯がみられることから、同一構造の勝間龍性院瓦窯跡も9世紀前半頃の操業と考えたい。

出土遺物は軒瓦が1点も出土しておらず、具体的な瓦の供給先については不確定な部分も多いが、龍性院遺跡で採取された瓦の中には熨斗瓦が一定量あり、熨斗棟の建物の存在が推察される。勝間龍性院瓦窯跡で焼成された瓦は、隣接するこの建物に主に供給していた可能性が高い。また平行叩きI類と同一の叩きを持つ平瓦が、南田3号窯と祇園原瓦窯から出土している。報告書では混入の可能性が指摘されている(鶴岡2016)。これが勝間龍性院瓦窯跡で生産されたものならば、上総国分寺にも瓦を供給した可能性もあるが、臨時的で小規模な供給にとどまった可能性が高い。

上総国分寺とそれに関連する瓦窯に関する研究史は古く、戦後の大規模な発掘調査によって、上総国分寺に瓦を供給した瓦窯は全て明らかになっているようにも見られていたが(浅野2019)、今回の勝間龍性院瓦窯跡の発見により上総国分寺の造瓦体制、組織と周辺寺院と瓦窯の関係を再確認する必要がでてきた。今後の調査の進展に期待したい。

## 引用参考文献

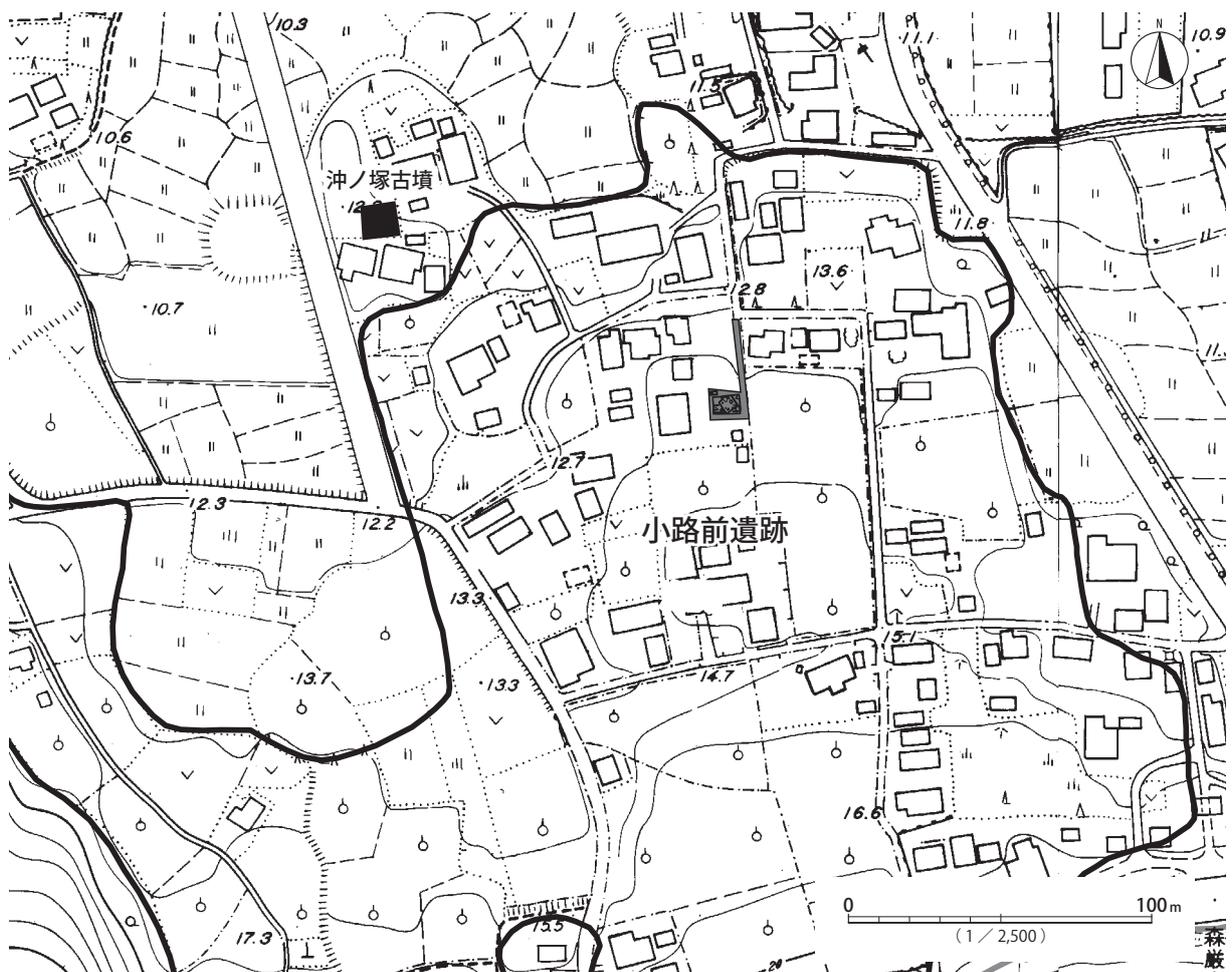
- 浅野健太2019「古代東国の国分寺瓦窯研究」『古代東国の国分寺瓦窯』高志書院  
佐野 彪2009『ふるさと勝間村の歴史』  
鶴岡英一他2016『上総国分僧寺跡II』市原市教育委員会

## 9 小居前遺跡

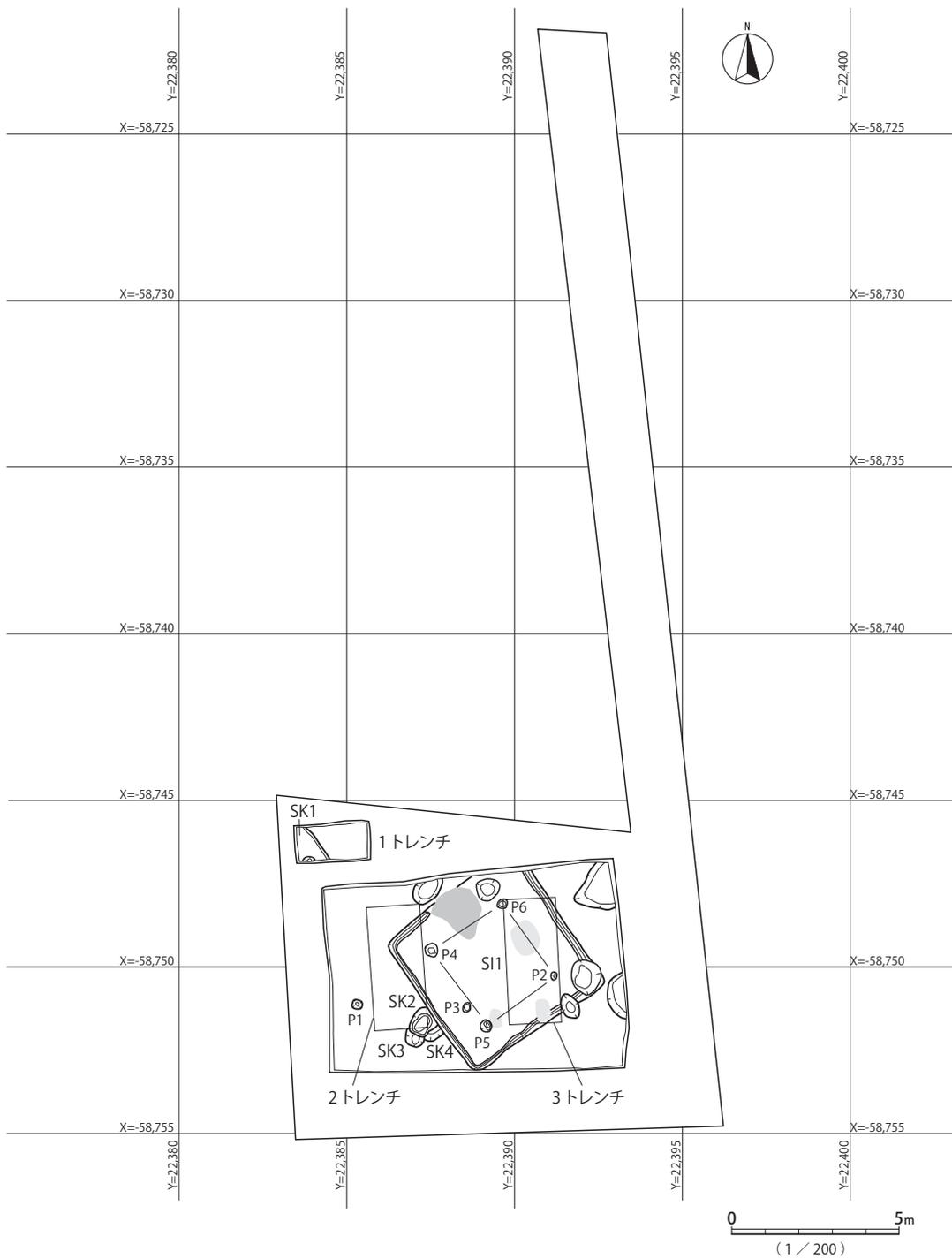
**遺跡の位置** 小居前遺跡は、養老川下流左岸を北東方向約2kmに望む標高14m程度の微高地上に位置する。西方約3.5kmにある東京湾旧海岸線から本遺跡までの間には、海岸平野に沿って北東-南西方向に形成された砂堆列が横断する。本遺跡周辺の微高地は、これまで、あまり調査事例がなく、西方約0.65kmの台地縁辺において、海保大塚遺跡が存在する。古墳時代前期末から中期初頭にかけての築造とされる大型円墳の周囲に、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物跡などが、濃密に分布する。

**調査概要** 小居前遺跡は、個人住宅の建築に伴って発掘調査が行われ、調査対象面積52.16㎡の本調査を実施した。その結果、古墳時代後期の竪穴建物跡1棟、土坑4基が検出された。

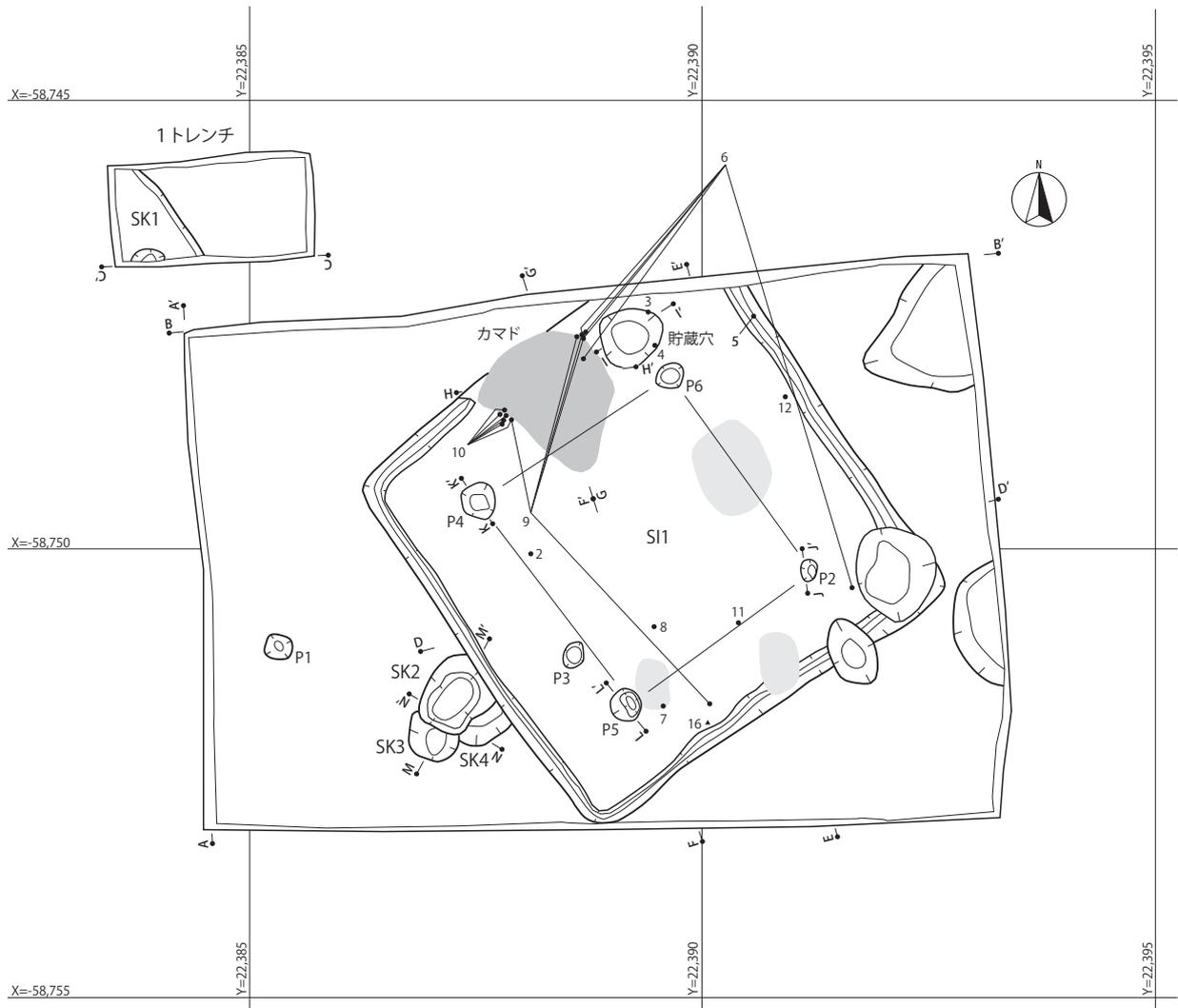
**遺構と遺物** 竪穴建物跡SI1は、調査区の中央に位置し、北東隅の一部は、調査区外に展開していると考えられる。平面形態は、隅がやや丸まった方形を呈するが、一部、図示しないがトレンチャーによる攪乱を受けていた。平面規模は、現存長で4.99×4.98m、遺構深度20cm程度を測る。主軸方位は、N-40°-Wであり、覆土は、ローム粒を少量含む暗褐色土を主体とする。北西辺中央にカマドが存在しているが、遺存状態は極めて悪く、カマドのソデの残骸と考えられる山砂を含む灰白色粘土溜りが広がっている状況であった。灰白色粘土粒が、遺構の覆土全体に少量だが均等に広が



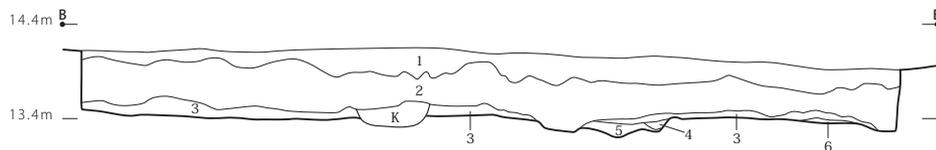
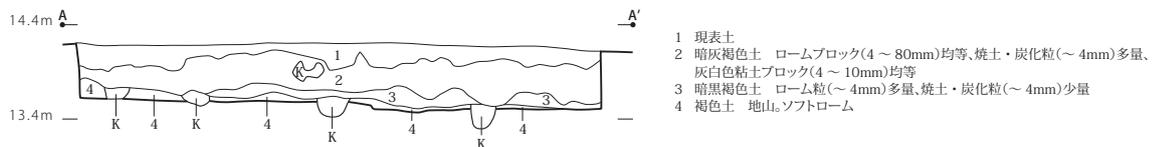
第47図 小居前遺跡 周辺地形図



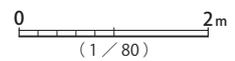
第48図 小路前遺跡 全体図



基本土層

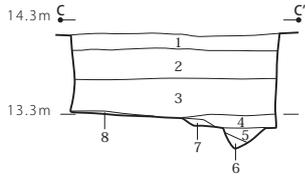


- 1 現表土  
 2 暗灰褐色土 ロームブロック(4~80mm)均等、焼土・炭化粒(~4mm)多量、灰白色粘土ブロック(4~10mm)均等  
 3 暗黒褐色土 ローム粒(~4mm)多量、焼土・炭化粒(~4mm)少量  
 4 暗褐色土 ローム粒(~5mm)多量、焼土粒(~5mm)少量  
 5 暗褐色土 ローム粒(~4mm)均等、焼土・炭化粒(~4mm)均等、土器小片含む  
 6 褐色土 地山、ソフトローム



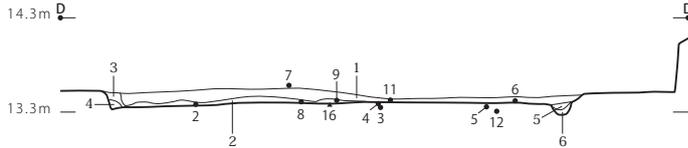
第49図 小路前遺跡 平面図・断面図(1)

# 1 トレンチ

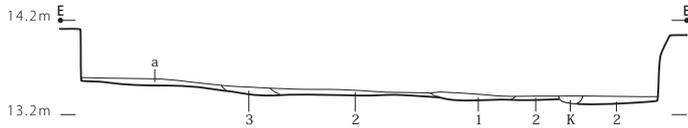


- 1 現表土
- 2 暗灰褐色土 ロームブロック(5～20mm)少量だが均等
- 3 暗黒褐色土 ロームブロック(10～25mm)少量
- 4 暗黒色土 白色粘土粒(1～5mm)微量
- 5 暗黒褐色土 3より黒色味強い
- 6 暗黒褐色土 5より黒色味かか、焼土粒(～5mm)微量
- 7 暗褐色土 ロームブロック(5～10mm)少量だが均等
- 8 褐色土 地山。ソフトローム

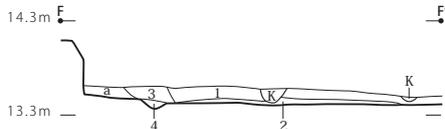
# SI1



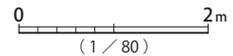
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 3 暗褐色土ローム粒(～4mm)均等、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)多量
- 4 暗褐色土ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)多量
- 5 暗褐色土ローム粒(～4mm)均等、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)少量
- 6 暗褐色土ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)均等



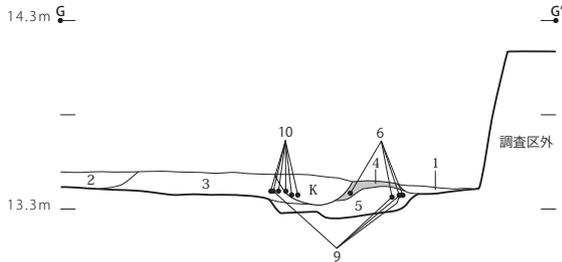
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、焼土・炭化物粒(～5mm)多量、灰白色粘土粒(5～8mm)多量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 3 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、焼土・炭化物粒(～5mm)多量、焼土・炭化物ブロック(5～8mm)多量
- a 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量、焼土粒(～4mm)少量



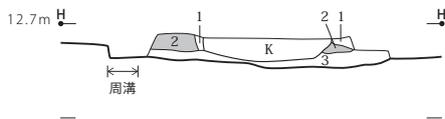
- 1 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)均等、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 3 暗褐色土 ローム粒(～4mm)均等、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)多量
- 4 暗褐色土 ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～8mm)多量、焼土・炭化物粒(～4mm)多量
- a 暗褐色土 ローム粒(～5mm)多量、ロームブロック(5～8mm)多量、焼土粒(～4mm)少量



# SI1 カマド



- 1 黒褐色土 ローム粒(～4mm)多量、ロームブロック(4～8mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～4mm)少量
- 2 暗褐色土 ローム粒(～5mm)少量、焼土・炭化物粒(～5mm)少量、灰白色粘土粒(～4mm)少量
- 3 暗褐色土 灰白色粘土ブロック(4～6mm)均等、ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～7mm)均等、焼土・炭化物粒(～4mm)多量、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量
- 4 明褐色土 暗褐色土均等、山砂含む灰白色粘土ブロック(4～8mm)均等、焼土・炭化物粒(～4mm)多量、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量、ローム粒(～4mm)多量、ロームブロック(4～8mm)多量
- 5 黒褐色土 ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～4mm)均等、炭化物粒・焼土ブロック(4～8mm)少量



- 1 暗褐色土 ローム粒(～4mm)多量、ロームブロック(4～8mm)多量、炭化物粒・焼土粒(～4mm)多量、灰白色粘土粒(～4mm)均等
- 2 明褐色土 暗褐色土均等、山砂含む灰白色粘土ブロック(4～8mm)均等、焼土・炭化物粒(～4mm)多量、焼土・炭化物ブロック(4～8mm)多量、ローム粒(～4mm)多量、ロームブロック(4～8mm)多量
- 3 黒褐色土 ローム粒(～4mm)均等、ロームブロック(4～8mm)均等、炭化物粒・焼土粒(～4mm)均等、炭化物粒・焼土ブロック(4～8mm)少量



第50図 小路前遺跡 断面図(2)

### SI1 貯蔵穴



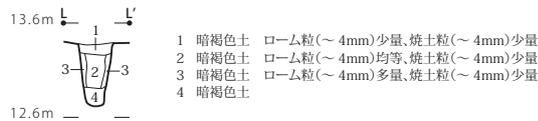
### SI1 P2



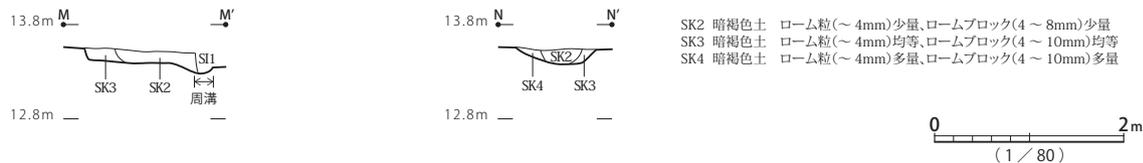
### SI1 P4



### SI1 P5



### SK2・3・4



第51図 小路前遺跡 断面図(3)

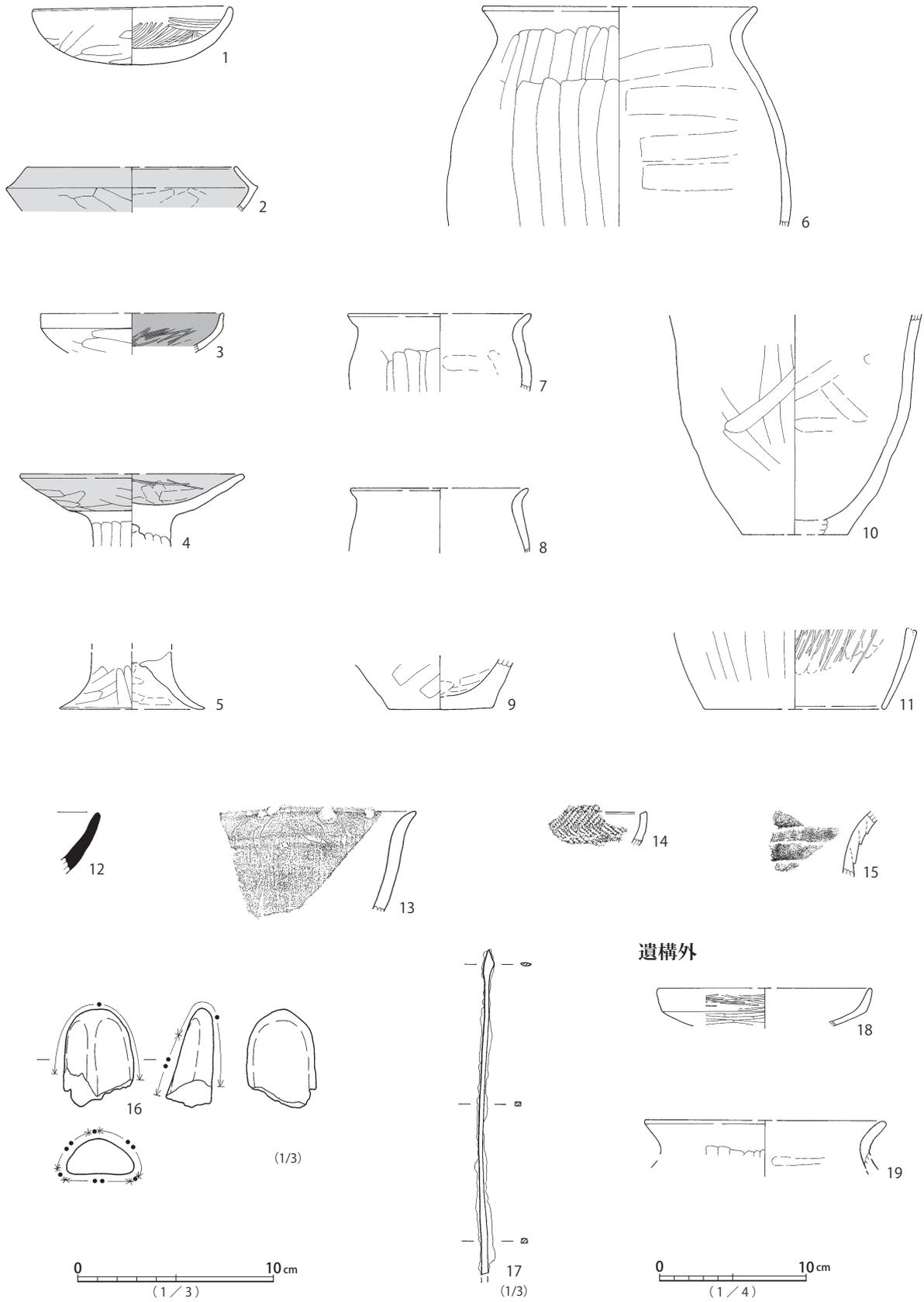
っており、ソデの構築材が流出したものと考えられる。主柱穴は、北東側P6が、一部攪乱を受けているものの、4か所存在していたと考えられ、深さは、40～60cm程度を測る。カマド北東脇からは貯蔵穴が検出され、平面形態は、不整な円形を呈していた。深さは、40cm程度を測り、覆土は、ロームを少量含む暗褐色土を主体とする。炭化物や焼土粒が少量混入していた。床面は、比較的堅牢であったものの、明瞭な硬化面は検出されなかった。壁溝は、遺構内を全周する。遺物は、覆土中から土師器の杯1・2、高杯4・5、小型甕7・8、甑11、須恵器の杯口縁部12、土師器の甑口縁部13、磨石16やヤリガンナ状の棒状鉄器17などが出土している。また、貼り床内から、弥生後期土器鉢口縁部片14及び甕頸部片15が出土しており、周囲に弥生時代後期の遺構が存在していると考えられる。また、貯蔵穴内から、土師器杯3が出土している。内面に黒色処理が施されている。カマド付近からは、土師器甕の上半部6、底部9、下半部10が出土している。

土坑SK1は、浄化槽予定地にあたる1トレンチから検出された、土坑と考えられる遺構である。西側に、遺構主要部が続くと考えられる。遺構深度は、20cm程度を測り、覆土は、暗黒色土を主体とする。図示できる遺物は出土していない。

SK2・3・4は、南西部に位置し、西側部分をSI1と重複する。本遺構の方が、古いと考えられる。平面形態は、不整な円形が3つ複合したような形態を呈する。平面規模は、現存長で2.2×2.0m、遺構深度20cm程度を測り、覆土は、ロームを含む暗褐色土を主体とする。図示できる遺物の出土は、なかったが、覆土の状況から、古墳時代後期の土坑と考えられる。

他の遺物では、遺構外遺物として、土師器の杯18、甕19が出土している。

SI1



第52図 小路前遺跡 遺物実測図

## 10 千草山廃寺跡・千草山遺跡（第4地点）

**遺跡の位置** 遺跡は、東京湾に面する旧海岸線を西方約8kmの位置に望む通称「市原台地」にあり、新田川上流の支谷に挟まれた標高31m程度の舌状台地上に位置する。

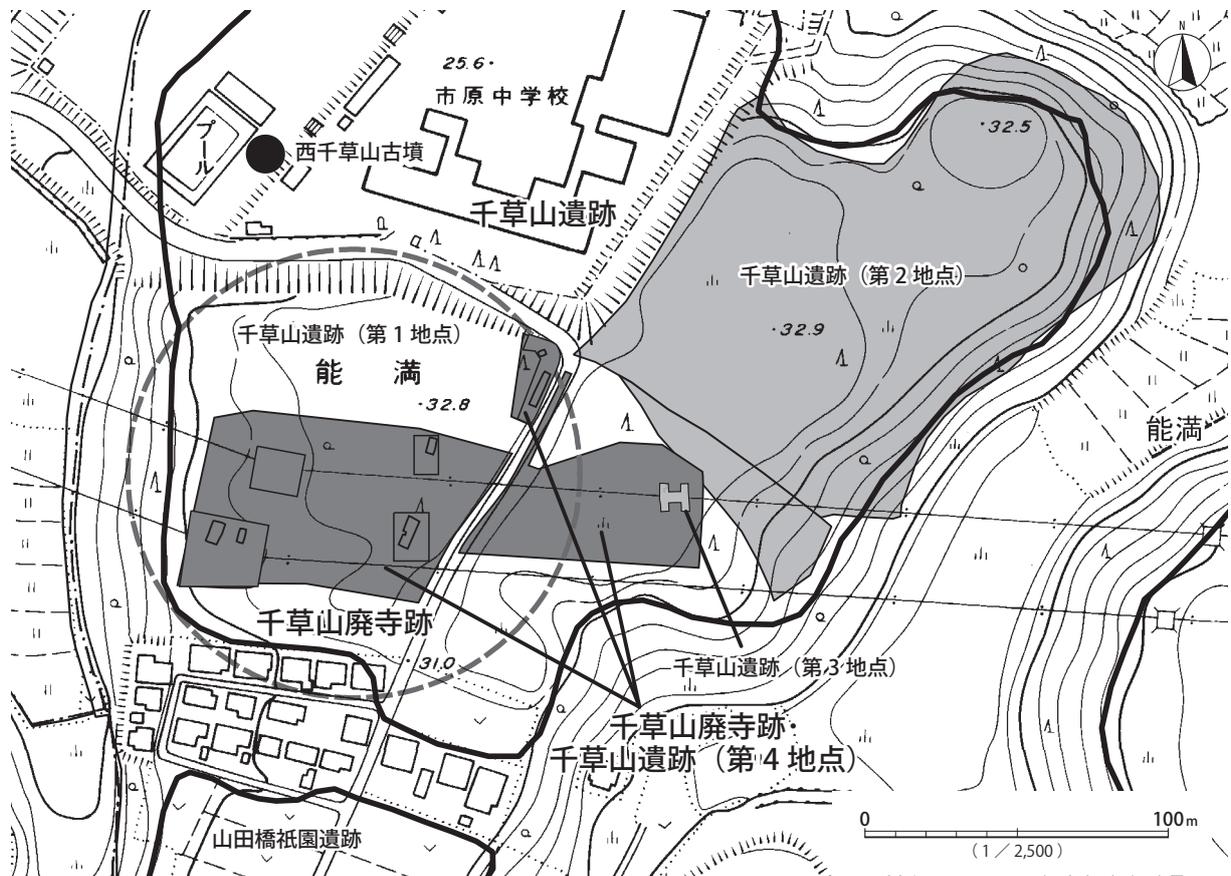
当調査区周辺は、千草山遺跡として、これまでに3地点の発掘調査が行われており、当調査区の北側西半分を第1地点、東側を第2地点として、発掘調査が行われている。また、今回の調査トレンチを配した東側の高圧電線下を、鉄塔建設に伴い、第3地点として発掘調査が行われ、古墳時代後期竪穴建物跡1棟や、中世期の溝状遺構2条などを検出している。

今回の調査対象範囲の周囲に千草山廃寺跡の存在が指摘されており、関連する遺構の確認が想定された。

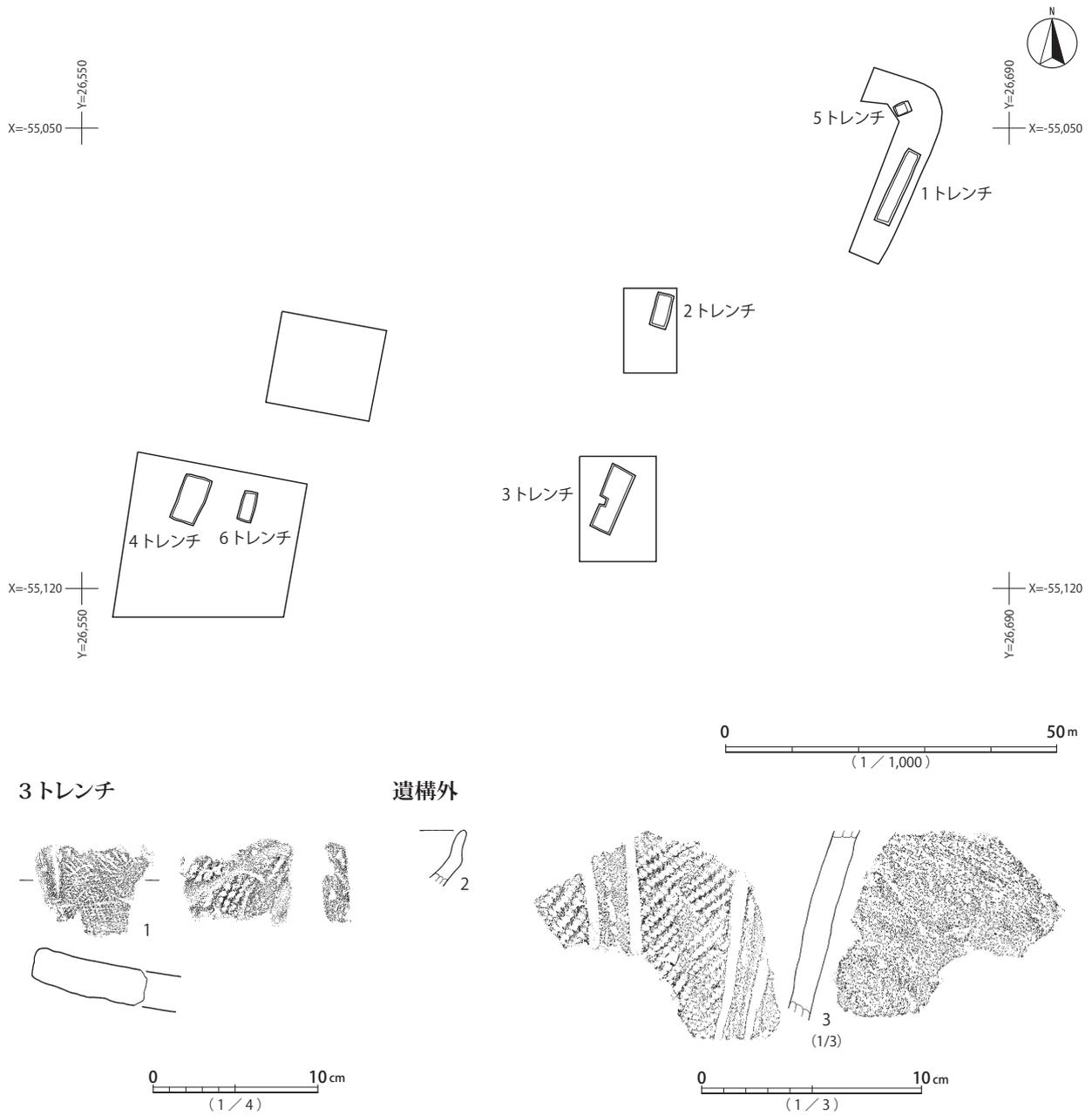
**調査概要** 千草山廃寺跡・千草山遺跡（第4地点）は、五井火力線増強工事に先立って確認調査が行われ、事業範囲面積853.73㎡に対し、6本のトレンチ計85.4㎡を設定した。その結果、地山には、ソフトロームが残存し、堆積土の状況から、後世の攪乱等を受けた痕跡も見られなかったが、明瞭な遺構は、調査トレンチからは、確認されなかった。

**遺物** 3トレンチから、平瓦1が出土した。摩耗が著しい。

他には、遺構外出土遺物として、土師器杯の口縁部片2及び縄文中期土器深鉢胴部片3が出土している。



第53図 千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)周辺地形図



第54図 千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点) 平面図・遺物実測図

引用参考文献

- 安藤鴻基他 1979 『千葉県市原市千草山遺跡発掘調査報告書』 千草山遺跡発掘調査団  
 近藤 敏 2017 『市原市千草山遺跡第3地点』 市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第40集 市原市教育委員会  
 田中清美他 1989 『千葉県市原市千草山遺跡・東千草山遺跡』 財団法人市原市文化財センター調査報告書第29集 財団法人市原市文化財センター

第1表 出土遺物観察表 凡例：寸法の( )は現存値、?は推定復元値を示す。

中台遺跡(第2次) 土器観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	土牙 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周存量	寸法 cm			焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高	底径							
5	9	1	1	-	SB-1P2 13	土師器	杯	体部中位~底部	1/3 塊	-	(1.5)	6.0?	良	紫・白色粒(0.1~0.2mm)微量・黒灰色粒(0.3~0.8mm)少量	7.5YR6/8 橙	7.5YR6/8 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
5	9	2	1	-	SB-1P2 3	土師器	杯	体部下端~底部	1/3 塊	-	(1.5)	7.0?	良	紫・茶褐色粒(0.3~2.5mm)均等・黒色粒(0.3~0.5mm)少量	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	ロクロ調整、底部回転糸切り痕	ロクロ調整	
5	9	3	1	-	SB-1P2 11	土師器	杯	体部下端~底部	1/4 塊	-	(1.8)	7.0?	良	紫・白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ロクロ調整、底部回転糸切り痕	ロクロ調整	
5	9	4	1	-	SD-4一括	土師器	杯	口縁部~体部下半	小片	-	(3.2)	-	やや不良	紫・白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.6mm)少量	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR4/2 灰赤	ロクロ調整	ロクロ調整	
5	9	5	1	-	SD-4 2	土師器	杯	体部下端~底部	4/7 塊	-	(1.3)	6.4	良	紫・白色粒(0.3~0.4mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
5	9	6	1	-	1 トレンチ一括	土師器	杯	口縁部~体部上半	小片	-	-	-	良	紫・白色粒(0.2~0.5mm)少量・黒色粒(0.1~0.7mm)微量・雲母粒(0.1~0.4mm)微量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
5	9	7	1	-	SI-1 1	縄文	深鉢	胴部中位	小片	-	(5.1)	-	-	やや粗。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	糸文	ナデ	
5	9	8	1	-	SB-1P3 1	縄文	深鉢	胴部上位	小片	-	(3.8)	-	良	紫・白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.7mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	除首直下に斜線文	ナデ	
5	9	9	1	-	SK-1 一括	縄文	深鉢	口縁部	小片	-	(4.5)	-	良	紫・黒色粒(0.1~0.3mm)少量・石炭粒(0.3~0.5mm)微量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部直下無文状の下中に、糸文状の斜線文	ナデ、糸文状の断面現る	
5	9	10	1	-	SK-1 12	縄文	深鉢	胴部上位	小片	-	(5.4)	-	良	紫・白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.4mm)均等	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	微隆起線文で区画された中に、糸文状の斜線文	ナデ、糸文	
5	9	11	1	-	SK-1 4	縄文	深鉢	胴部上位	小片	-	(5.0)	-	良	紫・白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)均等	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	微隆起線文で区画された中に、糸文状の斜線文	ナデ、糸文	
5	9	12	1	-	SK-1 12	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(4.3)	-	良	紫・白色粒(0.1~0.2mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	糸文	糸文	
5	9	13	1	-	SK-1 一括	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(4.7)	-	良	紫・白色粒(0.1~0.3mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量	2.5YR4/4 に近い赤褐	2.5YR4/4 に近い赤褐	糸文	ナデ、糸文	
5	9	14	1	-	SK-1 一括	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(3.7)	-	良	やや粗。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	糸文	糸文	
5	9	15	1	-	SK-1 12	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(5.2)	-	良	やや粗。白色粒(0.3~0.8mm)少量・黒色粒(0.1~0.2mm)微量	5YR4/3 に近い赤褐	5YR4/3 に近い赤褐	ナデ、糸文	ナデ、浅い糸文	
5	9	16	1	-	SK-1 9	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(3.4)	-	良	やや粗。白色粒(0.1~0.2mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	2.5YR4/3 に近い赤褐	2.5YR4/3 に近い赤褐	糸文	糸文	
5	9	17	1	-	1 トレンチ一括	縄文	深鉢	胴部中位	小片	-	-	-	良	やや粗。白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.3~1.0mm)きわめて微量	5YR6/4 に近い橙	5YR6/4 に近い橙	糸文	ナデ、浅い糸文	
6	9	26	2	-	SM001 一括	土師器	杯	口縁部~体部下半	小片	-	(3.9)	-	良	紫・白色粒(0.2~0.3mm)少量・黒灰色粒(0.1~0.3mm)少量	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
6	7・9	27	2	-	SI-4 2	緑釉陶器	皿	体部下端~底部	4/5 塊	-	(2.3)	8.4	良	緑釉。黒色粒(0.1~0.2mm)微量	7.5Y5/2 灰赤リブ	7.5Y5/3 灰赤リブ	ロクロ調整、トチン痕あり	ロクロ調整	
6	9	28	2	-	SM001 一括	灰釉陶器	長頸甕	口縁部	1/4 塊	-	(1.8)	-	良	緑釉。白色粒(0.4~0.6mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)微量	7.5YR2/1 黒	7.5YR4/1 褐灰	ロクロ調整	ロクロ調整	
6	10	29	2	-	SI-2 8、28	須恵器	大甕	胴部	小片	-	(17.8)	-	良	緑釉。白色粒(0.3~0.7mm)少量・小礫(3.0~5.0mm)きわめて微量	10YR5/1 褐灰	10YR5/1 褐灰	ナデ、叩き	同心円状叩き目痕	30と同一胴体と思われ
6	10	30	2	-	SI-2 14、36	須恵器	大甕	胴部	小片	-	(9.2)	-	良	紫・白色粒(0.1~0.3mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	10YR7/2 に近い黄褐	10YR7/2 に近い黄褐	ナデ、叩き	同心円状叩き目痕	29と同一胴体と思われ
6	10	31	2	-	SI-4 一括	縄文	深鉢	口縁部	小片	-	(3.0)	-	良	紫・白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ナデ	ナデ	
6	10	32	2	-	SI-2 9	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(4.0)	-	良	粗。白色粒(0.3~0.7mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	10YR7/4 に近い黄褐	10YR7/4 に近い黄褐	ナデ、浅い糸文	ナデ、浅い糸文	
6	10	33	2	-	SM001 15	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(5.8)	-	良	紫・白色粒(0.3~0.4mm)少量・石炭粒(0.2~0.5mm)微量	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	糸文	糸文	
7	7	39	3	-	SI-8 3	須恵器	杯	口縁部~底部	9/10 塊	-	13.4	3.9	良	緑釉。赤褐色粒(0.5~1.8mm)少量・黒色粒(0.5~1.5mm)少量	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR4/2 灰赤	糸文	糸文	永田・不入皿
7	7	40	3	-	SI-7 2、3	土師器	杯	口縁部~底部	3/7 塊	-	(3.6)	4.4?	良	やや粗。白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒(0.3~0.8mm)少量	7.5YR6/2 褐	7.5YR6/2 褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
7	10	41	3	-	SI-6 2	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/4 塊	-	(4.1)	-	良	紫・白色粒(0.2~0.7mm)少量・黒灰色粒(0.1~0.3mm)微量	10YR6/4 に近い黄褐	10YR5/3 に近い黄褐	ロクロ調整、下半部へラケズリ施すか	ロクロ調整	
7	7・10	42	3	-	SI-6 12、SI-7 12	土師器	足高台付鉢	体部下端~底部	3/7 塊	-	(3.9)	15.0?	良	紫・白色粒(0.2~0.6mm)少量・赤褐色粒(0.8~1.5mm)微量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
7	10	43	3	-	3 トレ1 一括	土師器	杯	体部下端~底部	4/7 塊	-	(1.3)	5.2	良	紫・赤褐色粒(0.3~1.0mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量	7.5YR7/4 に近い橙	7.5YR7/4 に近い橙	ロクロ調整	ロクロ調整	内面に黒線あり

梱包 番号	図版 番号	遺物 番号	トナ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周生存	寸法 cm		底径	構成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高								
7	7	44	3	-	SI-8 1	須臾器	高台付杯	口縁部~底部	1/3 塊	13.2?	4.8	9.0?	良	緻密。白色粒(0.2~0.3mm)まわめて 微量・黒色粒(0.3~1.2mm)少量だが 均等	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	ロクロ調整	ロクロ調整	永田・不入皿
7	10	45	3	-	SI-6 1	緑釉陶器	椀	口縁部~体部下半	1/10 塊	14.0?	(2.9)	-	良	緻密。白色粒(0.1~0.3mm)微量・黒色 粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR5/2 灰オリーブ	7.5YR5/2 灰オリーブ	ロクロ調整	ロクロ調整	東海産 K14~90
7	7	46	3	-	SI-6 一拵	緑釉陶器	椀	体部下半~底部	5/7 塊	-	(2.5)	6.7	良	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)まわめて 微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR4/2 灰オリーブ	7.5YR4/2 灰オリーブ	ロクロ調整、高台内トナ りか	ロクロ調整、トナノ痕跡	東海産 K14
7	10	47	3	-	SI-6 一拵	緑釉陶器	椀	体部下半~底部	1/10 塊	-	(1.5)	6.0?	良	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)まわめて 微量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	10Y4/2 オリーブ灰	10Y4/2 オリーブ灰	ロクロ調整、高台内トナ りか	ロクロ調整、トナノ痕跡	東海産 K14
7	10	48	3	-	SI-5 6	緑釉陶器	椀	口縁部~体部下半	小片	-	(2.8)	-	良	緻密。白色粒(0.1~0.3mm)まわめて 微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	2.5YR8/1 灰白	2.5YR8/1 灰白	ロクロ調整、縁部始と残 りか	ロクロ調整、縁部始と残 りか	京都産 型式不明
7	10	49	3	-	SI-7 5	弥生	壺	胴部	小片	-	(4.7)	-	良	密。白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒 (0.2~0.3mm)少量	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ナデ	ナデ	
7	10	50	3	-	SI-5 一拵	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(3.9)	-	良	密。白色粒(0.3~0.8mm)まわめて微 量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ナデ	ナデ	
7	10	51	3	-	SI-5 1	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(4.0)	-	良	密。白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒 (0.1~0.2mm)少量	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	条痕文	条痕文	
8	7	57	4	-	SI-12 15	土師器	杯	口縁部~底部	ほぼ完全形	12.8	3.7	5.4	良	密。白色粒(0.3~0.7mm)少量・黒色粒 (0.2~0.8mm)微量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整、体部下端手 持ちヘラケズリ、底部糸 切り痕	ロクロ調整	外面に墨線あり
8	7	58	4	-	SI-12 12、14	土師器	杯	口縁部~底部	4/7 塊	13.8	(5.3)	5.0	良	密。白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒 (0.2~0.3mm)少量・赤褐色粒(0.5~ 3.0mm)まわめて微量	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ロクロ調整、底部糸切り 痕	ロクロ調整	
8	11	59	4	-	SI-12 13	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/3 塊	14.8?	(4.8)	-	良	やや粗。白色粒(0.3~1.0mm)少量だ が均等・黒色粒(0.2~0.5mm)少量・暗 赤褐色粒(4.0~6.0mm)まわめて微量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整	ロクロ調整	
8	11	60	4	-	SI-12 11	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/4 塊	12.8?	(5.7)	-	良	やや粗。白色粒(0.2~0.5mm)少量・黒 色粒(0.2~0.4mm)微量・赤褐色粒(0.5 ~1.0mm)まわめて微量	2.5YR1.7/1 赤黒	2.5YR1.7/1 赤黒	ロクロ調整	ロクロ調整	ヘラミガキ、黒色処理
8	11	61	4	-	SI-12 5、6	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/8 塊	13.0?	(3.4)	-	良	密。白色粒(0.2~0.5mm)まわめて微 量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	胎土の痕り、細かい
8	11	62	4	-	4 トレ一拵	土師器	杯	体部下半~底部	1/4 塊	-	(1.7)	6.0?	良	密。白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒 (0.1~0.2mm)少量	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	ヘラミガキ、黒色処理
8	11	63	4	-	SI-9 一拵	縄文	深鉢	胴部	小片	-	(3.2)	-	良	密。白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒 (0.1~0.2mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	条痕文	条痕文	
10	7	72	6	-	SM002 1 一拵	土師器	小型鉢	口縁部~底部	4/5 塊	8.6	4.7	2.4	良	密。白色粒(0.2~1.0mm)少量だが均 等・黒色粒(0.2~0.6mm)少量	10R5/8 赤	10R5/8 赤	口縁部ヨコナデ、体部へ ラナデ、一部ハケノメ星の あるヘラナデ直下無文附 の下の、茶褐色の沈み面	口縁部ヨコナデ、体部へ ラナデ、一部ハケノメ星の あるヘラナデ直下無文附 の下の、茶褐色の沈み面	

### 中台遺跡(第2次) その他観察表

梱包 番号	図版 番号	遺物 番号	トナ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	4 隅	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細叩き目 2×2cm			特徴			
							全長	口縁部 幅	中央厚 ※測(0mm以上)							条	節	擦		結糸	純成	
5	9	18	1	-	SB-1P2 12	支脚	8.9	-	3.7	169.1	-	密。白色粒(0.5~0.8mm)微量・黒 色粒(0.3~0.4mm)少量だが均等	ナデ、ヘラケズ リ	ナデ、ヘラケズ リ	-	-	-	-				
5	9	19	1	-	SB-1P3 3	丸瓦	(8.0)	-	1.8	(31.4)	E	密。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒 色粒(0.2~0.4mm)均等	ナデ	布目痕、ナデ	10YR4/1 褐灰	-	-	15	15	良		
5	9	20	1	-	SD-4 27	丸瓦	(6.0)	-	1.8	(76.1)	E	密。白色粒(0.3~0.5mm)少量・黒 色粒(0.1~0.2mm)少量だが均等	ナデ	布目痕	2.5YR6/6 橙	-	-	15	12	良	脚縁部ヘラケズリ	
5	9	21	1	-	1 トレンチ一拵	丸瓦	(8.2)	-	1.8	(83.3)	E	密。白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒 色粒(0.3~1.0mm)少量だが均等	ナデ	布目痕	5Y5/1 灰	-	-	15	15	良		
5	9	22	1	-	SB-1P2 9	平瓦	(10.5)	狭(4.0)	2.5	(179.0)	B	密。赤褐色粒(0.5~1.0mm)微量・ 黒灰色粒(0.3~2.0mm)少量だが均 等	細叩き目痕	布目痕	7.5YR6/3 にぶい褐	6	3	R	9	11	良	脚縁部及び表端面、ヘ ラケズリ
5	9	23	1	-	SB-1P2 7	鉄滓	8.5	4.2	3.5	109.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器あり。底面は、縦いカ ーフを呈する。脚縁部の一 部か	
5	9	24	1	-	SB-1P2 6	鉄滓	7.1	7.0	1.9	94.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磁器あり。底面は、縦いカ ーフを呈する。脚縁部の一 部か	
5	9	25	1	-	SD-4 一拵	鉄滓	5.7	4.1	1.2	52.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	メタル分、多し。底面、縦 いカーフを呈する。脚縁 部の一拵か	

図版 番号	遺物 番号	トイ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	4隅	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細叩き目2×2cm			焼成	制・端 面の特徴	特徴	
						全長	口径	底径							縦糸	横糸	縦糸				
6	10	34	2	-	SK-81	7.1	6.2	1.7	127.4	-				-	-	-	12	14	良	側縁部へラナデ、へラケズリ 上面の磨耗著しい	
7	10	35	2	-	SI-41	15.2	6.8	4.4	(1044.6)	E	密。白色粒(0.3~0.5mm)少量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等・黒色粒(0.1~0.3mm)少量(小環9.0mm)きわめて微量	へラナデ	布目直	7.5Y3/1オリーブ黒	-	-	-	-	-	側縁部へラナデ、へラケズリ	瓦当面、均整唐草文
7	10	36	2	-	SI-46	11.9	-	2.4	(438.1)	E	密。白色粒(0.2~0.7mm)少量だが均等・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	細叩き目直	布目直	7.5YR5/2灰褐	5	3	R	14	12	良	側縁部へラナデ、へラケズリ
7	10	37	2	-	SI-217	7.2	-	2.0	(149.2)	E	密。白色粒(0.3~1.0mm)微量・黒色粒(0.3~0.5mm)少量	格子叩き目直	布目直	10YR4/1褐灰	-	-	-	15	14	良	側縁部へラナデ、へラケズリ
7	10	38	2	-	SM0018	9.3	-	2.8	(245.3)	E	密。白色粒(0.2~0.6mm)少量だが均等・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	細叩き目直	布目直	7.5YR5/2灰褐	4	3	R	10	10	良	側縁部へラケズリ、へラナデ
8	10	52	3	-	SI-76	7.0	-	2.0	(162.6)	E	密。赤褐色粒(0.5~2.0mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	ナデ	布目直	7.5YR6/4にぶい橙	-	-	-	14	11	良	-
8	10	53	3	-	SI-7一括	6.0	狭(8.0)	2.1	(172.9)	A	密。白色粒(1.0~3.0mm)微量・黒色粒(0.3~0.5mm)少量だが均等	ナデ	布目直	10YR7/1灰白	-	-	-	20	15	良	狭端面及び側縁部へラケズリ
8	10	54	3	-	SI-71	15.7	-	2.2	(683.5)	E	密。白色粒(0.3~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~1.0mm)少量だが均等	細叩き目直	布目直	10YR6/2灰黄褐	4	3	R	12	13	良	側縁部へラナデ、へラケズリ
8	11	55	3	-	SI-56	13.7	狭(9.5)	2.1	(505.2)	E	密。白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~1.0mm)少量だが均等	細叩き目直	布目直	2.5Y4/1 黄灰	5	3	R	16	20	良	側縁部へラナデ、へラケズリ
8	11	56	3	-	SI-65	12.1	-	2.3	(282.1)	E	密。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	細叩き目直	布目直	5Y6/1 灰	4	3	L	12	12	良	-
9	11	64	4	-	SI-115	10.2	-	1.8	(235.3)	E	密。白色粒(0.2~0.4mm)少量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	ナデ	布目直	10YR5/1 褐灰	-	-	-	10	9	良	側縁部へラナデ、へラケズリ
9	11	65	4	-	SI-11一括	6.8	-	2.3	(108.2)	E	密。白色粒(0.2~0.7mm)少量・黒色粒(0.1~0.4mm)少量だが均等	ナデ	布目直	7.5YR6/4にぶい橙	-	-	-	12	12	良	粘土板合わせ目あり
9	11	66	4	-	SI-109	6.0	-	2.2	(114.9)	E	密。白色粒(0.2~0.7mm)少量・黒色赤褐色粒(0.1~4.0mm)きわめて微量	ナデ	布目直	7.5YR5/1 褐灰	-	-	-	10	10	良	-
9	11	67	4	-	SI-121	9.6	-	2.8	(248.7)	E	密。白色粒(0.2~0.7mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量・赤褐色粒(2.0~3.0mm)きわめて微量	細叩き目直	布目直	7.5YR6/4にぶい橙	5	4	R	10	10	良	-
9	11	68	5	-	SI-144	23.4	狭10.5	2	(1004.0)	A・B	密。白色粒(0.2~0.4mm)少量・赤褐色粒(2.0~4.0mm)微量	ナデ	布目直	7.5YR5/3にぶい橙	-	-	-	12	10	良	狭端面及び側縁部へラケズリ
9	11	69	5	-	SI-1410	13.4	-	2.1	(403.5)	E	密。白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	ナデ	布目直	10YR3/1 黒褐	-	-	-	18	14	良	-
9	11	70	5	-	SI-147	18.0	-	2.4	(871.3)	E	密。白色粒(0.2~0.5mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量だが均等	ナデ	布目直	5YR3/2 暗赤褐	-	-	-	15	10	良	側縁部へラケズリ、へラナデ
10	11	71	5	-	SI-1414	29.0	広(18.3)	2.2	(2360.0)	E	密。白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.3~0.5mm)少量だが均等	格子叩き目直	布目直	10YR7/4にぶい黄緑	-	-	-	10	11	良	広端面及び側縁部へラナデ、へラケズリ
10	11	73	6	-	SM002B1、SI-146	13.3	広(17.5)	2.3	(773.0)	C	密。白色粒(0.5~0.8mm)少量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	ナデ	布目直	5YR6/6 橙	-	-	-	10	9	良	広端面及び側縁部へラナデ、へラケズリ
10	11	74	-	-	遺構外	15.3	狭(5.3)	1.9	(300.2)	A	密。白色粒(0.3~0.6mm)少量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等	細叩き目直	布目直	2.5Y6/2 灰黄	6	5	R	17	17	良	狭端面及び側縁部へラナデ、へラケズリ 広端面の割れ口部、砥石状の磨耗痕あり

中台遺跡(第3次) 土器観察表

図版 番号	遺物 番号	トイ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
									口径	器高							
18	7	1	-	SI-139	土師器	杯	口縁部~底部	9/10現	12.2	3.9	良	密。白色粒(0.4~1.0mm)微量・黒色粒(0.3~0.8mm)少量だが均等	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	ロクロ調整(底部下端手持ちへラケズリ)	ロクロ調整	
18	7	2	-	SI-180	土師器	杯	口縁部~底部	4/5現	14.0	4.0	良	密。白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等・褐色粒(1.0mm)きわめて微量	7.5YR2/1 黒	7.5YR2/1 黒	ロクロ調整(底部下半部転へラケズリ)	ロクロ調整、ヘラミガキ、黒色処理	
18	11	3	-	SI-199臨床一括	土師器	杯	体部中位	小片	-	(2.8)	良	密。白色粒(0.2~0.6mm)微量・黒色粒(0.3~0.7mm)少量だが均等	5YR6/6 橙	5YR7/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	外面に磨耗あり
18	11	4	-	SI-118、60	土師器	甕	口縁部~脚部上半	1/3現	21.2?	(7.3)	良	密。白色輝粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部ヨコナデ、脚部へラケズリ	口縁部ヨコナデ、脚部へラケズリ	
18	7	5	-	SI-161	土師器	甕	脚部下端~底部	5/6現	-	(3.3)	良	密。白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.4~0.7mm)少量	2.5YR3/1 暗赤灰	2.5YR3/1 暗赤灰	ヘラケズリ	ヘラナデ	
18	7	6	-	SI-133	土師器	甕	脚部下端~底部	4/5現	-	(2.1)	良	密。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.7mm)少量	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヘラケズリ	ヘラナデ	
18	12	7	-	SI-128、(七七)SI-9一括	須恵器	甕	口縁部~脚部上半	1/4現	26.6?	(12.9)	良好	密。白色粒(0.2~1.0mm)少量だが均等・黒色粒(0.3~0.8mm)少量	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	ヨコナデ	ヨコナデ	

相図 番号	型取 番号	遺物 番号	遺物 出牙 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		底径	構成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高								
18	11	8	-	S11	SI-165、(セ7) 582) SI-148	須臾器	瓶用碗	胴部片	小片	-	(1.35)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.3~1.5mm)少量	10YR7/4 灰白	10YR8/2 灰白	ヨコナデ	一部、墨付着。摩耗痕、著しい。 ロクロ調整	大塚破片の転用碗
22	7	19	-	SI2	SI-22	土師器	杯	口縁部~底部	ほぼ定形	13.0	4.2	6.1	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~1.0mm)少量・赤褐色粒(1.0~3.0mm)少量	5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整、下部へラナデ、底部糸切り痕	ロクロ調整	
22	13	20	-	SI3	SI-31一拵、7、 35	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/3残	13.0?	(4.0)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~1.0mm)均等・黒色粒(0.3~0.5mm)少量	7.5YR6/4 に近い橙	7.5YR6/4 に近い橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
22	13	21	-	SI3	SI-337B区一拵	土師器	杯	口縁部~体部中位	小片	-	(4.1)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒(0.3~0.7mm)少量	5YR6/6 橙	5YR7/4 に近い橙	ロクロ調整	ロクロ調整	外面に墨跡あり
22	13	25	-	SK1	SK-11一拵	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/3残	13.8?	(4.5)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR6/4 に近い橙	2.5YR6/4 に近い橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
22	13	26	-	SK1	SK-11一拵	土師器	杯	体部下半~底部	小片	-	(1.6)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.5mm)少量・赤褐色粒(0.8~1.2mm)少量	5YR7/8 橙	5YR7/8 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
22	13	27	-	SK1	SK-11一拵、11	灰釉器	碗	口縁部~体部下半	1/4残	12.6?	(2.5)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.3~0.8mm)少量	10YR6/1 褐灰	5Y5/2 灰オリーブ	ロクロ調整、口縁部~体部中位、灰釉を塗り掛	ロクロ調整、口縁部~体部中位、灰釉を塗り掛	東海産 K90~O53
23	7	32	-	SK5	SK-5 19、(セ7) 582) SK-5一拵、 SI-133	土師器	杯	口縁部~底部	2/5残	12.4?	(4.9)	7.6?	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.5mm)少量・赤褐色粒(0.3~0.8mm)少量	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ロクロ調整、底部糸切り痕	ロクロ調整、底部糸切り痕	
23	7	33	-	SK5	SK-5 7、29(セ7) 582) SK-5一拵、 西ト一拵	須臾器	杯	口縁部~底部	3/7残	13.2?	(4.1)	6.2	良好	縹赤・白色粒(0.4~1.0mm)均等・黒色粒(0.3~0.8mm)微量・赤褐色粒(0.8mm)少量	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/1 褐灰	ロクロ調整、体部下端へラナデ	ロクロ調整	
23	7	34	-	SK5	SK-5 3、15、25(セ7) 582) SI-133、一拵	土師器	杯	口縁部~底部	2/3残	10.7	(3.7)	7.5?	良好	粗・白色粒(0.5~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.8mm)少量・赤褐色粒(0.5~3.5mm)均等	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整	
23	14	35	-	SK6	SK-6 1一拵	細文	深鉢	胴部	小片	-	(4.0)	-	良好	縹赤・白色粒(0.4~1.0mm)少量・黒色粒(0.2~2.0mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	凹形竹管支及び沈線文	条直文	
23	14	36	-	SK6	SK-6 1一拵	細文	深鉢	胴部	小片	-	(3.9)	-	良好	やや粗。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	条直文	条直文	
23	14	37	-	SK13	SK-13 1一拵	土師器	杯	体部下半~底部	1/2残	-	(2.5)	7.0	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.7mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	5YR5/4 に近い赤褐	5YR5/4 に近い赤褐	ロクロ調整、底部糸切り痕	ロクロ調整	
24	8	41	-	遺構外	遺跡一拵	土師器	杯	体部上半~底部	3/5残	-	(4.5)	7.5	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.3~2.0mm)少量	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	ロクロ調整	ロクロ調整	
24	8	42	-	遺構外	表採一拵	土師器	台付籠	台部上端~下端	9/10残	-	(2.7)	7.3	良好	縹赤・白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヘラナデ	ヘラナデ	
24	8	43	-	遺構外	遺跡一拵	カワラケ	小皿	口縁部~底部	定形	4.4	1.4	3.7	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.5mm)少量	10YR7/4 に近い黄橙	10YR7/4 に近い黄橙	ロクロ調整、底部へラナデ	ロクロ調整	
24	14	44	-	遺構外	遺跡一拵	細文	深鉢	胴部	小片	-	(6.5)	-	良好	縹赤・白色粒(0.2~0.6mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	2.5YR3/2 暗赤褐	2.5YR3/2 暗赤褐	沈線で三角形状に区画された中に、管状工具による彫削英文	ナデ	

中台遺跡(第3次) その他観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	ト牙 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	4角	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細甲き目2×2cm		焼成	側・端面の特徴	特徴			
							全長	広・狭端幅							糸	節						
18	12	9	-	SI1	SI-1 89	丸瓦	38.0	(10.4)・ 狭(14.0)	2.3	A・ B・C	縹赤・白色粒(0.3~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	布目痕	布目痕	2.5Y6/1 黄灰	-	14	17	良好	表端面・広端面及び側縁部へラナデ、ヘラナケ	玉縁式		
19	12	10	-	SI1	SI-1 48	丸瓦	(29.4)	狭(2.0)	2	E	やや粗。白色粒(0.2~0.8mm)少量だが均等・赤褐色粒(0.4~0.8mm)少量	布目痕	布目痕	10YR7/4 に近い黄橙	-	12	10	良好	表端面及び側縁部へラナデ、ヘラケズリ	玉縁式		
19	12	11	-	SI1	SI-1 90	丸瓦	38.2	狭10.4・ 広19.7	2.1	A・ C・D	縹赤・白色粒(0.5~4.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.7mm)少量だが均等・白色針状粒(1.0~1.5mm)微量	布目痕	布目痕	10YR6/1 褐灰	-	15	18	良好	表端面・広端面及び側縁部へラナデ、ヘラケズリ	行基式		
20	12	12	-	SI1	SI-1 81、85	丸瓦	(26.2)	狭11.6	1.9	A・B	縹赤・白色粒(0.3~0.7mm)微量・黒色粒(0.2~1.0mm)少量だが均等	布目痕	布目痕	10YR7/1 灰白	-	20	11	良好	表端面及び側縁部へラナデ、ヘラケズリ	行基式		
20	12	13	-	SI1	SI-1 72、94、 98 東ソテ	丸瓦	(27.4)	広(8.0)	1.9	C	縹赤・白色粒(0.1~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.5mm)少量だが均等・白色針状粒(0.3~0.8mm)微量	布目痕	布目痕	10YR6/2 灰黄褐	-	11	10	良好	側縁部及び広端面へラナデ、ヘラケズリ			
20	12	14	-	SI1	SI-1 40、82	丸瓦	(15.7)	広(14.5)	2.3	E	縹赤・白色粒(0.2~1.5mm)均等・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	布目痕	布目痕	2.5Y5/1 黄灰	-	12	13	良好	側縁部及び広端面へラナデ、ヘラケズリ	左側縁部、側口を再成形している		
21	12	15	-	SI1	SI-1 87、91、 98 東ソテ	平瓦	(19.5)	広(17.2)	2.8	D	縹赤・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.5mm)微量・赤褐色粒(1.0~4.0mm)微量	布目痕	布目痕	10YR7/4 に近い黄橙	5	3	R	11	9	良好	広端面及び側縁部へラナデ、ヘラケズリ	

種別	図版番号	遺物番号	ト牙番号	遺物番号	遺物番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	4 周	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細口目 2 × 2cm		焼成	側・端部の特徴	特徴		
								全長	中央厚 ※側面(断面厚)							径	筋				糸	筋
21	13	16	-	S11	SI-1 68		平瓦	22.1	2.3	(1086.5)	C	密。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~1.0mm)少量	細口目目線	10YR7/4 にぶい黄褐色	6	3	R	11	13	良	広端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	
21	13	17	-	S11	SI-1 47、86、83、96		平瓦	23.7	2	(15000)	A・B	密。白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)微量	細口目目線	10YR7/3 にぶい黄褐色	6	3	R	14	11	良	狭端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	
21	13	18	-	S11	SI-1 79、86、88		平瓦	19.2	2.6	(12000)	B	密。白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等	細口目目線	10YR6/3 にぶい黄褐色	5	3	R	9	8	良	側縁部及び狭端部へラナデ、へラケズリ	
22	13	22	-	S13	SI-3 8		釘	7.3	0.4	98	-			-							角釘。一脈、縦木方向の木質。残存か	
22	13	23	-	S13	SI-3 16、20、26		平瓦	10.0	2.3	(442.3)	A	密。白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.4~0.7mm)少量	細口目目線	10YR7/4 にぶい黄褐色	5	3	R	9	10	良	狭端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	
22	13	24	-	S13	SI-3 9		平瓦	10.4	2.6	(490.3)	E	密。白色粒(0.2~0.5mm)少量だが均等・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	扁平格子叩き目痕(影 1)	2.5Y3/1 黒褐色	-	-	-	12	14	良	側縁部へラケズリ	
22	13	28	-	SK1	SK-1 5		盤片	13	0.68	46.9	-			-								
22	13	29	-	SK1	SK-1 2		平瓦	31.7	2.3	(1660.0)	D	密。白色粒(0.3~0.8mm)少量だが均等・黒色粒(0.5~0.6mm)少量	細口目目線	10YR3/1 黒褐色	4	3	R	11	15	良	広端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	
23	13	30	-	SK1	SK-1 3		平瓦	22.7	2.3	(1260.0)	C	密。白色粒(0.2~0.6mm)微量・黒色粒(0.6~0.9mm)少量・赤褐色粒(0.8~3.0mm)微量	格子叩き目線(影 14)	10YR4/2 灰黄褐色	-	-	-	15	13	良	狭端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	
23	13	31	-	SK4	SK-4 10		丸瓦	19.9	1.9	(640.8)	E	密。白色粒(0.5~0.8mm)少量・黒色粒(0.4~0.7mm)少量だが均等	ナデ	10YR7/4 にぶい黄褐色	-	-	-	14	12	良	側縁部へラナデ、へラケズリ	
23	14	38	-	SK17	SK-17 5		平瓦	13.1	3.2	(547.1)	E	密。白色粒(0.3~2.0mm)少量だが均等・黒色粒(0.5~0.7mm)少量	扁平格子叩き目痕(影 5)	7.5YR6/4 にぶい黄褐色	-	-	-	12	11	良	側縁部へラナデ、へラケズリ	
23	14	39	-	P18	P-18 5		銅吊り金具	6.1	2.2	10.9	-			-							2か所に新留め。馬具	
24	14	40	-	P20	P-20 1-一括 2、3、4、5、6、7		平瓦	15.0	2.4	(798.8)	E	密。白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	細口目目線	7.5YR7/4 にぶい黄褐色	6	3	R	8	9	良	側縁部へラナデ、へラケズリ	
24	14	45	-	遺物外	遺跡一括		平瓦	8.6	2.1	(148.3)	E	密。白色粒(0.4~0.8mm)微量・黒色粒(0.5~0.7mm)少量・茶褐色(影 15)	格子叩き目線	10YR7/4 にぶい黄褐色	-	-	-	9	10	良	側縁部へラナデ、へラケズリ	
24	14	46	-	遺物外	遺跡一括		丸瓦	25.7	2.2	(1053.6)	B	密。白色粒(0.3~0.7mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量だが均等	ナデ	5YR5/4 褐色	-	-	-	11	8	良	狭端部及び側縁部へラナデ、へラケズリ	玉縁式

中台遺跡(第4次) 土器観察表

種別	図版番号	遺物番号	ト牙番号	遺物番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考	
										口径	器高								底径
28	14	1	-	S11	SI001 4		土師器	杯	1/3 現	-	(2.1)	10.0?	良	密。白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	2.5YR6/8 橙	5YR7/8 橙	体部下端及び底部、手持ちへラケズリ	ナデ、へラナデ	
28	8	2	-	SK2	SK002 1-一括		土師器	杯	3/7 現	11.0?	3.0	6.0?	良	密。白色粒(0.3~0.6mm)少量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	へラケズリ	へラナデ	
28	14	3	-	SK2	SK002 32		土師器	杯	1/6 現	12.5?	(4.0)	-	良	密。白色粒(0.2~0.6mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	7.5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部~体部下端	口口調整	
28	14	4	-	SK2	SK002 8、29、32		土師器	杯	1/4 現	12.4?	(4.0)	-	良	密。雲母粒(0.3~0.7mm)少量・黒色粒(0.2~0.8mm)少量	5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	口縁部~体部下端	口口調整	
28	14	5	-	SK2	SK002 28		土師器	杯	4/5 現	-	(1.2)	6.2	良	密。白色粒(0.2~0.6mm)少量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	体部下端~底部	口口調整	
28	14	6	-	SK2	SK002 2		須臾器	杯	1/4 現	-	(1.5)	10.2?	良好	密。白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	口口調整、付け高台	口口調整	
28	14	7	-	SK2	SK002 4、26		須臾器	囊	1/4 現	36.0?	(14.1)	-	良好	密。白色粒(0.3~1.0mm)均等・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	N5/0 灰	2.5Y5/1 黄灰	ヨコナデ	ヨコナデ	
28	14	8	-	SK2	SK002 21、33		須臾器	囊	1/8 現	27.0?	(5.0)	-	良好	密。白色粒(0.3~0.8mm)均等・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	5Y4/1 灰	5Y6/1 灰	ヨコナデ	ヨコナデ	
28	8	9	-	SK2	SK002 5、31		須臾器	囊	5/7 現	-	(11.5)	15.0	やや不良	密。白色粒(0.3~1.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	
28	14	10	-	SK3	SK003 6		須臾器	囊	小片	-	(10.0)	-	不良	密。白色粒(0.3~0.5mm)少量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	10B5/8 赤	10B5/6 赤	口縁部ヨコナデ、胸部、口縁部の平形叩き	口縁部ヨコナデ	千葉市城産
28	14	11	-	SK6	SK006 1-一括		縄文	深鉢	小片	-	(6.7)	-	良	密。白色粒(0.5~0.8mm)均等・黒色粒(0.4~0.7mm)少量	2.5YR3/6 暗赤褐色	5YR5/4 にぶい赤褐色	社説で区画された中に、半円形御祭文、沈線の交点に、凹形竹管文	条痕文	
29	8	14	-	P1	Ph001 3		土師器	杯	6/7 現	-	(2.0)	7.9	良	密。白色粒(0.3~0.6mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	口口調整、底面糸切り後、高台貼付け	口口調整、へラミガキ黒色処理	
29	8	15	-	P12	Ph012 2		土師器	杯	4/5 現	-	(3.5)	9.0	良	密。白色粒(0.3~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	2.5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐色	口口調整	口口調整	

中台遺跡（第4次） その他観察表

種別	図版番号	遺物番号	トナリ番号	遺構番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	4 隅	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細叩き目 2 × 2 cm			焼成	側・端面的特徴	特徴	
							全長	中央厚 ※側面(φmm)表示							口径	器高	口径				径
28	15	12	-	SK7	SK007 3	平瓦	(13.1)	狭 (10.5)	2.1	(3390.0)	E	密。白色粒(0.5~1.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量だが均等・赤褐色粒(0.8~2.0mm)微量	布目痕	7.5YR6/4 にぶい 橙	5	R	10	10	良	脚縁部及び底面へラナデ、ヘラケズリ	
28	15	13	-	SK10	SK010 5	丸瓦	(9.0)	-	1.9	(2201.1)	E	密。白色粒(0.5~0.7mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)均等	ナデ	7.5YR7/6 橙	-	-	10	11	良	脚縁部へラケズリ	
29	15	16	-	SD1	SD001 23	平瓦	(11.5)	-	2.4	(5623.3)	E	密。白色粒(0.3~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等	布目痕	7.5YR4/1 褐色	5	R	12	12	良	脚縁部へラナデ、ヘラケズリ	底面は一部、敲打痕ととも面状を認められ、底面が凹み状を呈している。
29	15	17	-	SD6	SD006 1 一拵	磨石	9.9	5.6	3.5	326.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	底面は一部、敲打痕ととも面状を認められ、底面が凹み状を呈している。
29	15	18	-	遺構外	遺跡一括1	丸瓦	(11.6)	広 (12.8)	2	(3960.0)	D	密。白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量	ナデ	2.5Y6/1 黄灰	-	-	11	12	良	右側縁部及び底面へラナデ、ヘラケズリ	
29	15	19	-	遺構外	遺跡一括1	平瓦	(10.5)	-	2.95	(3893.3)	E	密。白色粒(0.2~2.0mm)少量だが均等	布目痕	2.5YR4/1 赤灰	5	R	11	9	良	脚縁部へラナデ、ヘラケズリ	

郡本遺跡群（第26次） 土器観察表

種別	図版番号	遺物番号	トナリ番号	遺構番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考	
										口径	器高								
34	8	15	1	-	SI1	SI001-10	土師器	杯	口縁~底部	3/7 現	12.0?	4.3	86	良	密。白色粒(0.2~0.3mm)少量・灰色粒(0.3~0.5mm)少量	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/6 橙	口縁部ヨコナデ、底部へラナデ	底部
34	8	15	2	-	SI1	SI001-24	土師器	杯	口縁~底部	4/7 現	14.0	5.5	10.4	良	密。白色粒(0.5~2.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部ヨコナデ、底部へラナデ	口縁部ヨコナデ、底部へラナデ
34	15	3	-	SI1	SI001-32	土師器	杯	口縁~体部下端	1/8 現	13.4?	(3.5)	-	良	密。白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部調整	口縁部調整	
34	8	4	-	SI1	SI001-26、27、31、全体一括	土師器	甕か	脚部下端~底部	3/5 現	-	(2.2)	8.2	良	やや粗。白色粒(0.1~0.2mm)均等・石英粒(0.1mm)少量	2.5YR4/4 にぶい 赤褐	2.5YR4/4 にぶい 赤褐	ヘラナデ、強いヘラナデ	ヘラナデ、強いヘラナデ	
34	8	5	-	SI1	SI001-26、27、35、36、37、42	土師器	小型甕	口縁~底部	5/8 現	14.0	12.2	5.6	やや不良	密。白色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR4/3 にぶい 赤褐	2.5YR5/4 にぶい 赤褐	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ	
34	15	6	-	SI1	SI001-18、23、28、30、SI003-6、全体一括	土師器	甕	口縁部~脚部上半	1/3 現	28.0?	(16.4)	-	良	密。白色粒(0.2~0.5mm)少量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量・石英粒(0.3~0.5mm)少量だが均等	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ	
34	15	7	-	SI1	SI001-19、全体一括	土師器	甕	口縁部~脚部上半	1/8 現	20.4?	(6.2)	-	密。白色粒(0.2~0.8mm)少量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ	口縁部ヨコナデ、脚部へラナデ		
34	8	8	-	SI1	SI001-11	須恵器	高台付杯	口縁~底部	1/3 現	16.0?	6.8	10.4?	良好	緻密。白色粒(0.3~1.0mm)少量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	10YR4/1 褐色	10YR4/1 褐色	口縁部調整	口縁部調整	
34	15	9	-	SI1	SI001-6	須恵器	杯	口縁~体部下端	1/8 現	15.0?	(3.7)	-	良好	N3/0 暗灰	N6/0 灰	口縁部調整	口縁部調整		
34	15	10	-	SI1	SI001-17	須恵器	杯	口縁~体部下端	1/8 現	13.6?	(3.2)	-	良好	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	口縁部調整	口縁部調整		
34	15	11	-	SI1	SI001-7、全体一括	須恵器	杯	体部下端~底部	1/6 現	-	(2.6)	10.0?	良好	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)少量	5YR6/1 灰	5YR6/1 灰	口縁部調整	口縁部調整	
34	15	12	-	SI1	SI001-16	須恵器	皿	体部下端~底部	1/3 現	-	(2.2)	7.8?	良好	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)少量	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	口縁部調整	口縁部調整	
34	15	13	-	SI1	SI001-22	須恵器	高台付杯	体部上半~底部	小片	-	(3.9)	-	良好	緻密。白色粒(0.1~0.3mm)少量	10YR7/1 灰白	10YR6/2 灰濁褐	口縁部調整	口縁部調整	
34	15	14	-	SI1	SI001-34	須恵器	蓋	つまみ部	4/5 現	-	(1.7)	-	良好	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)少量	10YR6/1 褐色	10YR6/1 褐色	口縁部調整	口縁部調整	
34	15	18	-	SI1	SI003-4	須恵器	蓋	つまみ部	4/5 現	-	(2.0)	-	良好	緻密。白色粒(0.1~0.2mm)少量	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	ナデ	ナデ	
34	15	19	-	SI1	SI003-3	須恵器	蓋	体部上半~下端	1/6 現	14.2?	(1.8)	-	良好	緻密。白色粒(0.2~0.4mm)均等・灰黒色粒(0.1~0.2mm)少量	7.5YR7/1 明褐色	7.5YR7/1 明褐色	口縁部調整	口縁部調整	
35	16	20	-	SD4	SI004-1 一拵	土師器	杯	口縁~体部上半	1/10 現	14.0?	(2.5)	-	密。白色粒(0.1~0.2mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部ヨコナデ、底部へラナデ	口縁部ヨコナデ、底部へラナデ		
35	16	21	-	SD4	SI004-1 一拵	カワラケ	小皿	体部上半~底部	小片	-	(1.7)	-	密。黒灰色粒 0.1~0.2mm 少量	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙	口縁部調整	口縁部調整		
35	16	22	-	SD4	SI004-11	カワラケ	小皿	口縁~底部	1/8 現	9.6?	(1.5)	5.8?	密。黒色粒(0.1~0.2mm)少量だが均等	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部調整	口縁部調整		
35	16	23	-	SD4	SI004-8	須恵器	壺	底部	小片	-	(1.6)	-	不良	5YR6/6 橙	7.5YR6.6 橙	口縁部調整	口縁部調整		

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高							
35	16	24	-	SD 4	SI004-2	縄文	深鉢	口縁部	小片	-	(3.4)	良	紫、白色粒(0.2~0.4mm)少量・石炭粒(0.1~0.2mm)微量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	肥厚する口縁の直下に、LRの斜線文飾す	ナデ	千葉市城産 9C 初
35	8	25	-	遺構外	全体一括	須恵器	杯	体部上半~底部	1/2 塊	-	(3.7)	良	紫、白色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等・石炭粒(0.2~0.4mm)少量	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	口縁調整、底部外周手持ちヘラズリ、底部凹転差切り痕	口縁調整	
35	16	26	-	遺構外	全体一括	須恵器	蓋	体部上半~下端	1/10 塊	-	(1.8)	良好	緻密、白色粒(0.3~0.8mm)均等・石炭粒(0.1~0.2mm)微量	N2/O 黒	N2/O 暗灰	口縁調整	口縁調整	
35	16	27	-	遺構外	全体一括	須恵器	高台付杯	底部	1/8 塊	-	(1.2)	良好	緻密、白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量	N5/O 灰	N4/O 灰	口縁調整	口縁調整	
35	16	28	-	遺構外	全体一括	須恵器	甕	口縁~頸部	小片	-	(5.0)	良好	緻密、黒色粒(0.3~2.0mm)均等・白色粒(0.5~2.5mm)少量	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	ヨコナデ調整	ヨコナデ	
35	16	29	-	遺構外	カケニン面2	須恵器	甕	口縁~頸部	小片	-	(4.4)	良好	緻密、黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等・灰褐色粒(0.3~0.5mm)少量	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	ヨコナデ	ヨコナデ	

### 郡本遺跡群 (第 26 次) その他観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細目き目 2 × 2cm			焼成	特徴		
							全長	中央厚 ※側(側面厚)						口径	器高	条			節	撫
34	15	15	-	SI1	SI001-33	平瓦	-	1.6	(149.8)	紫、白色粒(0.5~1.0mm)微量・黒色粒(0.3~1.0mm)少量・赤褐色粒(1.0~3.0mm)微量	細目き目	-	-	5	3	R	8	11	良	角釘、一部、横木方向の木質残存か、
34	15	16	-	SI1	SI001-14	釘	0.7	0.6	92	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	角釘、一部、横木方向の木質残存なし。底面は、観、いかに差する。
34	15	17	-	SI1	SI001-20	柳形落	(7.2)	(6.4)	614	(2.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 郡本遺跡群 (第 27 次) 土器観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高							
39	16	1	-	SI1	SI-12 フケ土、SI-5 甕脚	土師器	甕	口縁部~脚部上半	1/10 塊	16.2?	(5.4)	良	紫、白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.4~1.0mm)少量だが均等	7.5YR5/4 にぶい、橙	7.5YR5/4 にぶい、橙	口縁部ヨコナデ、脚部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、脚部ヘラナデ	
39	16	2	-	SI2	SI-2 1-一括	弥生	甕	口縁部	小片	-	(1.5)	良	紫、白色粒(0.2~0.3mm)微量・黒色粒(0.4~0.8mm)少量	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	口縁部、羽状文帯巡る	ヘラナデ、赤彩	
39	16	3	-	SK2	SK-2 1	土師器	甕	口縁部~頸部	1/10 塊	13.2?	(3.2)	良	紫、白色粒(0.3~0.5mm)少量・黒色粒(0.2~0.4mm)少量だが均等	2.5YR5/6 明赤褐	5YR6/8 橙	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	
39	8	4	-	SK4	SK-4 1-一括 3、4、5、6、7、8、9 SK-5 1-一括	土師器	甕	脚部上端~底部	3/7 塊	-	(16.0)	40?	紫、赤褐色粒(0.8~1.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	10R4/6 赤	7.5YR6/4 にぶい、橙	ヘラミガキ、赤彩	ヘラナデ	
39	8	6	-	SK5	SK-5 3、SK-4 1-一括	土師器	小型甕	脚部上半~底部	1/3 塊	-	(4.4)	40	紫、白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	7.5YR5/6 明褐	10R5/6 赤	ハケメ、ナデ	ヘラナデ、赤彩か	
39	16	8	1	-	1トレ1-一括	土師器	甕	脚部下端~底部	3/7 塊	-	(2.3)	70?	紫、白色粒(0.3~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	5YR5/4 にぶい、橙	5YR6/4 にぶい、橙	ヘラナデ、一部ハケメ	ヘラナデ	底部木炭痕
39	16	9	-	遺構外	遺跡一括 3	土師器	杯	体部上半~底部	1/10 塊	-	(3.2)	78?	紫、赤褐色粒(1.5mm)きわめて微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	口縁調整、底部凹転差切り痕	口縁調整	胎土の粒子、細かい

### 郡本遺跡群 (第 27 次) その他観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細目き目 2 × 2cm			焼成	特徴		
							全長	中央厚 ※側(側面厚)						口径	器高	条			節	撫
39	16	5	-	SK4	SK-4 2	磨石	9.9	5.8	2586	-	-	-	-	-	-	-	-	-	磨石として利用後、焼け跡として再利用か	
39	16	7	-	SD 1	SD-1 18	平瓦	(7.8)	2.7	(196.7)	紫、白色粒(0.2~1.0mm)少量だが均等・黒灰色粒(1.0~3.0mm)少量	細目き目	-	-	5	4	R	-	-	良	磨石痕著しい、布目痕跡と現存せず

郡本遺跡群 (第28次)・市原城跡 土器観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	土牙 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周還存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	底径							
42	16	1	1	-	1トレ0019	土師器	杯	口縁部~体部下半	1/10 現	13.0?	(3.2)	-	縹・白色粒(0.1~0.3mm)少量	7.5YR2/1 黒	ロクロ調整	ヘラミガキ、黒色処理		
42	16	2	1	-	1トレ0011一括	須恵器	鉢	体部下端~底部	小片	-	(2.0)	-	縹・白色粒(0.8~1.2mm)微量・黒色粒(0.3~0.8mm)少量だが均等	10YR7/1 灰白	ロクロ調整	ロクロ調整		
42	16	3	1	-	1トレ0012	土師器	高杯	脚盤上端~上端部	6/7 現	-	(9.9)	-	縹・白色粒(0.2~0.8mm)微量・黒色粒(0.1~0.4mm)少量	10R5/8 赤	ヘラケズリ、赤彩	ヘラナデ		
42	16	4	1	-	1トレ0011一括	弥生土器	壺	口縁部	小片	-	(1.7)	-	縹・白色粒(0.5~0.8mm)微量・黒色粒(0.2~0.4mm)均等	7.5YR6/4 にぶい、褐	折り返し口縁部に羽状網文を施す、口縁部下端に指頭押痕による刻み目施す	ヘラミガキ、赤彩		
42	16	5	1	-	1トレ0011一括	弥生土器	壺	頸部	小片	-	(4.2)	-	縹・白色粒(0.2~0.5mm)少量	7.5YR5/3 にぶい、褐	羽状網文を施す。無文部ヘラミガキ、赤彩	ヘラナデ		
42	16	6	1	-	1トレ0011一括	弥生土器	壺	頸部	小片	-	(4.2)	-	縹・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等	10R4/6 赤	羽状網文を施す。下端部に細文原体による刻み目施す	ヘラミガキ、ヘラミガキ、上半部赤彩	7と同一個体	
42	16	7	1	-	1トレ0011一括	弥生土器	壺	頸部	小片	-	(4.0)	-	縹・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.2~0.3mm)少量だが均等	7.5YR5/4 にぶい、褐	羽状網文を施す。下端部に細文原体による刻み目施す	ヘラミガキ、ヘラミガキ、上半部赤彩	6と同一個体	
42	16	10	2	-	2トレ1一括	弥生土器	甕	頸部	小片	-	(2.7)	-	縹・白色粒(0.2~1.0mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量だが均等	7.5YR7/4 にぶい、褐	口縁部棒状工具による刻み目施す、頸部輪積み痕残す	ヘラナデ		
42	16	11	3	-	3トレ0011一括	弥生土器	甕	口縁部	小片	-	(1.8)	-	縹・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.2mm)少量だが均等・赤褐色粒(2.6mm)まわめて微量	5YR6/6 橙	ヘラナデ			
42	8	12	4	-	4トレ0021一括	土師器	高台付杯	体部上半~底部	5/7 現	-	(1.8)	4.5	縹・白色斜粒(0.2~1.0mm)まわめて微量・黒色粒(0.3~0.5mm)少量	5YR6/6 橙	ロクロ調整	ロクロ調整		
42	16	13	5	-	5トレ0011一括	土師器	杯	口縁部~底部	1/3 現	15.2?	(5.5)	7.4?	縹・白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒(0.3~0.6mm)少量だが均等・赤褐色粒(2.0~3.5mm)微量	7.5YR2/1 黒	ロクロ調整	ロクロ調整、ヘラミガキ、黒色処理		
42	8	14	5	-	5トレ0019、1一括	須恵器	杯	口縁部~底部	3/5 現	13.6	(4.0)	6.4	やや粗。白色粒(0.2~0.5mm)少量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等・小礫(2.0~3.5mm)微量	2.5YR4/4 にぶい、赤褐	ロクロ調整、底部外周手持ちヘラケズリ	ロクロ調整	千葉市域産須恵器	
42	16	15	5	-	5トレ0011一括	須恵器	羽釜	胴部片	小片	-	(4.0)	-	縹・白色粒(0.2~0.5mm)微量・黒色粒(0.1~0.3mm)少量だが均等	10YR5/1 褐灰	ヨコナデ	ヨコナデ		
42	16	16	5	-	5トレ0012、1一括	須恵器	甕	口縁部~頸部	1/8 現	26.0?	(10.3)	-	縹・白色粒(0.3~0.8mm)少量だが均等・黒色粒(0.2~0.6mm)少量	10YR5/1 褐灰	ヨコナデ	ヨコナデ		

郡本遺跡群 (第28次)・市原城跡 その他観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	土牙 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細口き目2×2cm		焼成	側・端面の特徴	特徴	
							全長	広・表端幅	中央厚※側(脚面厚)						条	節				擦
42	16	8	1	-	1トレ0011.5	平瓦	狭(6.5)	2.2	(99.8)	-	縹・白色粒(0.2~0.4mm)微量・黒色粒(0.2~0.5mm)少量	ヘラナデ	10YR6/2 灰赤褐	-	-	11	13	良	灰端部ヘラケズリ	光葉寺跡寺中面布目平瓦。布目直、横斜、縦方向の布袋状の織い付け、柱眼の糸に残る。ヨコ方向の工具ナデ工具を止めた痕跡明確
42	16	9	1	-	1トレ0015	板瓦製品	4.4	4.1	0.3	26.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上端部を逆L字状に折り曲げている。左上端部、水頭付着

勝間龍性院瓦窯跡 その他観察表

押図 番号	図版 番号	遺物 番号	トナリ 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	胎土	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	細叩き目 2×2cm			布目 2×2cm			焼成	側・端面の特徴	特徴
							全長	広・表端 幅	中央厚 ※側(0.0mm以下)						条	節	擦	経糸	緯糸				
45	17	1	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	丸瓦	(5.7)	-	(1.7)	(90.7)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	ロクロナデ。	摩耗し不明瞭な 布目痕。布端痕。 擦伴圧痕。	7.5YR7/6 橙	-	-	-	15	-	甘い	側面無調整。分節痕。 行基式。		
45	17	2	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ2 一括	丸瓦	(13.6)	-	2.4	(331.7)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	ロクロナデ。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	2.5Y5/3 黄褐	-	-	-	-	甘い	側面無調整。			
45	17	3	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	丸瓦	(5.1)	-	2.0	(55.2)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	ロクロナデ。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	7.5YR7/4 にぶい、橙	-	-	-	-	甘い	側面無調整。			
45	17	4	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	丸瓦	(5.1)	-	1.6	(48.2)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。サラサラする。	ロクロナデ。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	10YR6/4 にぶい、黄褐	-	-	-	-	良好	側面の凹面側ケズリ、分 節痕。			
45	17	5	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	平瓦	(5.7)	-	2.6	(70.0)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	布目痕。	7.5YR6/2 灰褐	4	3	R	10	13	普通	側面の凹面側ケズリ。		
45	17	6	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ3 一括	平瓦	(4.9)	-	(側)2.4	(53.1)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	布目痕。糸切り 痕。	2.5YR5/1 黄灰	6	3	R	-	-	良好	両側面、両端面破損。		
45	17	7	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ5 一括	平瓦	(7.5)	-	2.1	(130.6)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。サラサラする。	細叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。糸切り 痕。	2.5Y7/3 浅黄	4	3	R	-	-	普通	側面の凹面側ケズリ。		
45	17	8	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	平瓦	(5.9)	-	(側)2.5	(59.7)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。サラサラする。	細叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	2.5Y6/2 灰黄	4	4	R	-	-	普通	両側面、両端面破損。		
45	17	9	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ3	平瓦	(4.6)	広(2.1)	(側)2.3	(61.6)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	布目痕。広端面 側に布端痕。	10Y4/2 灰黄褐	4	3	R	12	12	普通	広端面の凹面側ケズリ。		
46	17	10	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2	平瓦	(8.5)	狭(7.5)	(側)1.5	(126.4)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。サラサラする。	細叩き。部分的 に布目痕。	摩耗し不明瞭な 布目痕。狭端面 側に布端痕。横 骨状の成型右圧 痕。	7.5YR5/3 にぶい、褐	6	3	R	-	-	甘い	側面無調整。狭端面の凹 面側ケズリ。		
46	17	11	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	平瓦	(8.6)	-	(側)2.2	(125.8)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	布目痕。	7.5YR7/6 橙	5	3	R	12	12	甘い	側面無調整。		
46	17	12	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	平瓦	(7.0)	広(5.7)	(側)2.0	(115.1)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。サラサラする。	細叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	10YR6/3 にぶい、黄橙	5	3	R	-	-	甘い	側面と広端面無調整。		
46	17	13	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ7 一括	平瓦	(7.4)	広(1.9)	2.0	(116.7)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	7.5YR5/4 にぶい、褐	8	4	R	-	-	甘い	広端面無調整。		
46	17	14	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ1	平瓦	(13.9)	-	2.9	(541.1)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	平行叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	2.5Y7/4 浅黄	-	-	-	-	10	甘い	両側面、両端面破損。		
46	17	15	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ4 一括	平瓦	(5.9)	-	2.1	(66.7)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	格子叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	7.5YR7/6 橙	-	-	-	-	-	甘い	両側面、両端面破損。 一部打ち欠き痕。瓦源構築材。 安山岩。		
46	17	16	-	2号窯	セ584 龍性院が ヨウ2号ヨウ1 一括	平瓦	長さ 14.4	幅 8.1	厚さ 3.2	385.1	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	-	摩耗し不明瞭な 布目痕。布端痕。	2.5Y7/2 灰黄	-	-	-	-	-	-	-	-	
46	17	17	-	遺構外	セ584 龍性院が ヨウ全体一括1	丸瓦	(5.9)	狭(8.5)	(側)2.5	(132.3)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	ロクロナデ。	摩耗し不明瞭な 布目痕。擦伴圧痕。	10YR2/2 黒褐	-	-	-	-	-	甘い	側面、狭端面無調整。		
46	17	18	-	遺構外	セ584 龍性院が ヨウ全体一括	平瓦	(4.4)	広(4.4)	-	(41.5)	粗い白、黒、褐色砂粒多量、透明砂少量 含む。	細叩き。	摩耗し不明瞭な 布目痕。	7.5YR7/4 にぶい、橙	7	-	R	-	-	甘い	広端面無調整。		

小路前遺跡 土器観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
										口径	器高							
52	9	1	-	S11	黒釉 2トシ 1	土師器	杯	口縁部～底部	4/5 残	13.2	4.0	-	良	7.5YR6/6 褐	7.5YR6/6 褐	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラミガキ	
52	18	2	-	S11	S1001-32	土師器	杯	口縁部～体部下半	1/10 残	14.0?	(3.0)	-	良	10R4/6 赤	10R4/6 赤	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラケズリ、赤彩	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラケズリ、赤彩	
52	18	3	-	S11	S1001 貯ソウ六 2	土師器	杯	口縁部～体部上半	1/10 残	12.4?	(2.7)	-	良	7.5YR4/3 褐	7.5YR2/1 黒	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラケズリ、赤彩	
52	18	4	-	S11	S1001-30	土師器	高杯	口縁部～脚部上半	1/4 残	15.0?	(5.0)	-	良	7.5R4/6 赤	7.5R4/8 赤	口縁部ヨコナデ、杯部及 び脚部ヘラケズリ、杯部 赤彩	口縁部ヨコナデ、杯部ヘ ラケズリ、赤彩	
52	18	5	-	S11	S1001-47、遺構外 1一拵	土師器	高杯	脚部上半部～下部	1/4 残	-	(3.9)	10.0?	良	5YR6/6 褐	2.5YR5/2 灰赤	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
52	9 ・18	6	-	S11	S1001-カマド 19、 20、21、22、23、 遺構外一拵、全体 一拵、カマド一拵	土師器	甕	口縁部～脚部上半	1/3 残	18.4?	(15.0)	-	良	10R4/4 赤褐	7.5YR3/1 黒褐	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	
52	18	7	-	S11	S1001-40	土師器	甕	口縁部～脚部上半	1/10 残	12.4?	(5.3)	-	良	10R4/4 赤褐	10R3/1 暗赤灰	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	被熱し、外面赤色化して いる
52	18	8	-	S11	S1001-42	土師器	甕	口縁部～脚部上半	1/10 残	12.0?	(4.4)	-	良	10R4/4 赤褐	10R4/4 赤褐	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	被熱著しく、器面消耗し ている
52	9	9	-	S11	S1001-カマド 4、 17、18、21、37	土師器	甕	脚部下端～底部	4/5 残	-	(3.5)	7.0	良	10R4/4 赤褐	10R2/1 赤黒	ヘラケズリ	ヘラケズリ	被熱著しく、器面消耗し ている
52	18	10	-	S11	S1001-カマド 4、 5、7、8、9、10	土師器	甕	脚部上半～底部	1/3 残	-	(15.0)	7.0?	良	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	ヘラケズリ	ヘラケズリ	
52	18	11	-	S11	S1001-10	土師器	甕	脚部下半～底部	1/10 残	-	(5.5)	12.2?	良	5YR6/2 灰褐	5YR6/2 灰褐	ヘラケズリ	ヘラケズリ	輪郭み部分で割れてお り、口縁部1.2cm前後欠 け、ラミガキによる粉砂層 があります
52	18	12	-	S11	S1001-56	須恵器	杯	口縁部～体部下半	小片	-	(3.1)	-	良好	10YR7/1 灰白	10YR8/1 灰白	ロケ口調整	ロケ口調整	
52	18	13	-	S11	S1001-1一拵	土師器	甕	口縁部～脚部上半	小片	-	(5.1)	-	良	5YR4/6 赤褐	7.5YR5/4 にぶい、褐	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラミガキ、ヘラケズリ	
52	18	14	-	S11	S1001-62 貼り床 内一拵	弥生	浅鉢	口縁部	小片	-	(1.8)	-	良	5YR5/6 明赤褐	7.5YR6/6 褐	口唇部斜細文、口縁部用 状網文巡り、下端部に結 節文施す	ヘラケズリ、赤彩	
52	18	15	-	S11	S1001-62 貼り床 内一拵	弥生	甕	頸部	小片	-	(3.3)	-	良	7.5YR5/3 にぶい、褐	7.5YR5/3 にぶい、褐	輪郭み痕残す、ナデ	ヘラケズリ	
52	18	18	-	遺構外	遺構外 1一拵	土師器	杯	口縁部～体部下半	1/8 残	14.4?	(2.6)	-	良	7.5YR6/6 褐	7.5YR6/6 褐	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラミガキ、強いヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラミガキ	
52	18	19	-	遺構外	遺構外 1一拵	土師器	甕	口縁部～脚部上半	1/10 残	16.4?	(3.3)	-	良	2.5YR4/6 赤褐	7.5YR6/6 褐	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	口縁部ヨコナデ、脚部ヘ ラケズリ	

小路前遺跡 その他観察表

相図 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm		重量 g	胎土	凹面の特徴	凸面の特徴	色調	細目 2 × 2cm			特徴
							全長	幅						中央厚 mm	糸糸	縦糸	
52	18	16	-	S11	S1001-50	磨石	(4.6)	(3.5)	43.2	-	-	-	-	-	-	-	裏面部の磨耗著しい
52	18	17	-	S11	S1001一拵	ヤリガ ンナ	(16.6)	(0.3)	15.9	(0.15)	(0.23)	(0.16)	-	-	-	-	先端に向かって湾曲している

千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点) 土器観察表

撮影 番号	図号 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm			焼成	胎土	外面色調	内面色調	外面特徴	内面特徴	備考
									口径	器高	底径							
54	18	2	-	遺構外 遺跡一括4一括	土師器	杯	口縁~体部中位	小片	-	(2.5)	-	良	密。黒色粒(0.1~0.2mm)均等・石炭粒(0.2mm)をわめて微量	10YR6/4にぶい・黄橙	10YR6/4にぶい・黄橙	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	
54	18	3	-	遺構外 遺跡一括2	細文	深鉢	脚部下半	小片	-	(8.5)	-	良	密。白色粒(0.3~0.5mm)少量だが均等・黒色粒(0.2~0.4mm)少量・赤褐色粒(0.5~1.0mm)・石炭粒(0.3~0.5mm)少量だが均等	7.5YR5/4にぶい・褐	2条の光線で区画された中に、LRの斜線文飾す	ナデ		

千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点) その他観察表

撮影 番号	図号 番号	遺物 番号	遺構 番号	注記	種別	寸法 cm			重量 g	胎土	凹面の特徴	凸面の特徴	凹面の特徴	色調	布目 2×2cm				焼成	側・端面の特徴	特徴	
						全長	広・表端幅	中央厚 ※側(側面測厚)							細目 糸	粗目 糸	節 数	燃 R				
54	18	1	3	-	平瓦	(6.2)	-	2.2	(116.3)	密。黒色粒(0.2~0.4mm)少量・赤褐色粒(0.4~1.0mm)微量・石炭粒(0.2~0.3mm)少量だが均等	布目粗	細目粗	布目粗	-	4	3	R	8	10	良	-	摩耗著しい



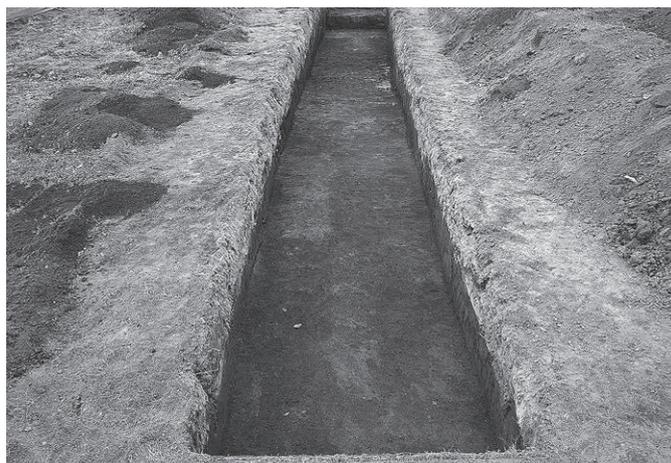
中台遺跡 (第2次) 調査前状況 (東から)



中台遺跡 (第2次) 1トレンチ (南から)



中台遺跡 (第2次) 3トレンチ (南から)



中台遺跡 (第2次) 6トレンチ (北から)



中台遺跡 (第3次) 調査前状況 (南東から)



中台遺跡 (第3次) SI1 東カマド遺物出土状況 (西から)



中台遺跡 (第3次) 作業状況 (西から)



中台遺跡 (第3次) SI1 東カマドソデ瓦構築材出土状況 (西から)



中台遺跡 (第3次) S11 完掘 (西から)



中台遺跡 (第3次) S12、SK1、SK2 完掘 (北西から)



中台遺跡 (第3次) S13 完掘 (南から)



中台遺跡 (第3次) SK5、SK6、SK8 完掘 (南西から)



中台遺跡 (第4次) 調査前状況 (西から)



中台遺跡 (第4次) 作業状況 (南西から)



中台遺跡 (第4次) S11 完掘 (南から)



中台遺跡 (第4次) SK2 断面 (北から)



中台遺跡 (第4次) SK2 遺物出土状況 (北から)



中台遺跡 (第4次) SK2 完掘 (北から)



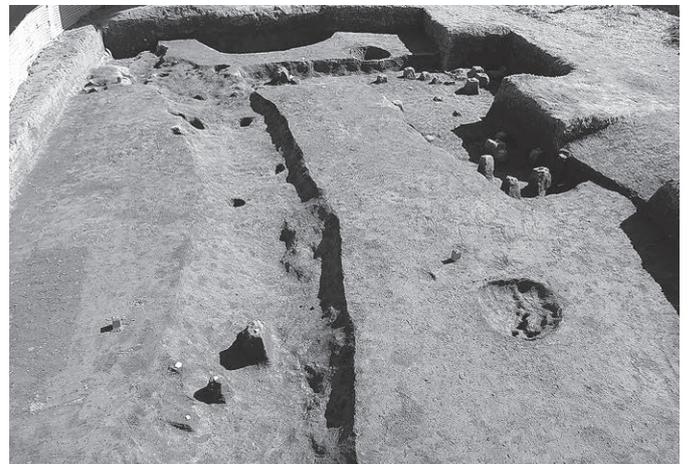
中台遺跡 (第4次) SK5、SK6 完掘 (北から)



中台遺跡 (第4次) SK7、SK8 完掘 (北から)



郡本遺跡群 (第26次) 調査前状況 (北から)



郡本遺跡群 (第26次) SI1、SD4 遺物出土状況 (西から)



郡本遺跡群 (第26次) SI1 完掘 (東から)



郡本遺跡群 (第26次) SD4 完掘 (西から)



郡本遺跡群 (第 27 次) 調査前状況 (南西から)



郡本遺跡群 (第 27 次) 作業状況 (南西から)



郡本遺跡群 (第 27 次) SI1 完掘 (南から)



郡本遺跡群 (第 27 次) SI2 完掘 (南から)



郡本遺跡群 (第 27 次) SK3 完掘 (南西から)



郡本遺跡群 (第 27 次) SD1 完掘 (西から)



郡本遺跡群 (第 28 次) ・市原城跡 調査前状況 (北から)



郡本遺跡群 (第 28 次) ・市原城跡 1 トレンチ (西から)



郡本遺跡群 (第 28 次) ・市原城跡 3 トレンチ (西から)



郡本遺跡群 (第 28 次) ・市原城跡 5 トレンチ (西から)



勝間龍性院瓦窯跡 調査前風景 (西から)



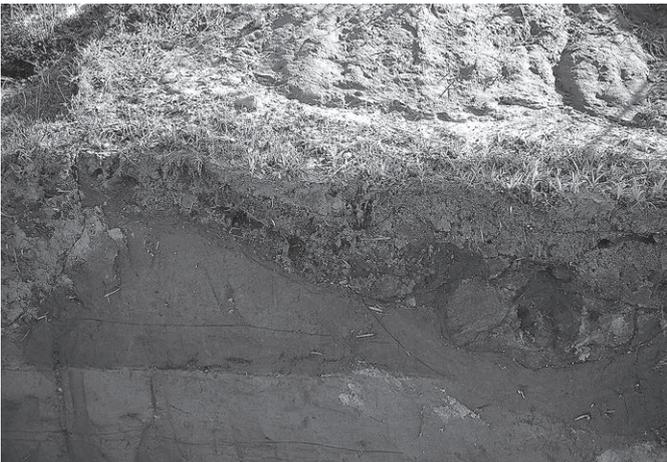
勝間龍性院瓦窯跡 1 号窯・2 号窯遠景 (西から)



勝間龍性院瓦窯跡 1 号窯近景 (西から)



勝間龍性院瓦窯跡 1 号窯窯底近景 (西から)



勝間龍性院瓦窯跡 2 号窯近景 (西から)



勝間龍性院瓦窯跡 2 号窯遺物出土状況 (西から)



小路前遺跡 調査前状況 (北東から)



小路前遺跡 1トレンチ (東から)



小路前遺跡 S11 遺物出土状況 (東から)



小路前遺跡 S11 完掘 (南東から)



千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点) 1トレンチ調査前状況 (南東から)



千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点) 3トレンチ調査前状況 (北西から)



千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点) 1トレンチ (南から)



千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点) 3トレンチ (北から)



中台遺跡 (第2次) 2トレ-27



中台遺跡 (第2次) 3トレ-46



中台遺跡 (第3次) SI1-5



中台遺跡 (第2次) 2トレ-35



中台遺跡 (第2次) 4トレ-57



中台遺跡 (第3次) SI1-6



中台遺跡 (第2次) 3トレ-39



中台遺跡 (第2次) 4トレ-58



中台遺跡 (第3次) SI2-19



中台遺跡 (第2次) 3トレ-40



中台遺跡 (第2次) 6トレ-72



中台遺跡 (第3次) SK5-32



中台遺跡 (第2次) 3トレ-42



中台遺跡 (第3次) SI1-1



中台遺跡 (第3次) SK5-33



中台遺跡 (第2次) 3トレ-44



中台遺跡 (第3次) SI1-2



中台遺跡 (第3次) SK5-34



中台遺跡(第3次) 遺構外-41



中台遺跡(第4次) P12-15



郡本遺跡群(第26次) 遺構外-25



中台遺跡(第3次) 遺構外-42



郡本遺跡群(第26次) SI1-1



郡本遺跡群(第27次) SK4-4



中台遺跡(第3次) 遺構外-43



郡本遺跡群(第26次) SI1-2



中台遺跡(第4次) SK2-2



郡本遺跡群(第26次) SI1-4



郡本遺跡群(第27次) SK5-6



中台遺跡(第4次) SK2-9



郡本遺跡群(第26次) SI1-5



郡本遺跡群(第28次)・市原城跡4トレ-12



中台遺跡(第4次) P1-14



郡本遺跡群(第26次) SI1-8



郡本遺跡群(第28次)・市原城跡5トレ-14



小路前遺跡 SI1-1



小路前遺跡 SI1-6



小路前遺跡 SI1-9

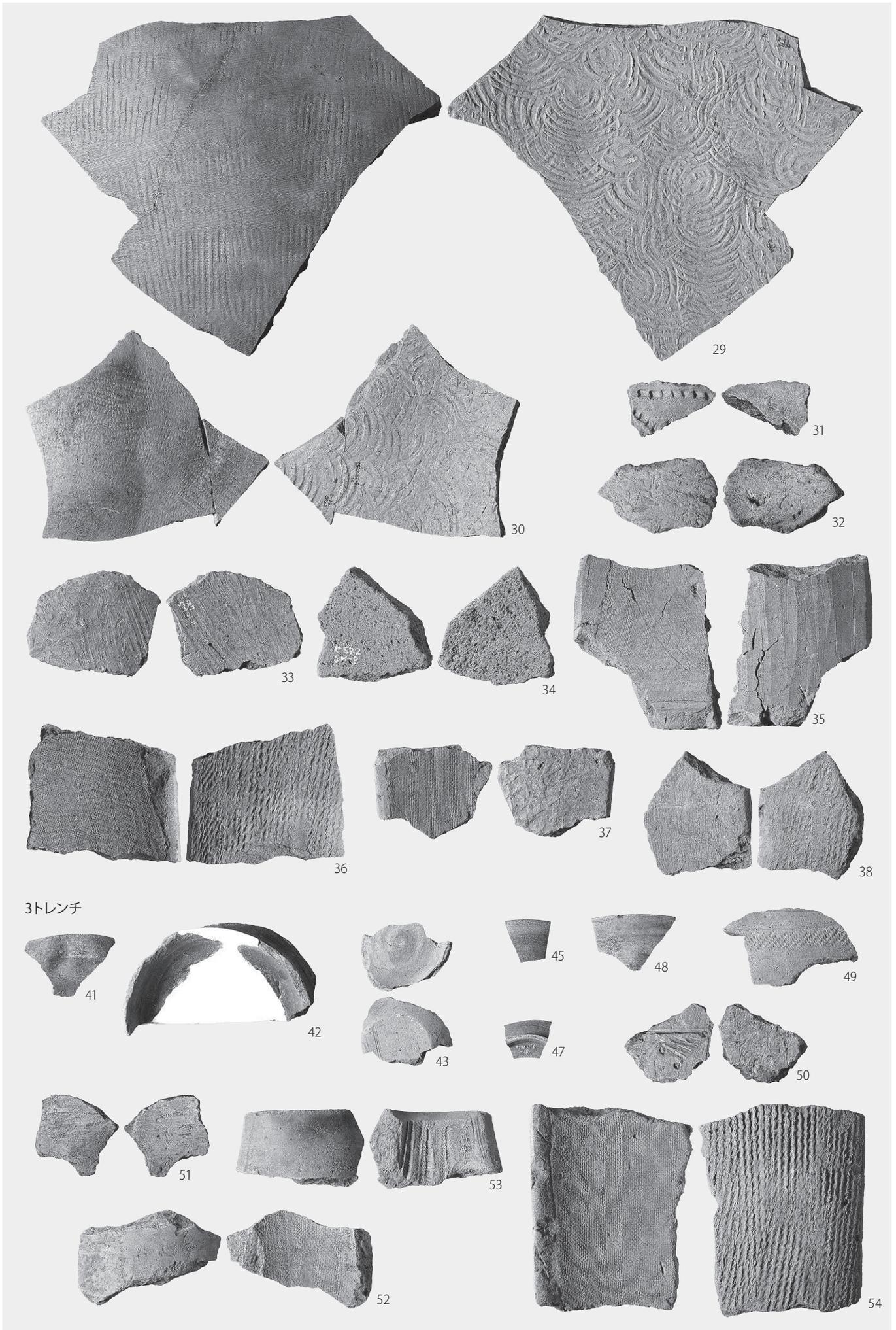
中台遺跡(第2次)

1トレンチ



2トレンチ

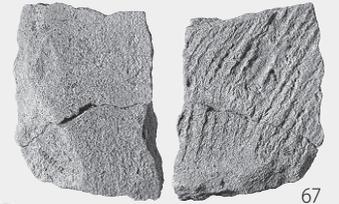
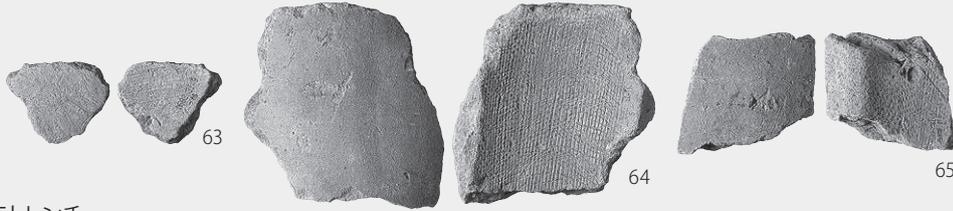




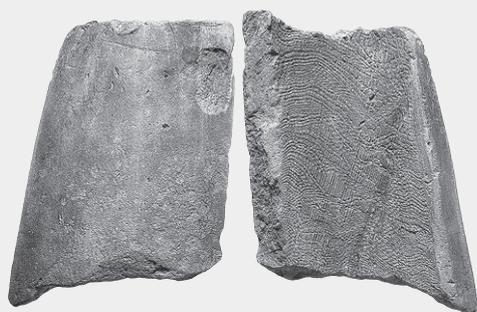
4トレンチ



57 墨書



5トレンチ



6トレンチ



遺構外



中台遺跡 (第3次)

S11



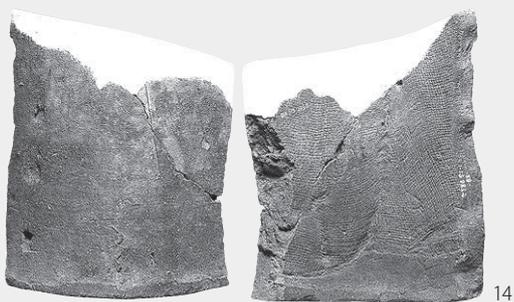
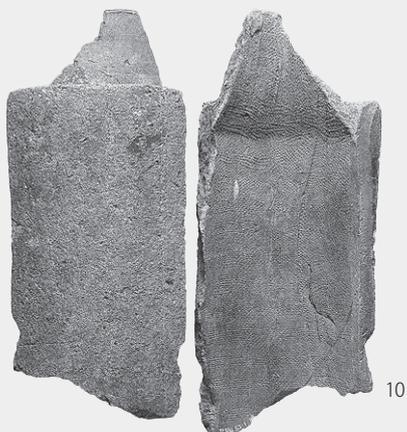
3

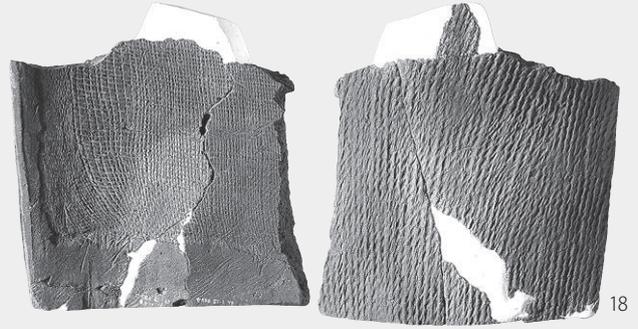


4



8

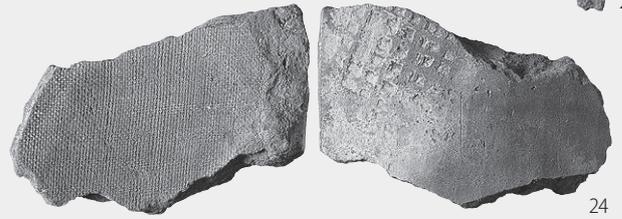
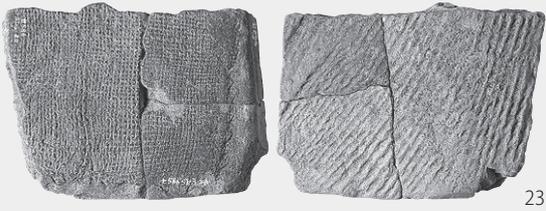




S13



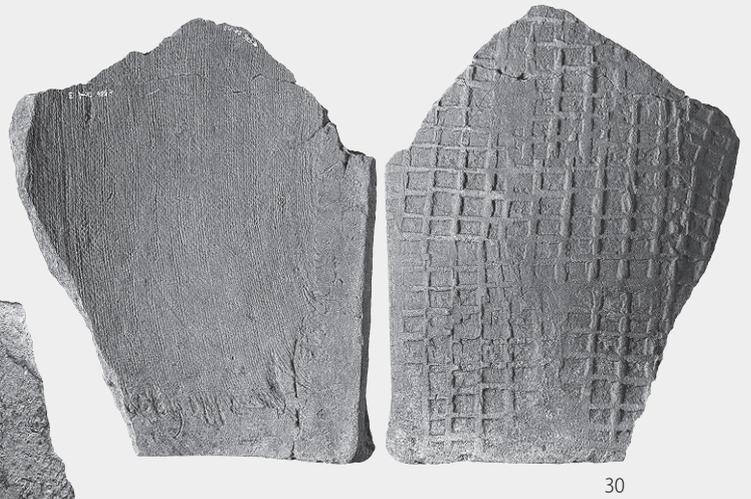
28



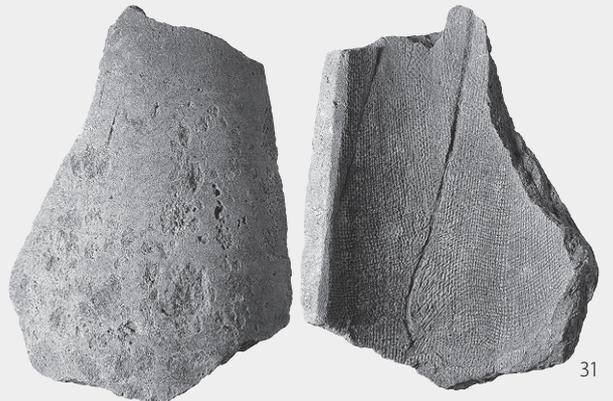
SK1



29

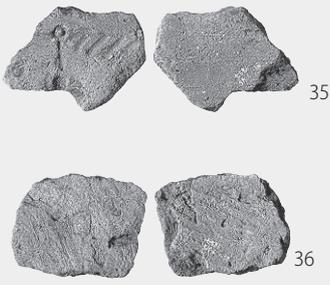


SK4



31

SK6



SK13



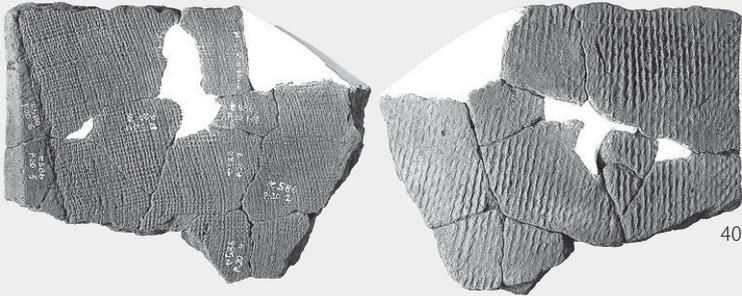
SK17



P18



P20



遺構外



中台遺跡 (第4次)

SI1



SK2



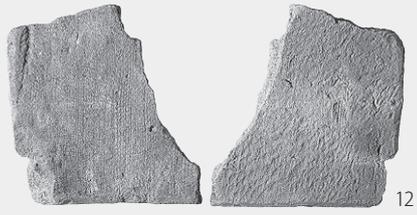
SK3



SK6



SK7



SK10



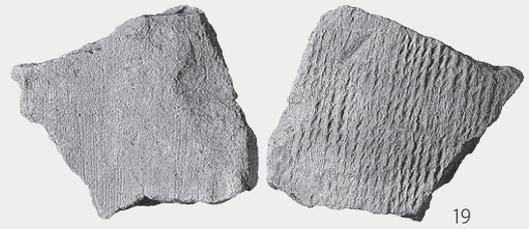
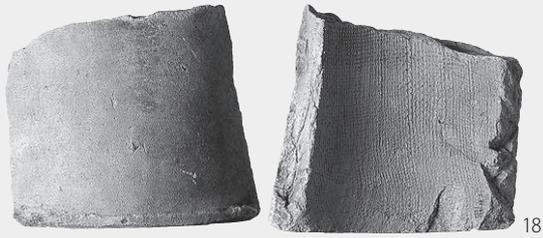
SD1



SD6



遺構外



郡本遺跡群 (第26次)

S11



SD4

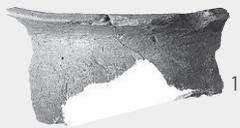


遺構外



郡本遺跡群 (第27次)

SI1



SI2



SK2



SK4



SD1



1トレンチ



遺構外



郡本遺跡群 (第28次) ・市原城跡

1トレンチ



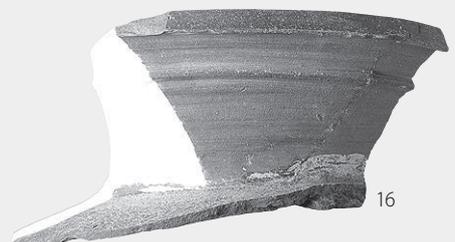
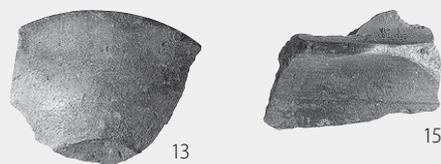
2トレンチ



3トレンチ

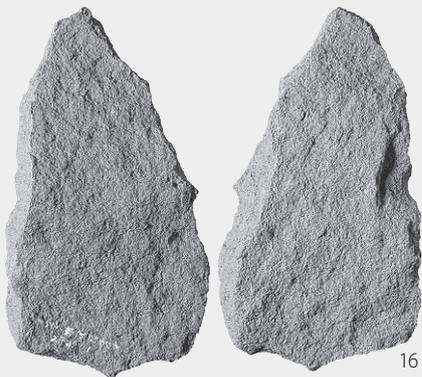
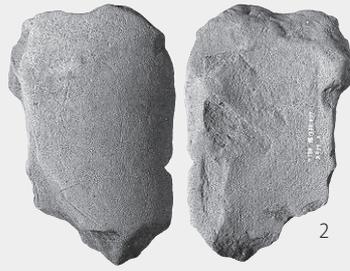


5トレンチ



勝間龍性院瓦窯跡

2号窯



遺構外



小路前遺跡

SI1



遺構外



千草山廃寺跡・千草山遺跡 (第4地点)

3トレンチ



遺構外



報告書抄録

ふりがな	れいわ3ねんどいちほらしなしいせきはつくつちようさほうこく							
書名	令和3年度市原市内遺跡発掘調査報告							
副書名	中台遺跡(第2次)、中台遺跡(第3次)、中台遺跡(第4次)、郡本遺跡群(第26次)、郡本遺跡群(第27次)、郡本遺跡群(第28次)・市原城跡、勝間龍性院瓦窯跡、小路前遺跡、千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)							
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第55集							
編著者名	小川浩一・浅野健太							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000							
発行年月日	2022年(令和4年)3月18日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
なかでいせき(だい2じ) 中台遺跡(第2次)	ちばけんいちほらしそうじゃ 千葉県市原市惣社4丁目11番地10、11、12、13	12219	745	36° 13' 26"	139° 12' 48"	20201208 ～ 20201225	132㎡/1,324.98㎡ (確認調査)	宅地造成
なかでいせき(だい3じ) 中台遺跡(第3次)	ちばけんいちほらしそうじゃ 千葉県市原市惣社4丁目11番地22	12219	745	36° 13' 27"	139° 12' 48"	20210512 ～ 20210617	78.3㎡ (本調査)	個人住宅建設
なかでいせき(だい4じ) 中台遺跡(第4次)	ちばけんいちほらしそうじゃ 千葉県市原市惣社4丁目11番地24	12219	745	36° 13' 27"	139° 12' 48"	20210910 ～ 20210928	63㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(だい26じ) 郡本遺跡群(第26次)	ちばけんいちほらしこおりもと 千葉県市原市郡本2丁目350番地2	12219	793	36° 14' 15"	139° 14' 04"	20210208 ～ 20210225	86.88㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(だい27じ) 郡本遺跡群(第27次)	ちばけんいちほらしふじい 千葉県市原市藤井1丁目70番地4	12219	793	36° 14' 05"	139° 13' 37"	20210706 ～ 20210728	63.74㎡ (本調査)	個人住宅建設
こおりもといせきぐん(だい28じ) 郡本遺跡群(第28次)・ いちほらじょうあと 市原城跡	ちばけんいちほらしいちほら 千葉県市原市市原128番地1	12219	793 ・ 797	36° 14' 20"	139° 14' 27"	20211126 ～ 20211210	49.9㎡/499.87㎡ (確認調査)	建売住宅建設
かつまりゆうしょういんがようあと 勝間龍性院瓦窯跡	ちばけんいちほらしかつま 千葉県市原市勝間889番地の一部	12219	1091-2	36° 16' 17"	139° 11' 20"	20210315 ～ 20210317	3.7㎡/37㎡ (確認調査)	擁壁設置工事
しょうじまえいせき 小路前遺跡	ちばけんいちほらしかいほあざしょうじまえ 千葉県市原市海保字小路前485番地7、485番地4、498番地10の各一部	12219	404	36° 11' 50"	139° 11' 02"	20210412 ～ 20210426	16.8㎡/168.01㎡ (確認調査) 52.16㎡ (本調査)	個人住宅建設
ちくさやまはいじあと 千草山廃寺跡・ ちくさやまいせき(だい4ちてん) 千草山遺跡(第4地点)	ちばけんいちほらしうまんあざにしちくさやま 千葉県市原市能満字西千草山1452番地3ほか	12219	774 ・ 775	36° 14' 17"	139° 13' 13"	20210618 ～ 20210702	85.4㎡/853.73㎡ (確認調査)	その他の開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中台遺跡(第2次)	集落跡	縄文時代、 古墳時代、 奈良・平安時代	縄文時代土坑1基、古墳時代前期竪穴建物跡2棟、古墳時代溝1条、奈良・平安時代竪穴建物跡10棟、平安時代掘立柱建物跡2棟・溝2条・土坑9基		縄文土器、古墳時代土師器・須恵器、奈良・平安時代土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦		隣接する上総国分僧寺に関連すると思われる奈良・平安時代の竪穴建物群を確認した。	
中台遺跡(第3次)	集落跡	奈良・平安時代、 中世、 近世	奈良・平安時代土坑16基、平安時代竪穴建物跡3棟、中世土坑49基、近世溝1条・土坑2基		古墳時代土師器・須恵器、奈良・平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦		平安時代に帰属する竪穴建物跡を検出した。一部の平安時代の竪穴建物跡からは灰釉陶器・緑釉陶器が出土している。	
中台遺跡(第4次)	包蔵地、集落跡	奈良・平安時代、 中世	平安時代竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代土坑2基、中世土坑38基・溝6条		古墳時代土師器・須恵器、奈良・平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦		平安時代に帰属する竪穴建物跡を検出した。	
郡本遺跡群(第26次)	包蔵地、集落跡、 官衙跡、 生産遺跡(鍛冶跡)	奈良・平安時代	奈良時代竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代溝状遺構1条		奈良・平安時代土師器・須恵器・瓦		奈良時代の竪穴建物跡などを検出した。	
郡本遺跡群(第27次)	包蔵地、 集落跡、 官衙跡、 生産遺跡(鍛冶跡)	古墳時代、 奈良・平安時代	古墳時代土坑7基、奈良・平安時代竪穴建物跡2棟・土坑10基、平安時代溝状遺構1条		古墳時代土師器・須恵器、奈良・平安時代土師器・須恵器・瓦		奈良・平安時代の竪穴建物跡を2棟検出した。	

郡本遺跡群(第28次)・市原城跡	包蔵地、集落跡、官衙跡、城館跡	弥生時代、奈良・平安時代、中世	弥生時代竪穴建物跡2棟、奈良・平安時代竪穴建物跡2棟・溝状遺構1条・土坑4基、中世土坑1基	弥生土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器・瓦	溝状遺構が確認された。
勝間龍性院瓦窯跡	生産遺跡	奈良・平安時代	奈良・平安時代瓦窯跡2基	奈良・平安時代瓦	新発見の古代瓦窯跡2基を確認した。
小路前遺跡	包蔵地	古墳時代	古墳時代後期竪穴建物跡1棟・土坑4基	古墳時代土師器	古墳時代後期の竪穴建物跡を検出した。
千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)	集落跡、社寺跡	縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世		縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器・瓦	古墳時代後期の竪穴建物跡、中世の溝状遺構を検出した千草山遺跡第3地点に隣接する。
要 約	<p>今回は、前年度に発掘調査した3遺跡を含めて、市内に所在する9遺跡について整理報告を行った。遺跡の所在地は、北部7遺跡・中部1遺跡・南部1遺跡となっている。中台遺跡(第2～4次)は、上総国分僧寺跡に隣接し、関連する遺構の存在が想定され、調査の結果、平安時代に帰属する竪穴建物跡などが確認・検出された。郡本遺跡群(第26次)(第27次)(第28次)・市原城跡は、市原台地北端の光善寺廃寺跡付近に位置する調査区などを含み、上総国府関連の遺構の存在が予想されたが、調査の結果、平安時代に帰属する竪穴建物跡などが確認された。勝間龍性院瓦窯跡は、遺構の残存状況はよくなかったが、奈良・平安時代まで遡る瓦窯跡が確認された。小路前遺跡は、養老川下流域左岸を望む微高地上に位置し、調査の結果、古墳時代後期の竪穴建物跡を検出した。千草山廃寺跡・千草山遺跡(第4地点)は、千草山廃寺跡の存在が想定されている場所であったが、調査の結果、縄文土器片や奈良・平安時代の土師器・須恵器及び瓦片などが出土した。</p>				

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第55集

## 令和3年度 市原市内遺跡発掘調査報告

令和4年3月18日 発行

編集発行

市原市教育委員会  
市原市埋蔵文化財調査センター  
千葉県市原市能満1489  
TEL 0436(41)9000

印刷

株式会社 弘文社  
千葉県市川市市川南2-7-2  
TEL 047(324)5977